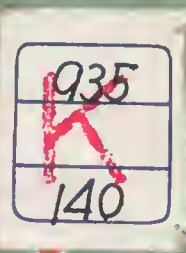


盟邦めぐり

# 戦ふ獨伊の少年



ワット社 刊

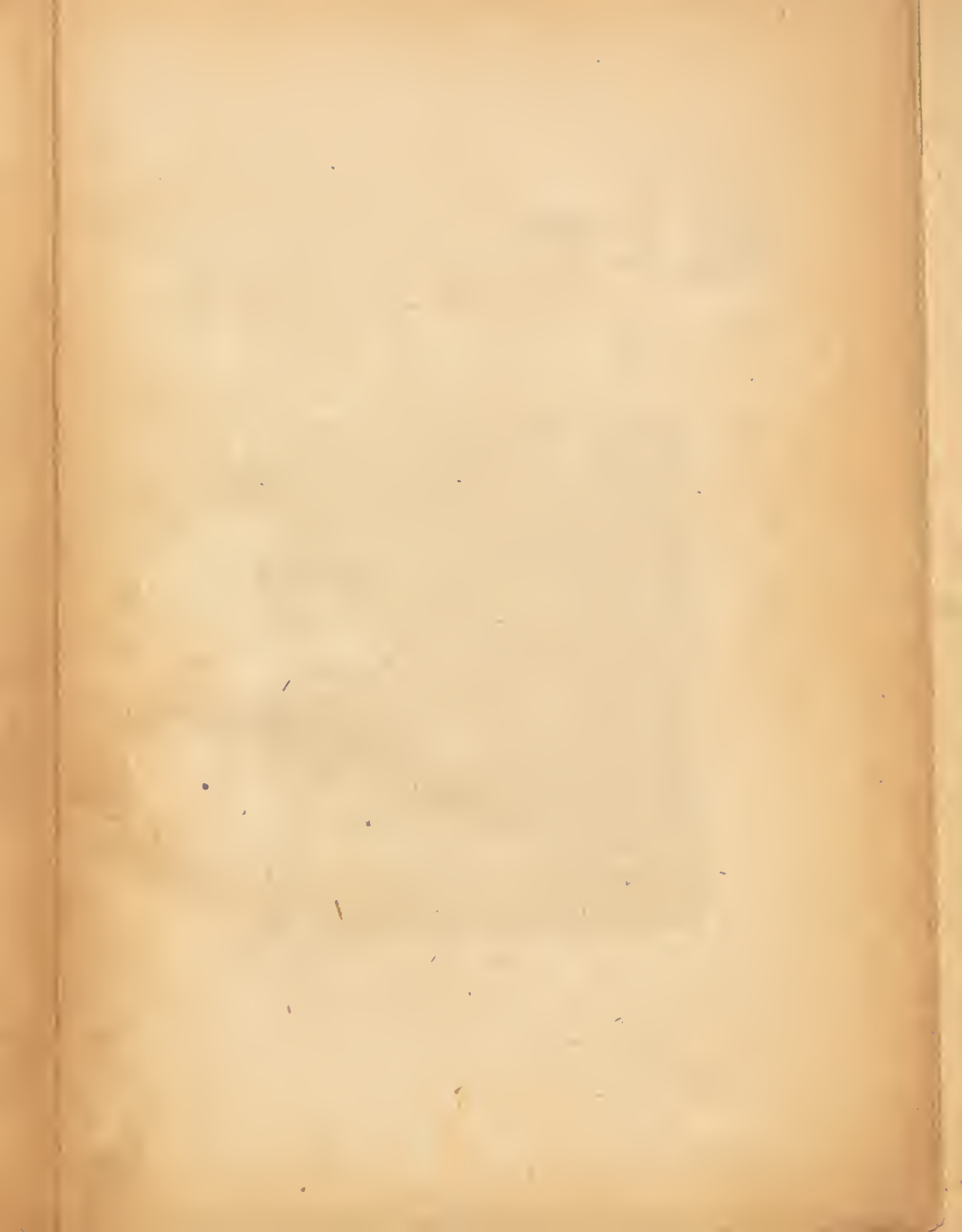
# 少年の伊獨戦

山田民郎



ワット社出版部刊





## まへがき

昭和十六年春、盟邦獨伊を訪問する機會に恵まれた私は、三月末東京を出發し、シベリヤ鐵道によりロシヤを通過、一路ドイツに向ひ、首都ベルリンに第一歩を印したのが四月十一日、それより戰時下のドイツ及びイタリーの主として社會施設や、少國民の鍊成振りを視察、七月下旬再びシベリヤ經由にて、歸國すべく豫定して居つたところ、獨ソ戰爭により歸國の唯一の安全路を遮斷され、一時は當分歐洲に滞在を覺悟しました。しかし、幸ひにも南米經由にて歸國される方が十數人あつたので、その一行に加はり、九月三日ベルリンを出發歸朝の途につきました。當時歐洲より歸國する路は二つあつたのです。一つはポルトガルリスボンに出で、北米に渡り、アメリカ合衆國を横斷、太平洋岸から米國船にて上海に直行、上海から日本船にて歸へる路と、も一つはやはりポルトガルから南米のアルゼンチン國のヴエノスアイレスに渡り、アンデス山脈を越へてチリー國のバルパライソに出で、南米航路の日本船にて歸へる二つの路よりなかつたのです。アメリカはその當時對日感情がかなり惡く、外務省關係以外の一般人の通過は殊にむづかしく、殆んど不可



能だつたので、止むなく私は南米經山の路を選んだのです。平時に於てなら、なにもわざわざ遠まわりする必要もないのですが、やはり動亂の世界狀勢下にあつては、こうしたコースを通るより外仕方がなかつたのです。このために出發前少しも豫期しなかつたスペイン、ブラジル、アルゼンチン等の國々の事情まで窺ふことが出來たのは今回の旅行の大きな收穫であつたと喜んでゐます。

東京を出發してからベルリンに到着するまで丁度二週間であつたのに、歸途は九月三日にベルリンを出發して、横濱に十二月十五日到着するまで百五日。その間船上に居ること八十五日、日本を出で、日本に歸へるまで約九ヶ月、はからずも地球を一廻りしたことがなつたのでした。日本船で太平洋を横斷の途次、十二月八日ウエーキ島の南方六十哩の附近を航行中、日・米英開戰の飛電に接し、米英の魔手を直接見聞して來た私は、心から快哉を叫ぶと同時に身も心も引締まるのをどうすることも出来ませんでした。無防備の船故敵の飛行機、艦艇に發見されればそれまでとあらゆる身仕度をととのへて、一路祖國日本へ直行したのでした。横濱へ着いて落付いた祖國日本の姿を見た時の感激は、永久に私の心を離れることは出来ません。

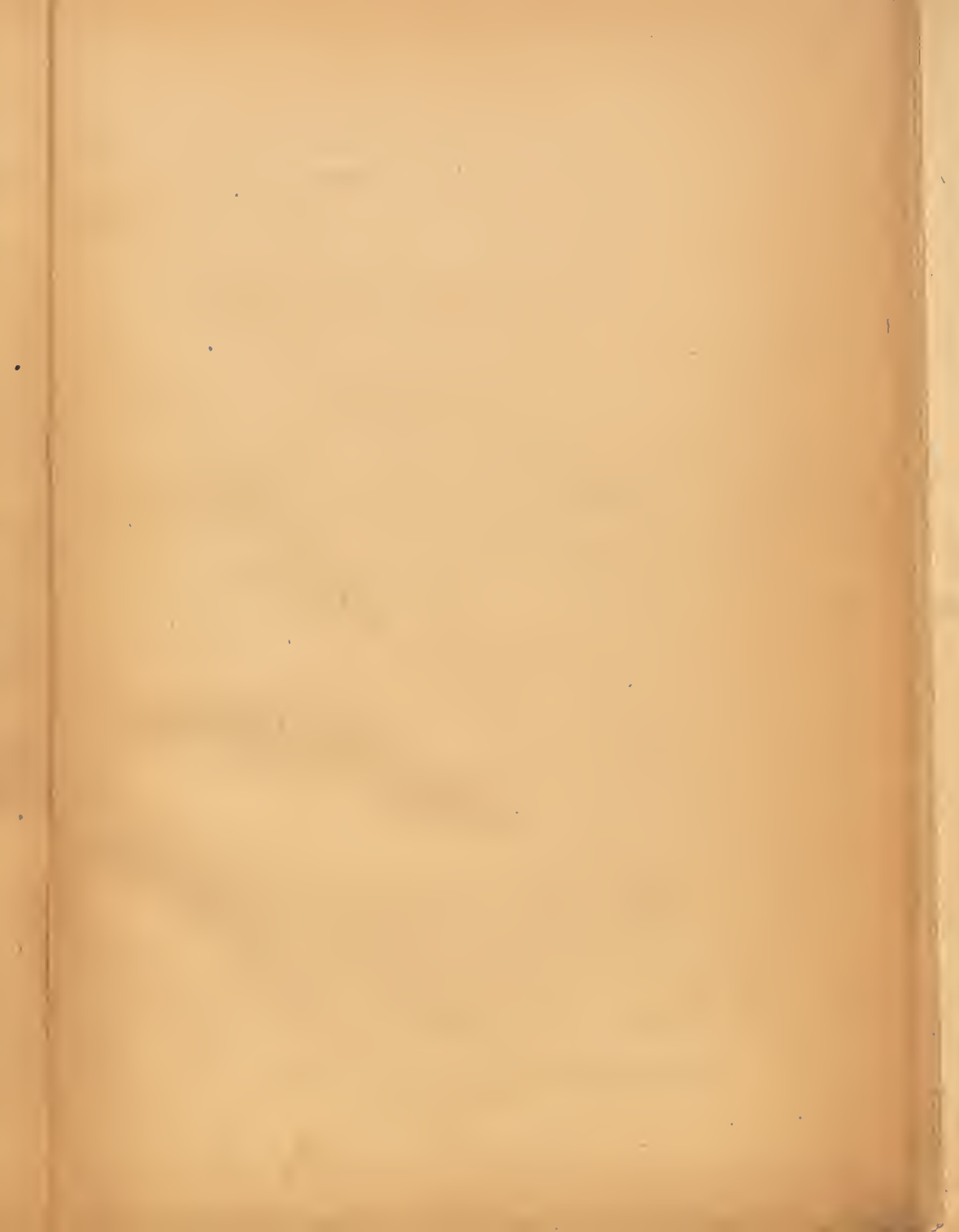
私が、この旅行を終へて後、この眼で見、耳で聞いた戰時下の獨伊や其他の國々の有様

の中から少國民が知つて欲しいと思ふものを、まとめてみたものが本書です。

本書を通して我が少國民諸君が、盟邦獨伊のともだちや、其他の國々の眞の姿を知つてこれを顧み益々智を磨き心を練り、身體を鍛へられて、立派な日本少國民となるのに幾分でも役立つところがあるならば、私の此上ない喜びであります。

昭和十七年十二月

山 田 民 郎



# 目次

まへがき	三
滿洲里まで	六
シベリヤ鐵道	八
モスコーにて	二一
再びロシヤの汽車で	二二
ドイツへの第一歩	二五
ベルリンにて	二七
無名戦死者の墓へお詣りして	一九
空襲下のベルリン	二五
ベルリンの街上で	三七
ハインケル飛行機工場	四〇
勞働奉仕	四四
ベルリンの國民學校	四四

避難兒童收容所訪問	四七
ヒットラー總統とドイツ	五一
イタリーへ	五九
ローマにて	六一
イタリーとムツソリーニ	六三
スバジオ山の植林事業	六四
リットリオの開墾地	六八
イタリーの少年	七〇
南イタリーにて	七六
ベルリン出發	八〇
スイスにて	八三
敗れたフランス	八七
スペインにて	九一
スペインの闘牛	九三
カヂス港とセビラ市へ	九九

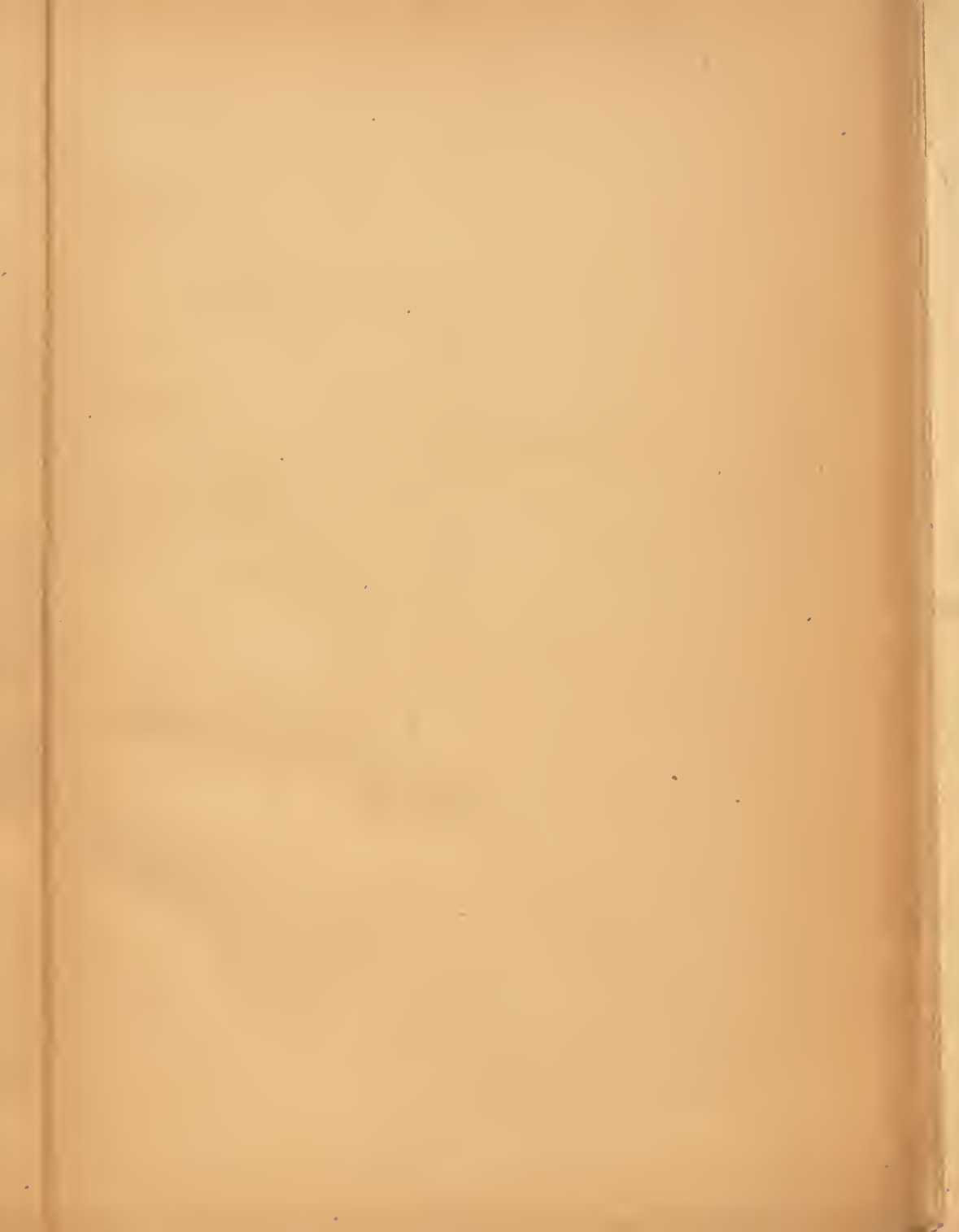


スペインとフランコ將軍	一〇四
スペイン船カボ・デ・オルノス號	一〇六
大西洋横斷	一〇七
英領トリニダット島	一一〇
ラグアイラ港	一一三
キュラソー島	一一五
再び大西洋を南下して	一二七
リオ・デ・ジャネイロ	一二二
サントス	一二六
ヴェノス・アイレス	一二九
再びブラジルへ	一三六
サンパウロ市	一三七
ブラジルの事情	一四〇
なつかしの祖國へ	一四七
あとがき	一五〇

表紙・さしゑ

衛藤忠臣

戦ふ獨伊の少年



## 満洲里まで

春と云つてもまだうすら寒い三月の終り、二十八日の朝、私は東京驛から下關行の急行列車に乗り、住みなれた東京にしばらくのお別れをして、ヨーロッパ訪問の旅に出立しました。沿津を過ぎた頃から、美しい春の富士がまだ雪をいたゞいて、よく晴れた空に大きくそびえたち、丁度私を見送つてゐるようでした。この富士の美しい姿はいつまでも私の頭の中にうつてゐて、この旅行中時々思ひ出しては日本をなつかしむのでした。

下關から二十九日の夜、朝鮮の釜山行の船に乗つて日本内地を離れることになりました。船が港を離れ、下關の町の家々の灯が次第に小さくなつてついに見えなくなると、いよいよ内地とお別れだと云ふことがはつきりして來ました。

翌朝、早く眼をさまして甲板に出て見ますと、もう朝鮮の山々がすぐ目の前に見えてゐました。内地とは變つた家もところ／＼に見えてゐます。船が釜山の港につくとすぐに私は滿洲國新京行の汽車に乗り込みました。朝鮮の汽車は内地のよりも幅が廣くて、乗りごこちは大へんによく、また途中で見える田や品も日本とあまり變つてはゐませんが、たゞ家が土で作つてあつて、こしらへ方がちがつてゐるのが眼につきました。

途中新京とハルビンで汽車を乗りかへて、ひろい／＼滿洲の曠野を走りつゞけ、滿洲國の西北の



端、ロシヤとの國境の町、満洲里にいたのが四月二日の午後二時頃でした。日本ではそろ／＼ぽか／＼と暖かくなつて来る頃なのに、この満洲里はまだ雪があり、それがかちかちに凍つてゐて、その上を寒い



シベリヤから吹いて来る北風がビュー／＼と吹きまくつてゐるのです。外套や襟巻等で身體をついで、まるくなつて驛前のホテルまで走りましたが、吹きつける風は、冷いと云ふよりも耳や鼻が引きちぎられさうに痛く、呼吸をすることも出来ない程でした。しかし、建物は殆んど石や煉瓦で出来てゐて高さも低く、中は暖房装置が大へんによく出来てゐましたので、暖かなホテルの中に入つた私はようやくほつとしました。こゝで一晩泊つて翌日いよ／＼シベリヤ鐵道に乗り込むことになつてゐましたので、その晩この宿で最後の日本料理をたべてゆつくりねました。

翌朝、目をさまして見ますと、よく晴れてはゐますが、風は相變らずはげしく吹いてゐます。日本と同じ味噌のお汁に最後の別れをして驛に行きました。税關の手續きをすませてから、日本から持つて來たお金を全部アメリカのお金（ドル）に取り換へてしまひました。こゝまでは日本のお金でよかつたのですが、ロシヤに入ると日本のお金は使へないのです。そして、それと同じに日本の言葉もこゝ迄で、一步ロシヤの國に入ると、もうロシヤ語が英語でなければ通らないのです。しかしよかつたことは私と一所の汽車でドイツに行く日本人が六人ゐたことでした。四月三日の午後二時この満洲里まで來たロシヤの汽車に私達七人とドイツに歸へるドイツ人三人とロシヤのチタと云ふ町に行く満洲國の領事さんとが乗り込みました。驛長さんやそのほかの人々と別れていよ／＼シベリヤ横斷の旅についたのでした。

x

x

## シベリヤ鐵道

滿洲里を出發したロシヤの汽車は、約二十分ばかりでロシヤの國境の町、オトポールと云ふところへ着きました。私達はこゝでロシヤの役人や税關の人々のいろ／＼の検査をうけて、また汽車に乗り込んだのが午後五時頃でした。

ロシヤの汽車は線路の幅が日本のよりもずっと廣く五呎もあり、車體も日本のより大きいようでしたがみんな木造で、形もあまりよくなく日本の方がよほどよく出来てゐました。私達はドイツにつくまで八日間汽車に乗り續けるわけです。食堂車に行きますと日本では一寸見當らない様な油／＼の料理を出して來るのです。そして肉が朝から晩までなので始めは喜んでゐましたが、だん／＼に飽きて來て、とう／＼いやになつてしまひました。その上新しい野菜や果物が少しもなかつたのですから尙更でした。

時間は毎日一時間づゝおくらせてゐました。ボーイや車掌はロシヤ語でなければわからないのですが、私達のためにロシヤの旅行協會の人が一人乗つてゐて、英語でいろ／＼と川事をしてくれました。その人が時々ニュースをもつて來ては、私達一行に話して下さつたのは嬉しかつた一つでした。

この食堂車で賣つてゐる煙草等を買ふには、ロシヤのお金（ルーブル）でなければだめなので、

この食堂車で賣つてゐる煙草等を買ふには、ロシアのお金（ルーブル）でなければだめなので、

私達はロシアの旅行協會の人に、アメリカの弗<sup>ドル</sup>をルーブルに取換へて、それらのものを買つてゐました。

四月四日の朝早く、シベリヤに入つて始めての一番大きな町チタに着きました。こゝで満洲國の領事さんが一人下車しました。日本人が二三人出迎へに来て居られた様で、日本語の話し聲が聞えたのは大へんなつかしく思ひました。

チタを過ぎると有名なシベリヤの曠野です。どこまでも續く、廣い／＼高原にはまだ雪が積つてゐて、それが凍つてその上を吹きまくつてゐる北風は、満洲里と同じやうに寒いと云ふよりも痛い程で、朝から晩まで強い風が粉雪を吹きとばしてゐました。かたい雪につゝまれた廣い雪野原には家は一つもなく、ところ／＼に木が一、二本あるばかりです。汽車はこのシベリヤの高原をウラル山脈を越えるまで六日間、ひた走りに走りつゝけてゐました。もつともその間にはところ／＼に大きな町がありますが、始めは廣い曠野だなど思ひながら地平線から出て地平線に入る赤い太陽をめづらしく眺めてはゐましたが、明けても暮れても毎日々々同じ景色なのにはあきてしまひました。私達七人の日本人は毎日の様に集つて、いろ／＼の話しをしてたゞ寝て起きてたゞてゐるだけでした。時々大きな町について三十分から一時間位停車してゐる間に、プラットホームに降りて散歩するのがたゞ一つの楽しみでした。そのうちに、汽車はウラル山脈にさしかゝりました。

その頃になつて暫らくぶりで森林を見た時、ようやく人の住む世界に來た様な感じがしました。



ウラル山脈を越えて始めて川を見ることが出来ました。この邊はところ／＼雪がとけてゐて、畑の様なものが見え、人家も少しは見えて來ました。川の流れが大きくなつて來た頃、雪もすっかり消え、太陽の光が暖かくさしてゐるのを見てほつとしました。

## モ ス コ ー に て

四月九日の夕方、汽車はソヴィエツトロシヤの首府であるモスコーに着きました。立派な驛に降りた私達は汽車を乗り換へるために一たん外に出ました。そして、ロシヤの旅行協會のはからひで一行七人は大きなバスに乗つてモスコーの市街を一廻りしました。鐵筋コンクリートの堂々とした建物、それが大抵五六階から十階位の高さで、道幅も廣く立派で、その通りをきれいな無軌道電車が音も立てず、盛んに行つたり來たりしてゐるのです。自動車も高級車がたくさん走つてゐます。またこのモスコーの街には世界で一番立派な地下鐵道が縦横

に走つてゐるのも、モスコー市民の自慢の一つです。私達の乗つたバス

は一番にぎやかな通り







を過ぎて、やがて大きな廣場へ出ました。そこは非常に廣いところで、ロシア

國の記念日には大ぜいの人が集つて、式

をしたり、またよく軍隊の

分列式などがあるとところで

す。この廣場の中央に、今のロシアを

築きあげたレーニンと云ふ人をまつて

ある大きな立派な墓があります。ガラス張り

の棺の中にそのまゝの姿で入つてゐるさうで

す。この建物の入口には兵隊さんが二人番をしてゐ

ました。その墓の後に有名なクレムリン宮殿が一段

と高く聳えてゐます。高い城壁に囲まれた中に建つてゐる

すばらしい宮殿の中で、今のロシアを指圖してゐるスターリンやモロトフがゐるのを思ひ、なんとなく重々しい氣分にうたれました。

市街を一巡した私達は、夕食のために、モスコウの中央街にある一番立派なホテル、メトロポリタンに行きました。そこはすばらしいホテルで、磨きあげた大理石を敷きつめた廣いホール、二階迄迄ぬいた高い天井、さらびやかな飾りをつけた廣い立派な食堂等、何から何まで眼をみはるものばかりです。しかしこのやうな立派なものを見、そしてそこに出入りしてゐる着飾つた人々を見た私は、シベリヤ鐵道を通つてゐるとき、ところ／＼で停つた汽車の窓へ、みすばらしい風をした女、子供が、籠に野菜（大抵は漬けたもの）や卵を入れて賣つてゐた姿を思ひ出して、なんとも云へないいやな氣持になつたのでした。

一休みした私達は迎へに來た大きなバスに乗り、また汽車に乗るために驛へ向ひました。夜のモスコウの市街はまた一層きれいでした。赤や青のネオンサイン、目のさめるやうな飾りの電燈をつけた廣告等、全くの不夜城と云つた感じでした。バスがある街角を過ぎたとき、三十人ばかりの少年が整然と隊伍を組んで一人の引率者に連れられて足並揃へて歩いてゐるのに出會ひました。一所に驛まで送つて來て下さつた日本大使館の方はその少年隊のことを次の様に話して下さいました。――

「今、ロシアでは世界の國々と同じ様に、青少年の教育に非常に一生懸命になつてゐます。なかでも少年にはきちんとした規律の下によく訓練をしてゐます。そしてこの少年達を通して強いロシ

「今、ロシヤでは世界の國々と同じ様に、青少年の教育に非常に一生懸命になつてゐます。なかでも少年にはきちんとした規律の下によく訓練をしてゐます。そしてこの少年達を通して強いロシヤの國を作り上げようと考へてゐるのです。今通つたのは少年労働者ですが、こうした少年労働者にまでも一生懸命訓練してゐます。ごらんのように大へんはりきつてゐるでせう。こうして鍛へられた青少年が大きくなつて、ロシヤの國のために働くやうになつた時のロシヤは、見違へるやうな立派な國になることとせう。」と。

## 再びロシヤの汽車で

モスコーに着いた時に降りた驛とはちがつた別の驛から又汽車に乗つて、この始めて見物した外國の都會モスコーを後にして出發したのがその日の午後十一時でした。晝間の疲れが出たので、すぐに寢臺にはいつてねました。翌朝眼をさまして窓から外を見た私は、今まで見た景色とは違つてゐるのに氣がつかしました。家の建て方が日本の農家に似てゐて、家根なども草薺でなつかしく思ひました。そして、側にある井戸が日本と同じはねつるべ式なのです。私は珍らしく思つてよく調べて見ますと、こゝはもとのポーランド國なのです。皆さんも御存じの様にドイツとロシヤの間に挟まれたこのポーランド國は、昭和十四年の九月、ドイツとの戦争のために、わづか三週間ばかりで敗れ、そのためにこの國はドイツとロシヤが半分づゝに分けてしまつたのです。今通つてゐるところは新らしくロシヤの領土となつたところだつたのです。私はこのポーランドの土地を、今ロシヤの汽車が走つてゐるのを思ひ、戦争には負けてはならないと切に感じました。

夜十二時頃、私達の乗つた汽車は、ロシヤの西の端、ドイツとの國境、もとのポーランド國の町ザレンボと云ふところへ着きました。私達はそこでいろいろの手續きを



済ませて、いよいよ盟邦ドイツの國に入ることになったのです。再びロシヤの汽車に乗つて、私達はこの國にお別れしてドイツの領土に向ひました。

## ドイツへの第一歩



## ドイツへの第一歩

約二十分位走つたでせう。とにかく夜中であつたためと、國境であるために、何も見えないところを走つて、いつのまにかドイツの國境の町マルキナと云ふところに着いてしまひました。こゝで今度はドイツの役人や税關の人の手続きを済ませるのですが、この國境の町マルキナについて始めて見るドイツの軍人さんやお役人さんが脊の高い上に體格ががっちりしてゐて、それに服裝がきりつとしてゐるので、尙立派に見え、頼もしく思ひました。今まで見て來ましたロシアの人も體が大きくがっちりしてはゐますが、なんとなくさりとしたところがありませんでした。それにくらべると、ドイツ人は動作と云ひ、態度と云ひ申し分なく、こうした一寸としたところを見ただけでもドイツの強さを知ることが出来るのでした。

こゝで私達は食券を三日分頂きました。ドイツでは食料が切符制だと云ふことを聞かされてゐましたので、始めて入つた私達旅行者に三日分の食券しか呉れなかつたので、あとをどうするかと思ひました。然し、それは直ぐに解つたことなのですが、ベルリンに着いてから、僅かの時間に手續きをすませて、その日のうちに一ヶ月分の食券を貰ふことが出来たのでした。

この國境の町マルキナでの手續きを終つた私は、今度はドイツの汽車に乗りました。ドイツの誇る鐵道だけあつて、鋼鐵製のがっちりした車です。四月十一日の午前二時マルキナを出發したこの汽車は、一路私の目指すドイツの首府ベルリンへ向ひました。疲れた身體をゆつくりした寢臺の中に横たへて直ぐにねました。翌朝、眼をさますと、汽車はもう舊ポーランド國を通過して、ドイツ



の國の中をひた走りに走つてゐます。一時間  
百十籽位の速さで走つてゐるこの汽車の乗り  
心地は、シベリヤ鐵道の汽車とはまた違つて  
振動も少なく、まるで滑べる様でした。

朝食をとり食堂車に行きますと、ボーイ  
が食券を呉れと云ふのです。旅行者の食券は  
丁度日本の郵便切手の様で、その一つ一つに  
バター五グラム、パン五十グラム、肉五十グラム  
と書いてあつて、それを切つて渡すのです。

切符を渡さなければパンやバターを持つて來ま  
せん。ロシアの汽車の中ではそのようなもの  
を渡さなくても、餘るほどいろ／＼のものをも  
つて來てくれたのと違つて、ドイツでは切  
符を渡した分量だけしかもつて來ないのを見  
て、戦争をしてゐる國のも一つの姿を知ること  
が出來ました。又ロシアの汽車の中では肉

#### ドイツの機械化農業



て、戦争をしてゐる國のも一つの姿を知るこ  
とが出来ました。又ロシアの汽車の中では肉

をたくさん使つてゐましたが、ドイツでは肉が少く肉券百グラムを出して、ごく薄い一切しか持つて来ないのです。そして出してくる料理がジャガ芋と菜つ葉ばかりです。ロシアの汽車の中ではこうした新しい野菜など一度も食べなかつた私は、久し振りに青いものがたべられるのでほんとに嬉しく思ひました。それにロシアのやうなあぶらこい料理と違つて、あつさりしてゐるのが何よりでしたが、しかしドイツにゐる間この野菜ばかりの料理が多かつたのには又閉口しました。やはりいろ／＼取合はせることがよいので、一方にかたよつた料理はすぐ飽きてしまふのです。

汽車はドイツの北部地方の平野を走りつゞけてゐます、窓から見るこの地方の景色は、大陸的な感じがしました。畠は日本のやうに小さく區切つたのでなく、すべて大農式で、一つの麥畠が遙か遠くまでつゞいてゐます。種蒔きも、とりいれも全部機械や馬の力を使つて作業をするのです。出来るだけ機械の力を利用して、少い人手でたくさん收穫をするやうに考へてゐるのでせう。

快適なこの急行列車はやがて滑べるやうに、ドイツの首府ベルリン市に入つて行きました。ベルリンの中央にあるフリードリッヒ・ストラッゼ驛のプラットホームに降りたのは四月十一日の午後二時でした。東京を出發してから丁度十五日目で私は目指すベルリンに感激の第一歩を踏み出したのです。



一先づホテルに落付いた私は早速見物に出かけました。お役所のたくさんあるウイルヘルム・プラッツ（廣場）からヒットラー總統の官邸の前を通り、ポツダムー・プラッツへと歩きました。始めて見るベルリンの市街、日本でいろ／＼聞かされ、また本で見たベルリン、やはりそのとほりでした。街は整然として道路は道幅が廣く、鋪裝されてとてもきれいです。殊に建物が全部五階建てで高さがさまつてゐるのは、いかにもドイツらしいところが現はれてゐました。もつとも、全部五階建てと云つても、教會の屋根とデパートだけは五階よりもなほ高いのですが……。

市内電車は鋼鐵製で、線路は網の目の様で四通八達してゐます。日本では一寸見當らない二階建ての乗合自動車がこの市内電車の通ら

ベルリンの市街



四通八達してゐます。日本では一寸見當らない二階建の乗合自動車がこの市内電車の通ら

ないところをたくさん通つてゐます。この外に世界で最も早く出来たと云ふので、設備こそあまりよくはありませんが、ベルリンの中心と四方の郊外とをつないでゐる地下鐵道、それに鐵道で經營してゐる設備のよい省線電車等が、路面と地下とを縦横に通つてゐます。この様にいろいろの交通機關が發達してゐるのもこのベルリンの特徴の一つでありませう。

市中を歩いてゐる人々も、皆きりつとした服裝をしてゐて、アメリカ式やフランス式のやうな華美な、ぜいたくな服裝をしてゐる者を見かけませんでした。誰もみんな割合にぢみな服裝をして行き來してゐるこのベルリンでは、又だらしないみすばらしい服裝をした人の一人にも出會ひませんでした。

## 無名戦死者の墓へお詣りして

暫らくの間御厄介になるこのドイツ國へ着いて、まづ最初になしましたことは、無名戦死者の墓の參拜でした。ベルリンに住む手続きやら各方面への挨拶をすませた後、早速參りました。ベルリンの中心、有名なウンター・デン・リンデンの通りにある無名戦死者の墓と云ふのは前の歐洲大戰で亡くなつた戦死者、つまりドイツ國のために捨石となられた方々の靈をまつてあるのです。あまり大きくない石造の建物の中央に四角な碑があり、その後十字架が立てられてありました。そして、建物の天井を圓くぬいて、その碑と十字架に光をあてゝある様が、なんとも云へない壯嚴な





無名戦死者の墓へ歩哨兵の交代



感じてでした。私はその碑の前に立って心からドイツのために犠牲となられた人々の靈に默禱を捧げました。

碑のまわりに松岡元外務大臣のお参りした時捧げた大きな花環もありました。その外ヒットラー總統からの花環やその他大小いろいろの花束や花環が一ぱい供へられ、参拜の人々が後から／＼とつゞいて心からお詣りをして行くのでした。

この墓の建物の前には兵隊さんが二人、作りつけの人形のやうに身動きもしないで、厳然と立つてゐます。この歩哨兵全部の交代の時には、鼓笛隊と軍樂隊とを先頭に馬に乗つた士官に引率された兵隊が、堂々とウンター・デン・リンデン街を練つて送られて來ます。これは戦死した方々の靈に對するドイツ國の鄭重な氣持を現したものであると思ひました。



た兵隊が、堂々とウンター・デン・リンデン街を練つて送られて來ます。これは戦死した方々の靈に對するドイツ國の鄭重な氣持を現したものであると思ひました。

## 空襲下のベルリン

前にお話をしましたやうに、ロシアとドイツの國境を通過してマルキナを出發した汽車はすぐに窓のカーテンをおろして、中の灯が外にもれないやうにしました。燈火管制なのです。私はいよいよ戦争の國へ來たと云ふ感じがしました。外を見ましても灯一つ見えません。私は何時英國の飛行機が來るかかわからないので、その用意をしてねましたが、その晩は何もありませんでした。

ベルリンに着いて見ますと、どこに空襲があつたのか解らない程街は整然としてゐました。日本の新聞によくベルリンに空襲があつたことが出てゐましたので、よほど街が壊されてゐるのかと思つて來て見ましたが、まるで違つたこの落付いたベルリンを見て私は不思議に思つたのでした。宿に着いたその晩から空襲の時の用意をしておきましたが、別に何もないのでこれは大したことはないではないかと思ひました。しかし、着いてから丁度六日目の四月十七日の夜、初めての空襲にあひました。それからベルリンを立つて歸へるまでに、何十回と云ふ空襲にあつたのでした。

けれども、英國の飛行機は明るいうちは決して來ないのです。それはベルリンまで來るのにどうしてもドイツ國の上を通過しなければならぬ、そこにはたくさんの防空部隊や飛行機部隊が待機してゐて、晝間ですとすぐ發見されて打落されるからです。それで、空襲のある時は日が暮れてから二時間位たつて、サイレンがなります。それは英國を飛び出してからベルリンまで約二時間かか

るからです。サイレンが鳴ると人々は着物をきて、地下室に降りて行かなければならない規則になつてゐます。一つの建物には大抵地下室がついてゐて、その建物全體の防空室になつてゐます。私もその夜始めての空襲だつたものですから、サイレンが鳴つてから大急ぎで着物を着て地下室に降りて行きました。

東京のサイレンよりも、もつと強い氣味の悪い太いウー／＼と切れ／＼に間をおいて鳴つてから、五分か十分位たつと遠くの方でドンドン／＼ドドンと云ふ高射砲の音が聞え始めます。「あゝ市内に入つて來たな、」と思つてゐるうちに高射砲の音がだん／＼近くなつて來て、とう／＼私の宿の近くの高射砲まで、盛んに彈を打ち出しました。ダン／＼といふ音と一所に彈がバン／＼と破裂する音で耳をつんざかれるやうです。その度に窓ガラスはビリッビリッビリッビリッといひます。この烈しい音の間にブウ／＼と云ふ金屬的なプロペラの音が聞えて來ます。英國の飛行機だと思つてゐると、やがてゴォーンと云ふ地ひび



ビリッビリビリッといゆれます。この烈しい音の間にブー  
ンと云ふ金屬的なプロペラの音が聞えて來ます。英國の飛  
行機だなどと思つてゐると、やがてゴォーンと云ふ地ひび

きが聞えました。あゝどこ

かに爆彈が落ちたのだなと思  
つてゐると、益々烈しく高射砲の音がする  
のです。しかし地下室にゐるドイツ人は割

合に平氣なやうです、居眠りをしたり、話合つたりし  
てゐました。だが始めて空襲にあつた私は、この物凄  
い音には、あまりよい氣持はしませんでした。

しかし、何回もそうした空襲にあつてからは、だん／＼に慣れて來  
まして、八月頃になつて割合に平氣になり、後には時々空を仰いで見  
るやうになりました。たくさんのドイツの照空燈の間に挟まれた英國  
の飛行機を見出した時は、英國もなか／＼やるなと思ひました。時々  
英國の飛行機から投下される照明彈によつて、眞暗なベルリンが灯がついた  
やうに明るくなるのはびつくりしました。それでかなりの高さから明るく  
なつたベルリンの重要な工場、建物、鐵道等をねらつて爆彈を落すようです  
が、時々ねらひがはずれて民家にあたることがあるさうです。私がベルリン

へ着いた二日前の空襲の時、ウンター・デン・リンデン街にある國立オペラ劇場に爆彈があたつて

がら／＼になつてしまひました。空襲は夜が明けかゝる一、二時間前に大抵終つてしまひます。それは夜があげないうちにドイツの國を出てしまはないと、ドイツの飛行部隊や防空部隊に打落される危険があるからです。足もとの明るいうちに歸るのではなくて、足もとの暗いうちに英國の飛行機はさつさと歸つてしまふのです。

空襲のある間とはにかく地獄です。それはどこへ間違つて落ちるかわかりませんから。しかし前にも云つたように英國の飛行機は大體明け方近くになつて、去つてしまふので何時頃になると解除になると云ふことがわかつてそれが楽しみです。解除のサイレンが長くなりますと皆安心してそれから一しきりぐつすりと眠ります。ドイツでは空襲の翌朝は學校、會社、役所等は一時間おそく始まることになつてゐますから――。

朝になると昨晚の大空襲など誰もかも忘れたやうに皆働き出します。臺所の方では朝食のための仕事が始まりますし、勤めに出る人は勤めに出て、昨日のことは忘れたやうに皆明るい元氣な顔でその日の活動を始めます。何と云ふ落付きのある國民だらうと實に私は感心しました。もちろん戦争が始まつてからあつた空襲のために慣れてはゐることでせうけれども、しかしそればかりではなく、もつと大事なことは皆用意があるからだと云ふことがわかつたのです。

つまり空襲があれば必ずサイレンがなります。警備の人が見損ふことはないのですからそれを絶對に信じてゐます。そしてサイレンが鳴れば警官は街の見張りにつきますし、防空部隊は部署につ



く、もつと大事なことは皆用意があるからだ」と云ふことがわかつたのです。

つまり空襲があれば必ずサイレンがなります。警備の人が見損ふことはないのですからそれを絶對に信じてゐます。そしてサイレンが鳴れば警官は街の見張りにつきましますし、防空部隊は部署につき、消防自動車もすぐ出られるやうに準備します。一つ建物の中の人々は日本の隣組のやうに消火防護、看護などを分擔して、防空室で待機してゐます。前にもお話ししましたやうに、サイレンが鳴つてから五分か十分位たなければ英國の飛行機は、ベルリンの市街には入つて來ないのですから、その間に充分仕度をして、ねる時に必ず枕もとにおいてある大事なものを入れたカバン（その中には一寸した食事の用意までしてあります）を持つて、地下室に降りて行けばよいのです。そこに居れば絶対に安全と云ふわけではありませんが、まづ安全なのです。若し地下室に入つてゐて、爆彈にあたつて死んだ時は、戦死と同じやうに扱つてくれますが、地下室に降りて行かないで死んだら怪我をしたりしましても、何もみてくれないのです。こうしたことによつてベルリンの市民は「われに用意あり」と云ふことをはつきりと信じてゐるために、落付いてゐるのだと云ふことがわかつたのでした。

ベルリンにゐる間、私は空襲に何十回となくあひ、一度は宿から二三町離れた所に落ちてあまり大きな音がしたので、自分もやられたかなといふ氣がしましたが、度々こうした空襲をうけながら私はいつも無事でした。それからベルリンには三百人ばかり日本人が居りますが（その中には戦争前から居る人もかなりゐます）まだ一人も怪我をしたり、又死んだ人はありません。恐ろしくそして烈しい空襲のあるベルリンに居るたくさんの方の日本人がまだ一人も爆彈にあたつてゐないと云ふことを知ると、爆彈などと云ふものはさう滅多にあたるものではないと思ひました。ベルリンの全部の



ドイツ少年防空隊



が滅茶苦茶になつてしまひませう。

日本の神社などに鳩がたくさん居りませう。私達が神社にお詣りに行きますと、この鳩が群をなして飛んでゐますが、その下を通つてもその鳩の糞には、滅多にあたるものではありません。丁度空襲もそれと同じです。また夏になるとよく雷がなりますが、ひどい雷になりますと必ずどこかに落ちるものです。が、しかしその落雷にも滅多にあたるものではありません。私が、ベルリンに在る日本の新聞社の支局に遊びに行つたとき、その支局の方が、「山田さんベルリンの空襲の感じはどうですか」とお尋ねになりましたので、私はすぐに「丁度日本によくある雷のやうです」と答へました

人口約四百五十萬人と云はれてゐますが、この人々を皆やつつける程の爆彈を、到底もつて來ることは出来ません。爆彈が或る場所に落ち、そのために何人かの死傷者を出したとしても、それは四百五十萬分の何人かであります。そのために四百五十萬人の人が皆自分にあたるやうに考へて騒いでゐては、ベルリン市全體

ちるものです。が、しかしその落雷にも滅多にあたるものではありません。私が、ベルリンに在る日本の新聞社の支局に遊びに行つたとき、その支局の方が、「山田さんベルリンの空襲の感じはどうですか」とお尋ねになりましたので、私はすぐに「丁度日本によくある雷のやうです」と答へました

ところ、その人は「それは大へんに面白い見方ですね……」と云つて大笑ひされました。焼夷弾はベルリンでも屋上に落ちたのをその家の婦人が毛布にくるんで、通りに投げてほめられたと云ふ話を聞きましたが、焼夷弾はやく處置をすればなんでもないドイツ人でも云つてゐます。ベルリンでは開戦以來千數百の焼夷弾が落ちましたが、そのうち約九割が未然に處理されたと云はれてゐます。

日本でも今戦争をしてゐますので、敵機は又必ず來ることです。近代の戦争では國土國民も第一線です。しかし、いくら敵機が來ましても、前にお話しましたやうな氣持でいつも用意をして居れば、空襲など少しも恐ろしいものではありません。ベルリンで經驗しました空襲からして、爆弾などは鳥の糞や雷の様なものだと思ひますと同時に、用意さへあれば何でもないと云ふことがはつきりとわかつたのでした。

ドイツのベルリンにくらべれば、イギリスのロンドンの方がもつと烈しいと聞いてゐます。神國日本の人達が空襲のために、あわてたり逃げたりしては、米、英の笑ひ物になつてしまふことをはつきり思ひ直し、しつかりと用意をして「さあ來い」と身がまへてゐれば、たとへ敵機が來ましても何も出來ないと思ひます。

## ベルリンの街上で

ベルリンは前にもお話ししましたやうに、省線電車、地下鐵道、市内電車、バス等が實によく發達

して、街と街との間を細かく走つてゐますので、朝や夕方などかなり混合つてはゐますが、東京のやうに殺人的な混雑はあまり見ませんでした。それは一寸歩けば電車かバスが通つてゐる街路に出られますので、自分の行かうと思ふところへは乗り換へなして大抵は行けるやうに細かく走つてゐて、一二分歩けばもう次の電車通りに出られるからです。そして、この電車やバスがお互ひに連絡してゐて、一枚の切符でどの乗物にも乗りかへが出来るのも便利なことでした。

道路は幅が廣い上に立派な舗装で、掃除が行き届いてきれいでした。大きな街路樹が至るところに植ゑてあつて、その上、街角の廣場には必ず小さな公園のやうなところがあります。そこには花壇があり、木もたくさん植ゑてあつて、ベンチまで備へ付けて休息出来るやうになつてゐます。このベンチは長くて何人も腰かけられるのと、一人しか腰かけられないのと二通りあります。私があつた時その一人用のベンチに腰かけてゐますと、そこへ一人の婦人が來まして、切符のやうなものを出して「五ペニツヒ（日本の五錢位のお金）を下さい」と云ふのです。私はなんのことだかわかりませんでした。他にも大ぜいドイツ人がゐるものですから、出さないでへんに思はれてもいけないと、しかたなく五ペニツヒを出してやりましたら、その婦人はその切符を私に渡して、また次のベンチのドイツ人のところへ行つて、私と同じやうなことをしてゐるのです。どうも氣になつたのでよく調べて見ますと、その一人用のベンチを使用した人は一回五ペニツヒの料金を拂ふのださうで、その婦人はそれを集める人なのです。長い方のベンチはそのやうなことがなく自由です。私は

ベンチのドイツ人のところへ行つて、私と同じやうなことをしてゐるのです。どうも氣になつたのでよく調べて見ますと、その一人用のベンチを使用した人は一回五ベニツヒの料金を拂ふのださうで、その婦人はそれを集める人なのです。長い方のベンチはそのやうなことがなく自由です。私はベンチに腰かけて料金をとられたのは生れて始めてでした。

ベルリンは日本の、樺太とロシアとの國境である北緯五十度の線よりももつと北の方にあたりますので、冬の間が大變長く、その間は大抵毎日々々灰色の雲が低く一面に空をおほつて、太陽の光を見ることは殆んどないさうです。長い冬の間にくらべて、夏がまた短く、私は五月の終り頃まで外に出る時には冬の外套を着て歩いた位です。ですから冬の長い間あまり太陽の光に恵まれないドイツ人は、短い夏の間に努めて太陽の光にあたる様にしています。休日などベルリンの郊外は、市民の群で一ぱいで、殆んど皆草原の上に半裸體になつて日光浴をしてゐるのです。また晴れた日など市内の公園や廣場のベンチは、人が大ぜいゐてのんびりと日光浴をやつてゐます。一寸見ると随分ベルリンの人は吞氣のやうに見えますが、さうした太陽の光に恵まれないことを考へますと、氣の毒のやうに思ひました。日本の様に一年中太陽の光に恵まれてゐる國は、なんと幸せだらうかと思はずにはゐられませんでした。そのためか、足の悪い人がかなり多い様でした。よく街上を自分の手で動かす小さな車に乗つて、歩いてゐるのでなく走つてゐる人を見かけました。また、せむしのやうな人も時々見かけました。やはり日光の足りないせいではないかと考へられます。


五月の中頃になると、やうやく木の新芽が出て街路樹が一せいにうす緑になります。が、やはり太陽の光の弱いためか、日本のやうに新緑になつてから間もなく、濃い緑の葉になつてしまふやうなことがなく、このうす緑の間が非常に長いのです。そして、木によつては濃くないうちに、冬





をむかへるのもあるくらいです。

この街路樹がうす緑につゝまれた頃のベルリンの気分は實にすばらしいものです。どこの街へ行つても、大きな街路樹がみんなうす緑にかざられ、それが丁度トンネルのやうに街路をおほつて、その葉の間から太陽の光がさしてゐる様はほんとうに繪のやうな美しさです。郊外はこうしたうす緑の森や林が至るところにありますので、この新緑の時にベルリンを訪れた人は永久に美しいベルリンを思ひ出すことでせう。しかし、この美しい緑につゝまれたベルリンも、九月頃にはもう冬のきざしが見えて來るのださうですから氣の毒でなりません。このためでせう、果物でも充分に果物の味がつかないうちに取入れるやうになると云



るのださうですから氣の毒でなりません。  
このためでせう、果物でも充分に果物の味  
がつかないうちに取入れるやうになると云

ふことです。ドイツではリンゴはたくさんありますが、相当大きくなつて、これから熟さうとする頃には、もう太陽の光が弱くなつてしまふのです。ですからドイツのリンゴはまづいと云ふよりもほんとうのリンゴの味がしないのです。このやうなものをたべなければならぬドイツ人のことを思ふと、日本の恵まれてゐることをつくぐとありがたく感ずるのでした。

このやうな美しい新緑のベルリンでなほ一層私を喜ばしたことは、いろ／＼の小鳥が非常にたくさんゐることでした。さまざまな色や形のたくさんの珍らしい小鳥が、新緑の木々の間を美しい鳴聲でさへづりながら、とびまわつてゐるのもベルリンのなつかしい思出の一つです。そして、これらの小鳥をベルリンの人々は太へんに可愛いがつてゐるやうでした。郊外の家の庭の木には大抵小さな小鳥用の巣箱がしばりつけてあります。こうしたところにもドイツ人の自然を愛する氣持があることがうかがはれました。このやうな環境に育つたベルリンの子供達が、小鳥をいぢめてゐるところを一度も見ながつたことは、當然なこととせう。公園や廣場のベンチに腰かけてゐると、その足もとにまで小鳥や雀がむらがつて來ます。その小鳥へ大人はもちろん子供までも餌をやつて、小鳥が喜んでそれをつついてゐるのを眺めて楽しんでゐました。ベルリンの中央にある大きな公園テイーア・ガルデンにはたくさんさんのリスが放し飼になつてゐます。私はよくそのリスに餌をやつてゐる人を見ましたが、リスはその人の肩や手の上のつてはおいしさうに餌を食べてゐるのです。一度は子供が餌をやつてゐるのを見たことがあります。



動物と云へばベルリンには、犬が實にたくさんゐます。ドイツ人は犬が大へん好きで、またよく可愛いがつてゐます。そしてこの犬にまで食券が出てゐることです。

もちろん馬肉ださうです。胴の長

い足の短いダッチハウンド、エアデール・テリア等が多く、大きいになると小牛位のもよく歩いてゐました。ベルリンの人達は一寸外に出るのにも、買物に行くのにも連れて出るやうです。そのためかどうかはわかりませんが、面白いことにはベルリンの省線、地下鐵、市電、バス等の乗物に犬を連れて乗つて、よいことになつてゐることです。ですから電車やバスに乗ると大抵一、二匹の犬が乗つてゐます。けれども乗物に乗る時は、必ず鎖をつけて、口輪をはめることになつてゐます。■



犬が乗つてゐます。けれども乗物に乗る時は、必ず鎖をつけて、口輪をはめることになつてゐます。■

乗つた犬が乗物のなかで決して人の邪魔をしないことには感心しました。大きな犬が混んだ電車の中で、人の間に挟まつて行儀よく坐つてゐるのを見て、實によく訓練したものと思ひました。日本の犬はなんとなくむかつて來さうな恐い感じがしますが、ベルリンの犬はどんな大きな犬でも決して恐しいと感じたことはありませんでした。

ある時、私は二、三人のひとと一所に或料理屋に行つて夕食をたべました。きれいな室内に大ぜいの人々が楽しく話合ひながら食事をしてゐました。室の片方では樂士が三人で音楽をしてゐるので、私も連れのひとと一所に夕食を始めました。ところが、私のとなりの席にゐたドイツ人のテーブルの下から犬が突然ワン／＼と吠えたのです。よく訓練されてゐるとは云へ、やはり動物ですから何かに驚いたのでせう。この犬が吠えたためにあちらこちらのテーブルの下にゐた約十匹ばかりの犬が一時にワン／＼と吠え始めました。食堂の中にゐた人々は、犬をつれた人もつれない人も一度に笑ひ出してしまひました。私達もおかしくなつて笑ひ出しました。始めこの料理屋に入つた時はこんなになくさん犬がこの中にゐるなどとは思ひませんでした。これで、殆んど凡ての人が犬を連れて來てゐることがわかつたのです。もちろんこのやうなところに犬を連れて入つてもさしつかへないことになつてはゐますが、それがあまり多かつたこと、一度に全部の犬が吠え立てたのでおかしかつたのでせう。犬を連れて人達が、シーシーと云つてなだめますと、たくさん犬の犬はもとのやうに机の下に坐つて靜かになつてしまひました。私は主人達が料理をたべてゐる



間もおとなしく坐つて主人の云ふことをきいてゐる、よく馴らされたドイツの犬をいぢらしく思ひました。

ベルリンでもう一つ面白いことがあります。それはドイツ婦人は赤ん坊を日本人のやうにおんぶすることをしませんが、抱くか、さうでなければ乳母車にのせるのです。ですからベルリンでは乳母車をひいた人がたくさんゐます。そして乳母車ごと電車やバスに乗つてよいことになつてゐるのです。市電やバスの車掌さんが乳母車を引いてゐるお客と一所になつて、それを電車に乘せたり降したりしてゐるのをよく見ました。また、省線電車や地下鐵のプラットホームに行く、長い階段を上つたり下りたりする時、乳母車を引いた人はその側にゐる誰れにでも、手傳つて貰ふことが出来るのです。よく軍人さんやナチス黨の制服を着た人がその乳母車を、プラットホームに上げたり、また下したりするのを手傳つてゐるのを見かけました。



ベルリン市中央の大動物園（其の一）  
ライオンの檻



を着た人がその乳母車を、プラットホームに上げたり、また下したりするのを手傳つてゐるのを見かけました。

ベルリンの中央にある大きな公園ティーア・ガルデンのはづれにある動物園（ツォーロツギシェーン・ガルデン、ベルリン市民はこれを簡単にツォーと云つてゐます）は世界的にも有名であります。この動物園の特徴は世界中のたくさんの種類の動物がゐることと、それ等の動物が住んでゐるところと同じ様な自然のまゝの生活をしてゐることにあります。上野の動物園の何倍もあるやうな敷地の中に、いろ／＼の動物が広い柵の中で、のんびりと太陽の光を浴びてゐました。岩や木がある丁度ライオンが住んでゐたところのやうに作られた野外の檻のなかを、ライオンやトラが何十匹

も、あつちこつちと跳びまわつて居りました。私が見てゐました時小鳥が一匹とんで來ました。それを見たライオンが離れたところから突然とびかゝりましたが、小鳥はさつと飛び去つて行きました。ライオンが、このやうに自由に跳びまわれる程そこは廣いのです。オットセイも二十匹ば



かりゐて、これも岩や崖をうまくとり入れた廣い池の中をゆう／＼と泳ぎまわつてゐました。

其他、象、犀、河馬、ゴリラ、オランウータン、猿、キリン、狼、熊等々。また、鳥類の中でも鷺などは岩をあしらつたすばらしく大きな檻の中を自由に、飛びまわつてゐました。見物する人々に、こうした動物の自然のまゝの生活を見させるやうに

工夫してありました。特に面白いと思つたことは山羊の小屋でした。木戸があつてそこを開けて誰れでも中に入ることが出来るのです。小屋の中には山羊がたくさんゐて、人達がやる餌をおいしうに食べてゐるのです。また片方の柵の中には仔山羊がたくさんゐて、そこには小さな子供が入れるやうになつてゐます。子供達はその仔山羊をだいたり、なでたりして遊んでゐるのです。小さい時からこうして動物を可愛がることを自然にわからせるやうにしてあるのでした。



(其の三) 鳥類の住み場

うに食べてゐるのです。また片方の柵の中には仔山羊がたくさんゐて、そこには小さな子供が入れ  
るやうになつてゐます。子供達はその仔山羊をだいたり、なでたりして遊んでゐるのです。小さい  
時からこうして動物を可愛がることを自然にわからせるやうにしてゐたのです。

また、動物園の隣りにある水族館の中には世界中の珍しい魚類がたくさん集めてありました。  
いろ／＼の魚にまぢつて日本の金魚や鯉が居ましたのはなつかしかつた一つです。この魚類のうち  
の半分程は海の魚なのです。ドイツの真中、しかもベルリンの都會の中央に海の魚が泳いでゐる。  
私は全く不思議に思ひましたので、よく聞いて見ますと、汽車で新しい海水を毎日海から運び、こ  
の水族館の中で酸素を補なつて、これらの海の魚を生かしてゐるのだと云ふことでした。戦争をし

(其の三) 山羊の小屋



てゐても、この様な細かいところ  
まで氣をつけて、そのために特別  
の費用をつかつて、ベルリンの  
人々のために楽しみを絶やさな  
いやうにしてゐることでした。

水族館の二階にはワニ、トカゲ、  
ヘビのやうな爬蟲類がたくさん  
ゐました。蛇などは南の方の大蛇、  
毒蛇などよくこんなに多く集めた  
ものだと思います。その中は暖  
房装置がよく出来てゐて、ワニの

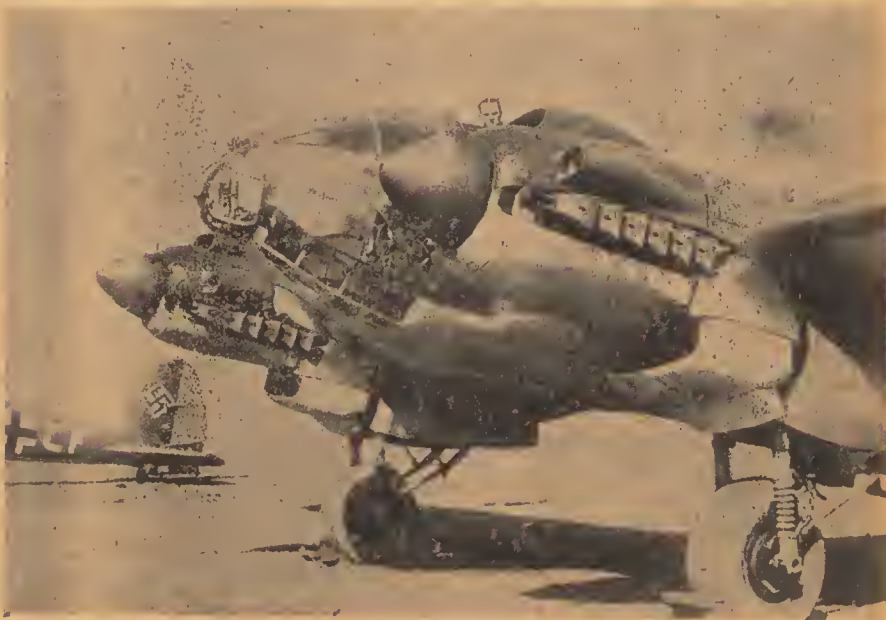


室に入ると暑いくらいでした。

三階には昆蟲類が飼つてありました。日本の蟲などもゐました。面白い事はこうした昆蟲類も自然のまゝの生活をしてゐることです。よく臺所の隅のしめつたところや縁の下などに出る油蟲やゲジ／＼やワラジ蟲などが、丁度縁の下や臺所のやうにこしらへてある箱の中に飼はれてゐました。また、幅のせまい長いガラス箱の中に、一ぱい蜜蜂が巢を作つたり、蜜を貯へたりしてゐるのがガラスを通して見えるやうにしてあり、その入口にはやはりガラスで蓋をした長い溝のやうなものが窓の外に出てゐて蜜蜂の出入りが手にとるやうにわかるのです。此様な昆蟲類まで自然の生活をそのまゝに観察出来る様に工夫してありました。

ハインケル 重爆撃機

最大時速四四〇浬・航続距離四二五〇浬



ハイネケル重爆撃機の爆弾投下の瞬間



蜜蜂の出入りが手にとるやうにわかるので  
す。此様な昆蟲類まで自然の生活をそのま  
ゝに観察出来る様に工夫してありました。

ハイ

## ハイネケル飛行機工場

このへんで、戦争をしてゐるドイツの姿を少し見ることにしませう。ドイツは今、皆さんも知つてゐるやうに、日本とイタリーと手を握つて、アメリカとイギリスを相手に戦争をしてゐます。ですから戦争のために是非必要な大砲や弾丸やその他の兵器をたくさん作らなければならぬのです。中でも近代の戦争になくはならないものは飛行機です。ドイツの飛行機は世界でも有名なすばらしいよい飛行機だと云はれてゐますので、それを製造してゐる工場の設備を見るために、一日皆さんもよく御存じのハイネケル飛行機の工場を訪れました。

ベルリンから自動車で約一時間、オラニエン

ブルグ町にあるこの工場の前に着いた私は、これが工場かと思つてびっくりしてしまひました。大きな門があつて、その向ふに一つ大きな立派な建物がありますが、それ以外は眼に入るものは林ばかりで、工場らしい建物は一つも見えません。私の乗つた自動車はその門を入つてその建物の前に止りました。この建物は事務所だつたのです。かなりの年配の支配人がお見えになつて、工場の中を見せて下さいました。工場と云ふのはこの林の中にところ／＼に建つてゐるのです。そのために一つの工場から他の工場に行くのにも自動車で行くのです。これだけでもこの工場がどんなに廣いかとおわかりになるでせう。そのうちの一つの建物に入りますと、そこは少年工の養成所なものでした。養成所と云つても學校



なに廣いかとおわかりになるでせう。そのうちの一つの建物に入りますと、そこは少年工の養成所なのでした。養成所と云つても學校

のやうにたくさん教室があつて、少年達は熱心に飛行機のことについて勉強してゐました。その建物についた別棟はいろいろの工作機械の實習所でした。大ぜいの少年達が熱心に工作機械について實習をしてゐました。一つ一つの機械の前にカードがあつてその日の成績を記入するやうになつてゐます、こうして熱心に勉強をし、實習をして腕をみがいた少年達は、やがて大人にも負けないやうな技術をもつて、立派な飛行機をつくるやうになるのです。

この少年達のほかに、この工場には女子の労働者もたくさんゐるのです。ですから男子の労働者のためばかりでなく、少年や女子の工員のために、大きな運動場や立派なプールや室内の體操場などの運動設備が充分に出来てゐました。一日の勤務が終つた人々は、皆そこへ集つて來てのびのびと、自分の好きな運動や遊戲が出来るやうになつてゐるのです。運動のあとでは、其處に續いてある入浴場やシャワーバスなどで汗をながして、すがすがしい氣分になつて家に歸へるのださうです。又、この建物の中には醫務室があつて、いつもお醫者さんがこの工場に働いてゐる人たちの健康に注意してゐて呉れるのです。

この工場は實にきれいで窓が大きくとつてあり、そのため仕事場が大へんに明るく、衛生的にも申し分なく、なかは整然としてゐるところに草花の鉢植などが置かれて、氣持よく仕事が出来るやうにしてありました。また、會社の建物全體が林の間にうまく配置してあり、その上、花壇をつくつたりして、丁度一つの公園のやうになつてゐました。この立派なすばらしい設備を持つた工



ひました。(右)労働奉仕 女子の郵便配達

## 労働奉仕

ドイツは今、たくさんの男子が戦場に出てゐますので国内では働く人が大分少くなつてゐます。それで、そのやうな人手の足りないところへは女子をたくさん使ふやうになつて來ました。市内電車の車掌さんや、地下鐵道の驛員さんなどはまだ樂な方ですが、汽車の車掌さんまで女子が働いてゐました。混合つた汽車の



場で製作される飛行機が、世界をおどろかすやうな性能をもつてゐることは當然のことだと思

労働奉仕 道路の手入れ



使ふやうになつて來ました。市内電車の車掌さんや、地下鐵道の驛員さんなどはまだ樂な方ですが、汽車の車掌さんまで女子が働いてゐました。混合つた汽車の

中の人達の世話をしてゐる女子の車掌さんを見て氣の毒にも思ひました。また、ベルリンの街上で女子が郵便配達をしてゐるのを見ました。前にお話しましたやうに、工場ばかりでなくこうした方面にもドイツでは女子が盛んに働いてゐて、人手の不足を補つてゐるのです。

#### 勞 働 奉 仕 配給品の配達



八月になつてから、私はベルリンの市内電車の車掌さんで若い男子や女子が、なれない手つきで切符をさつてゐるのをよく見ました。不思議に思つて聞いて見ますと、學生の夏休み利用の労働奉仕だと云ふことでした。その間車掌さん達は休むのださうです。こうしてドイツ人全體がお互ひに助けあつてこの大戦争を勝ち抜くために、一生懸命になつてゐるのです。

労働奉仕と云ふことは、ドイツでは非常に大切なことの一つで、中等學校を卒業した人は男





勞働奉仕 農家の手傳ひ



子でも女子でも、半ヶ年間必ずこの勞働奉仕をしなければならぬことになつてゐます。若しその勞働奉仕をしなければ、上の學校、大學などに進むことは出来ないのです。男子は十八歳から二十五歳までの間に、また、女子は中等學校を卒業してなほ、上の學校に行く人だけが義務になつてゐます。そして全部の人が全國にある奉仕團の合宿所に入つて、規律正しい生活をしてこの勞働奉仕をすることになつてゐます。

この勞働奉仕は前にお話ししました人手のたりないところを補ふばかりでなく、ドイツ國のためにもつと必要だと云ふ仕事をしてゐるのです。男子の勞働奉仕團員は今は殆んど戦場に出て、軍隊と一所になつて占領地のいろ／＼の仕事をしてゐま

す。そのため國內で今まで男子がやつてゐた仕事のうちで、女子でも出来る方面に女子勞働奉仕團が盛んに活躍してゐます。女子勞働奉仕團のもつとも重要な仕事は農家の手傳ひです。今ドイツは

自分の國內でドイツ人全部の食料を作り出さなければならぬのですから、農家の仕事は大へん忙

す。そのため國內で今まで男子がやつてゐた仕事のうちで、女子でも出来る方面に女子労働奉仕團が盛んに活躍してゐます。女子労働奉仕團のもつとも重要な仕事は農家の手傳ひです。今ドイツは

自分の國內でドイツ人全部の食料を作り出さなければならぬのですから、農家の仕事は大へん忙しくなつて來ました。その上、働き盛りの男子が大部分戦争に行つてゐますので、人手は一層足りなくなつてゐます。女子労働奉仕團員はこうした農家を助けると云ふ大きな役割をもつてゐます。

取入れの手傳ひ、畠に出たあとの家事の手傳ひ、幼兒、赤ん坊等の世話、家畜の世話等女子の働くところはいくらかでもあります。晝間の尊い奉仕と夜の規律正しい合宿生活によつて自分の修養にもなることを考へて、奉仕團員は一生懸命に仕事に、はげんでゐるので

す。  
汽車の窓から見る畠の中に、普通の農夫にまぢつて、赤い頭布をかぶつた若い女子が働いてゐるのをよく見かけました。この赤い頭布をかぶつた女子が労働奉仕團員なのです。

こうして人手の足りないところへどんどん奉仕團員が行つて活動してゐますが、その他學

労働奉仕 農家の手傳ひ



生も休みを利用していろ／＼な方面に手傳つてゐるので、戦争をしてゐる國とは思へないほど、ドイツ國內はいつもと少しも變つてゐないと云ふことでした。

## ベルリンの國民學校

六月の中頃、若葉燃ゆる爽かな初夏の一日、私はベルリンの或國民學校を三人の日本人と一所に訪問致しました。學校の建物はかなり古いやうでしたが、それを出来るだけ使つてゐるのもドイツらしいところが見えました。その學校は東地區にある第二國民學校と云つて女子ばかりの學校でした。

最初に私達は校長先生のお部屋に行きました。相當のお年の婦人の校長先生にお訪ねの挨拶をすませた後、ドイツの國民學校についていろ／＼と伺ひました。國民學校は八年間で課目は算術、國語、地理、歴史、理科、體操、手工、圖畫、唱歌、宗教で、この他に五年からの女子に育児法、生理衛生、家事が加はり、八年になると更に遺傳學が加はるさうです。この課目のうちで日本と變つてゐるのは宗教と女子の課目の育児法等でせう。この第二國民學校は生徒數約一千人で、職員は二十四人、戦争前は五、六人の男子の先生が居りましたやうですが、全部戦線に行つてゐますので、今は女の先生ばかりでした。いろ／＼お話を伺つて、私達は校長先生の御案内で教室を見て廻りました。先づ始めに三年生の算術を見せて頂きました。先生が出しますいろ／＼の問題を子供達は手

とあがて元氣を答へて居りました。日本と同じやうなものにはなつかしく思ひました。こゝで一寸面

今は女の先生ばかりでした。いろ／＼お話を伺つて、私達は校長先生の御案内で教室を見て廻りました。先づ始めに三年生の算術を見せて頂きました。先生が出しますいろ／＼の問題を子供達は手

をあげて元氣に答へて居りました。日本と同じやうなものにはなつかしく思ひました。こゝで一寸面白く思ひましたのは、ドイツでは引算がないのです。ですから買物をする時でも加へ算でやるのです。たとへば七圓五十錢の品物を買つて十圓のお金を渡したとき、お店の人は品物を持つて來てそれを買つた人に渡して七圓五十錢と口で云ひ、次に五十錢を出して品物の値段との合計を八圓と云ひ、また一圓を出して九圓、さらに一圓出して全部で十圓と云つて品物と釣錢を渡すのです。つまり買ふ人が渡した十圓を、商人は品物と釣錢とで合せて十圓にして持つて來るのです。その時決して引算でこの釣錢を出さず端數のお金を次々に加へて品物と釣錢とで初めの金額にして渡すのです。ですから學校の算術でもかうした計算をやつてゐました。次に見ましたのは八年生の圖畫でした。花瓶を寫生してゐましたが、日本の皆さんとあまり變つてゐませんでした。その次に私達は六年生の音樂の授業を見ました。絶對音感教育によります和音の練習と合唱とをして見せて下さいました。ドイツは御承知のやうにベートーヴェン、バッハ、シューベルト、ワグナー等の有名な音樂家が出た國です。ですから、音樂の國とまで云はれてゐるくらい音樂が盛んです。昔のこのやうな有名な音樂家達を生んだことをドイツ人は皆誇りとしてゐます。ドイツ人にとつては、音樂はなくてはならないもののなのです。ドイツの一寸した家庭には大抵ピアノかヴァイオリンがあり、またラジオはいつちもよい音樂をやつてゐますので、こうしたところで育つた子供達が、自然に音樂にしましたし、それをやるやうになつたことは當然のことです。この學校の六年の音樂の授業を見まし



た時、こればかりは日本はまだ負けてゐるなと思ひました。いろ／＼の和音の練習に殆んどピアノを使はないでやつてゐるのです。一通り練習が終つてから私達のために女聲三部合唱でローレライその他二、三の曲を歌つてくれましたが、さすが音樂の國の子供達だと感心するばかりでした。その教室にお別れした私達は、最後にやはり六年生の體操を見ました。ドイツでは體育を非常に重要にしてゐますので、學校以外の少年團でも盛んにやつてゐるのです。そしてまた運動の設備はたくさんあつて國民は盛んにそれを利用してゐます。ベルリンの郊外にあるあのオリンピックスタジアム等も全部市民に開放してありました。二度ばかり見物に行きましたがいつも一般運動場は大ぜいの人があつて、いろ／＼の運動をしてゐました。ドイツでは體育はもとから盛んではありましたが、ヒットラーが總統になつてからは、益々盛んになりました。國民學校でも五、六、七年は體操の時間が一週間に五時間もあるのです。もと／＼ドイツ人の體格はよかつたのですが、體育を盛んにしてからなほ立派な體格になつて來ました。六年の女子が體操着を着てリズムカルな運動をしてゐましたが、どの子も、どの子もよい體格をしてゐました。

立派ながつちりした體格と元氣なあかるい朗らかな性格とを持つドイツ少國民に接し、いろ／＼感心しました私達は、晝すぎに子供達や先生に、愉快な思ひ出を感謝しながら、この學校にお別れをしたのでした。

×

×



をしたのでした。

## 避難兒童收容所訪問

空が晴れてさへゐれば、その夜は大抵英國の飛行機の襲撃を受けるベルリン始め大都會の子供達に對して、第二國民の教育に深い注意を拂つてゐられるヒトラー總統は命を下して、空襲のない安全な土地へ子供達を多數送つてゐます。勿論それは自由ですから、ベルリンなどでもまだ随分子供達は居ります。子供達が送られるところは、昔から健康地として名高い所や、温泉場などが選ばれ、その土地の寺院、ホテル、その他大きな建物が收容所にあてられてゐます。私は四月の終りの或る日三人の日本人の方と一所にその實際を見せて頂きました。

ベルリン、アンハルター驛から汽車で西南へ行くこと四時間でワイマールと云ふ驛へ到着、ここから自動車で一時間ばかりでエーゲンドルフと云ふ山村に着きました。木造三階建のこの建物はこの地方ナチス黨指導者養成所であつたさうですが、青年達は皆出征して空いてゐましたので兒童收容所にしたのです。十歳から十四歳までの女兒二百二十人餘り居りました。山の中で何の變化もない日々を送つてゐる女兒達は、今日は日本のお客様が來ると大喜び、私達の自動車が見えると手を振り歡聲を擧げて迎へてくれました。まだ雪のあるこの山村は冬の氣候ですが、それでも女兒達は庭へ降りて私達を取囲み「ヤバーナ」(日本人と云ふこと)とナチス式の敬禮をして大喜びでした。所長以下十名の指導員、外に十名の學業の先生達がこの收容所の職員です。子供達は數人が一



## 避難兒童收容所の女兒達



部屋に一所に寝起きをしてゐました。着物と日用品と勉強の道具を入れる戸棚が一個づゝ與へられてあつて私達が入ると子供達は自分の戸棚を開けて、その中の整頓ぶりを見せるのでした。一部屋毎にその子供達によつて班の名前を扉にはりつけてありました。食堂、臺所、授業室、病室などを見て大講堂に行きました。全部の子供達が一堂に集つて私達のために歌や遊戲や行進等をして見せてくれました。お暇をしやうとすると所長さんの發聲で全部の子供達が「バンザイ」を唱へて下さつたのは嬉しかつたことでした。

ワイマールで一夜をあかした私達は翌日そこから數里離れてゐるチューリンゲンの森林地帯にある溫泉場へ行きました。途中自動車でドイツの誇るアウトバーン（自動車専用道路）を百二十軒で走つた爽快な思ひ出は永久に忘れることの出来ない一つです。世界に名高いチューリンゲンの

ヒットラーユーゲント講習所にて

(其の二) 晝食中の女兒達



(其の二) 男兒の訓育



森を左右に眺めて、はてしなく續く坦々たるアウトバ  
ーンを快適なドライブをしながら行くこと二時間餘  
り、右に折れて更に森林地帯を進むとやがて温泉境に  
着きました。

バルアスハウゼンのヒットラーユーゲント講習所には  
百五十人ほどの女兒が收容されてゐて、私達も晝食を

一所に頂きました。食事をしてゐる間にも女兒達は盛に日本の青少年團について私達に質問しまし





バルアスハウゼンのヒットラーユーゲント講習所には  
百五十人ほどの女兒が收容されてゐて、私達も晝食を

一所に頂きました。食事をしてゐる間にも女兒達は盛に日本の青少年團について私達に質問しました。別棟には五、六人のユーゲントの男兒が模型飛行機の製作に一生懸命でした。一隅にある模型の飛行機を指してこれは英國の戦闘機だとか、爆撃機だとか云つて説明して呉れました。かうしたことによつて少年達に航空の知識を絶えず教へ込んでゐるやうでした。

更に行くこと二十分位でタルツの温泉場のホテルに着きました。こゝは男兒ばかり七十人程、ユーゲントの制服を着てなか／＼活潑でした。部屋に入ると、部屋長が「氣を付け」の號令をかけ不動の姿勢をとつたところでナチス式の敬禮をします。大きくなつたら何になると聞くと皆口を揃へて「軍人に」と元氣に答へました。全員講堂に集つて私達のためにドイツの軍歌を歌つてくれました。歸へるときにはやはり「バンザイ」の連呼で自動車を取りまいて握手をすると云ふ騒ぎでした。

二日間にわたつたチューリンゲン地方の避難所訪問の楽しい思出を後に、その翌日午前の汽車でベルリンに歸へりました。

## ヒットラー總統とドイツ

ドイツは前の歐洲大戰のとき、二百萬人と云ふたくさんの若い男子が戦死したのです。そして、戦争が終つてからのドイツはいろ／＼のものが不足し、殊に食料が少くなつて國の中は減茶苦茶に





名なヒンデンブルグ元帥だつたのです。ヒンデルブルグ元帥はどうかしてドイツをもとのやうな立派な國にしようとして一生懸命になつて仕事をしてゐたのです。しかし國內にはまだ共產主義の考へをもつた人々がゐまして、ヒンデンブルグ元帥のこの立派な仕事の邪魔をするのでした。こうした困難なドイツのために一身を祖國ドイツに捧げて、共產主義の人々を一掃し、もとの立派なドイツ國に立直さうとして起ち上つたのがヒットラーであります。

ヒットラーは前の大戦のとき一兵卒として西部戦線に従軍して、手柄を立てましたが、そのときガスのために兩眼が見えなくなり、病院に收容されました。病院にゐる間に戦争は終りましたが、

なつてしまひました。仕事の無くなつた人がたくさん出来、食べものが無くて死ぬ人もあり、そのために國內では暴動があちこちで起るやら、大へんな騒ぎでした。お金はどしどしさがるので、ついにはパン一切買ふのに百マークのお札を何枚も出してやつと買ふことが出来るやうになつてしまひました。こうしたときに國民に推されて大統領になつたのが、有

それからのドイツ國の様子を聞くたびにちつとしてゐることが出來ず、このドイツを元のやうにするにはどうしたらよいかと、寝ても起きてても考へてゐたさうです。やうやく失明することをまぬがれて退院したヒットラーは、その當時國內にあつた、數々の愛國團體について調べましたが、どうしても自分の考へに合ふ團體がなかつたのです。その時やはり戦争に行つてゐました兵士達の小さな團體がありました。團員はわづか六人だつたのですが、その團體の考へてゐることがヒットラーの考へと合つてゐたものです。直ぐに七番目の黨員として入團したのです。丁度今から二十五年前の一九一九年のことでした。それからのヒットラーは自分の生きる道はこれだと考へ、自分の考へをどん／＼世間に發表してだん／＼に黨員をふやして行きました。そして黨の名前も「民族社會主義ドイツ勞

ヒットラーは前の大戦のとき一兵卒として西部戦線に従軍して、手柄を立てましたが、そのときガスのために兩眼が見えなくなり、病院に收容されました。病院にゐる間に戦争は終りましたが、



ヒットラー總統官邸



野營中のヒットラーユーゲント

闘争があつて、ある時などはミュンヘンと云ふ都で一度に十六人のナチス黨の人々が殺されたことがありました。しかしさうしたことがあると益々ヒットラーは元氣が出て、この悪い考へをもつた人々にぶつかつて行つたのです。そのために一時は間違つて監獄に入れられ、ナチス黨も解散を

勸黨」と名付け黨員から推されて黨首となりました。この「民族社會主義ドイツ勞働黨」を私達はナチス黨と云つてゐます。ところがその當時の共產黨の人々は、このナチス黨がゐたのでは自分達はだめだと考へ、いろいろ壓迫を加へたのです。そのためナチス黨と、共產黨との間には時々

がありました。しかしさうしたことがあると益々ヒットラーは元氣が出て、この悪い考へをもつた人々にぶつかつて行つたのでした。そのために一時は間違つて監獄に入れられ、ナチス黨も解散を命ぜられたことがあります。

その後ナチス黨の黨員はふえるばかりで、一九三二年ついに百萬人を數へるやうになつてしまひました。そして國內でもナチス黨でなければだめだと云ふ聲が多くなつたので、その時の政府はやめなければならなくなり、時の大統領ヒンデンブルグ元帥は、ヒットラーを首相にしたのです。その年は西洋紀元一九三三年と云ひますから、今年から丁度十年前でした。ところがその翌年、大統領ヒンデンブルグ元帥が亡くなられたので、ヒットラーは總統の位について、大統領と首相の仕事を一所にすることになつたのです。それからのヒットラーはほんとに骨身惜しまずドイツ國のために働きました。

それからのドイツは見る見るうちによくなつて、今までのドイツとはまるで違つたす

ヒットラーユーゲントの勇敢な騎馬戦





母の運動



養不良の青い顔をした子供達がドイツ國內に一ぱいになつてゐたのですが丁度其時から二十一年たつた今日、當時の

ばらしく立派な、そして強い國になつてしまつたのです。國內の共產黨の人々は一掃され、ほんとうによい國として生れ變つたのです。

前の歐洲大

女兒の體育

戰の時、二百萬人の戦死者を出し、その後の物資不足のために、當時生れた赤ん坊が母親の榮養不足からどんどん死んで行き、また榮



を、その二共産黨が、今昔の民家さへなつて立派にイギリス、アメリカ、ロシヤを相手にして戦争





母の休養の家

養不良の青い顔をした子供達がドイツ國內に一ぱいになつてゐたのです。が丁度其時から二十一年たつた今日、當時の

榮養不良の子供達が今若い兵隊さんになつて立派にイギリス、アメリカ、ロシアを相手にして戦争をしてゐるではありませんか。この一事だけを見ましてもドイツ國が立派に立直つたことがわかるでせう。

ヒットラーはドイツ國をよくするためには、先づ子供達をよくしなければならぬと考へて、ヒットラー青少年團（ヒットラー・ユーゲント）をつくり、そこで青少年を鍛錬し、訓練をするやうにしました。子供達をよく育てるには母親をよくしなければならぬと云へば、母を丈夫に強く、そしてよいお母さんにするために、母の家や母の學校を造り、母親を集めてはいろいろのことを教へたり運動をさせるやうにします。國民をもつと健康にしなければいけないと思へば、すぐに各種の運動場をこしらへて體育を盛んにします。また國民自動車と云ふ安いよい自動車をたくさん造つ

て國民にわけ、その自動車のための自動車専用道路（アウト・バーン）を建設して國民に健康と樂しみとを合せた快適なドライブをすゝめると云ふやうに、何から何まで國民のため、そしてドイツ國のために考へて仕事をして來たのです。その他に軍備をさかんにして、飛行機や戦車等の兵器をたくさん造つてドイツ國を安全にしました。こうして國民の考へてゐることをどしどし實行してゆきましたので、國民はヒットラーのすることならば大丈夫と云つて、安心してヒットラーの云ふ通りに働いたのです。このやうにヒットラーと國民とが一致協力したことが、今日の大ドイツ國を造りあげた大きな原因だと思ひます。

しかし、ドイツ國民は今でもヒンデンブルグ元帥を大へんにしたつてゐます。それは今の立派なドイツ國を造りあげたのは、ヒンデンブルグ元帥がそのもとをつくり、それをヒットラー總統が受けついでなほ一層よくしたのだと云つてゐます。ですからこの家庭に行きましても、必ずヒットラー總統の寫眞とならべてヒンデンブルグ元帥の寫眞や繪が飾つてあるのです。これはドイツ國民がドイツ再建の英雄をしたつてゐる氣持を現はしてゐるのだと思ひました。

今ドイツは國の全力をあげて、イギリス、アメリカ、ロシアと戦つてゐます。前の歐洲大戰に敗れたことをよく知つてゐる國民は、今度の戦争はどうしても勝たなければいけない、敗けてなるものかと云つて、一生懸命に働いてゐるのです。そしてまた、ヒットラー總統を信じてゐる國民は總統の言ふ通りに動いて、石にかぎりついても勝ち抜かうと一心になつてゐるのです。

戦争をしてゐるドイツ國を訪れて、いろいろの方面を見せて頂きました私は、こうした力強いド

のかと云つて、一生懸命に働いてゐるのです。そしてまた、ヒットラー總統を信じてゐる國民は總統の言ふ通りに動いて、石にかぎりついても勝ち抜かうと一心になつてゐるのです。

戦争をしてゐるドイツ國を訪れて、いろいろの方面を見せて頂きました私は、こうした力強いドイツの姿を見て、ほんとうに頼もしく思つたのです。そして日本と手を握つて世界の敵であるイギリス、アメリカを倒すまで頑張つて下さるやう心から祈りますと同時に、ドイツは必ず勝つと云ふことをはつきりと信じるやうになりました。

## イ タ リ ー へ

ベルリンにしばらく居りました私は、六月十九日今度の旅行の第二の目的地でありますイタリアへ向ひました。途中ミュンヘンと云ふ都會で三日ばかり見物して、二十二日の夕方ミュンヘンから出るローマ行の汽車に乗ることにしました。

その朝、朝食のためにホテルの食堂に行きましたところ、その食堂に居りました人達が皆緊張した顔をして、ラジオの放送を熱心にきいてゐるのです。何事が起つたのだらうと聞いて見ますと、ドイツとロシアとがついに戦争を始めたと云ふことを知らせてゐるのです。そしてラジオでは今、ゲッペルス宣傳大臣がロシアとの戦争の理由を説明してゐるのです。それを聞いた時私は、これは日本に歸へることが出来なくなつてしまつたと思ひました。今までの日本とヨーロッパとの行きさする道で、一番安全な道として近かつたシベリヤ鐵道が、ドイツとロシアとの戦争のために通れなくなつてしまつたからです。けれども、今ベルリンに歸へたところで、日本に歸へることが出来

るのではないのですから、豫定通りイタリア行を實行することにしました。その日の夕方私はミュンヘンの驛からローマ行の汽車に乗りました。

汽車が次第に南アルプスの麓にさしかゝつて来る頃になると、日本の山國に似た景色が多くなつて來ました。ドイツの平野は何もない廣い原ですが、やはり、この山の地方は山水の美にめぐまれて、丁度日本にかへつたやうな感じがしました。その日の午後十時頃、汽車は有名なブレンネル峠の驛に着きました。こゝはドイツとイタリアの國境で、時々ヒットラーとムッソリーニが會つてゐる。相談をするので世界に知られてゐるところです。山の中の驛とは思へぬ立派な驛へついた汽車はしばらくそこで停車しました。私はこゝでドイツとイタリアのお役人の検査があると思つてゐましたところ、今までの國境の検査とはちがつて別に調べられたものもなく非常に簡單でした。

午後十一時頃、まだ肌寒いこのブレンネルの驛をあとにして、汽車はいよゝイタリア國に向ひました。同じ車で乗り換へなしにそのまゝローマまで行かれるやうになつてゐるのも、やはり同盟國のためだと思ひました。

翌朝私は目をさまして見ますと、汽車はイタリア國の中ほどにある、フローレンスと云ふ都に着いてゐました。驛の賣子が辨當やら果物などをたくさん賣つてゐます。私はドイツであまり果物をたべることが出来なかつたので、早速小さな箱に入つてゐる櫻んぼを買つてたべました。久しぶりにたべた果物の味は丁度日本のそれと同じやうで、大へんなつかしくたべることが出来ました。

汽車はさらに南に向つて走りました。イタリア



ローマ新市街を走る馬車

たべることが出来なかつたので、早速小さな箱に入つてゐる櫻んぼを買つてたべました。久しぶりにたべた果物の味は丁度日本のそれと同じやうで、大へんなつかしくたべることが出来ました。

汽車はさらに南に向つて走りました。イタリアの鐵道は全部、電気機關車ですから、この國內の旅は大へんに愉快でした。車窓から見える畠の作り方や果物の木などの作り方が、大分日本と似てゐました。南に行くにしたがつて、太陽の光が強く、暑さもだんぐに加はつて來ました。

## ローマにて

六月二十三日の正午、私は第二の目的地でありますイタリアの首府ローマの中央停車場へ降りました。ベルリンとはちがつて、暑い夏の眞盛りです。強い太陽の光が一日中照りつけてゐて、丁度南國を思はすやうなこのローマはベルリンとは違つた明るい感じの都會であります。街路樹もよく繁つてゐるのもベルリンとちがつてゐました。

このローマは昔から榮えた古い都なので、とこ



ろどころに昔の名残りの建物があるのはなんとなくかしみを覚えしました。また市街のまわりをとりかこんで高い城壁があり、その中が舊市街、外側が新市街となつてゐます。この城壁のために街路はベルリンよりも整然とはしてゐませんが、それだけいろ／＼變つたところがあつてなかく面白いです。

このローマの名物の一つに噴水があります。ベルリンの街の一寸した廣場は小さな公園になつてゐますが、このローマはこのやうな廣場や街角には大抵噴水があります。そしてそれが實にたくさんあるのです。ですからローマは、一名噴水の都とも云はれてゐます。いろ／＼の形をしたこれらの噴水が暑いローマの街に涼しさを添え、道行く人々の氣持を休ませてくれるのです。今は戦争です。すから夜は燈火管制のため暗いですが、戦争前はこの噴水に照明がしてあつて、すばらしく美しかったとのことでした。

ローマの街にはベルリンのやうに省線電車や地下鐵道はありませんが、そのかわりに市内電車やバスの他に無軌道電車がたくさん走つてゐます。車體もイタリー人の好みのやうにきれいでした。そしてこれらの乗物は殆んど全部が、車のうしろから乗つて前から降りるやうになつてゐます。乗つてからそこに腰かけてゐる車掌さんに切符を切つて貰つて、始めて腰かけにかけられるのです。降りる時は前の方に行つて出口にあるベルを自分でおして車を止めてもらひます。

その他の乗物としては馬車が多いことが眼につきました。夕方陽が落ちてからこの馬車に乗つて

新市街の公園等を一まわりしましたことは、私の樂しかつた一つです。

る時は前の方に行つて出口にあるベルを自分でおして車を止めてもらひます。

その他の乗物としては馬車が多いことが眼につきました。夕方陽が落ちてからこの馬車に乗つて新市街の公園等を一まわりしましたことは、私の樂しかった一つです。

前にお話しましたやうに、このイタリーは大へん暑いので、日中の一時頃から四時頃までの間大抵の人は休みます。そして強い太陽の光をさけるために、窓の戸を閉めて室内を暗くして、晝寢をするのです。あまりに暑いので、さうでもしなければ疲れるのではないのでせうか。私もこのローマやその他の都會を見て廻りましたが、晝は大抵ホテルに歸つて休み、夕方また出かけるやうにしてゐました。

### イタリーとムツソリーニ

こうした太陽の光にめぐまれたこのイタリーでは、別に手をかけなくても作物は大へんによく出来ます。ですからイタリーの人々は昔からあまり働かなかつたのださうですが、ムツソリーニと云ふ偉い人が出て今のやうな立派なイタリー國を作



ムツソリーニの生家



忠

り上げたのです。ムツソリーニが始めて内閣總理大臣になつた時、イタリア全國民に向つて、「私の父は鍛冶屋で毎日鐵をきたへてゐた。私も父の手傳ひをしてこの腕で鐵をきたへてゐた。私はこれから、この鐵をきたへた腕をもつて、イタリア國民をきたへなほすのだ」と叫んで、それまでの惡かつたことを、どしどし改めて行つたのです。イタリアは世界の人が泥棒と乞食の國と云つてゐましたくらい秩序が亂れてゐましたが、ムツソリーニが立つてこの國を治め始めてから、そうした惡いことをすっかり改めてしまひました。ですから私がイタリア國をあらちちらと旅行しました間乞食を一人も見かけなかつたのも、このムツソリーニの大きな手柄ではないでせうか。そして今は立派な強い國になつたイタリアは、日本とドイツと手を握つて、アメリカ、イギリスを相手に戦つてゐるのです。前のイタリアを知つてゐるこの國民は、立派な國になつたのは、ムツソリーニのおかげだと云つて「ドーチエ〜」(總理)とあがめてゐます。

## スバジオ山の植林事業

今の立派なイタリア國をきづき上げたムツソリーニ首相のしました仕事の中で、すばらしいこと

## スバジオ山の植林事業

今の立派なイタリア國をきづき上げたムツソリーニ首相のしました仕事の中で、すばらしいことを二つほど皆さんにお話しませう。

ローマとフロレンスと云ふ都の中間に、アッシジと云ふ小さな町があります。この町はキリスト教の偉い牧師さんサン・フランチェスカと云ふ人の建てた、古い立派な教會があるので有名な町です。このアッシジ町の裏手にある山がスバジオ山なのです。

このスバジオ山は山全體が岩山で、木は一本もない禿山だつたのです。ムツソリーニ首相になつてから、

ファシスト黨の中にあるいゝの義勇軍の中の植林義勇軍（木を植ゑることのために働く部隊）に、このスバジオ山に木を植

ゑるやうにと命令したのです。それを聞き知つた人々は、あんな岩山に木を植ゑることは出来るものかと云つて、反對しましたさうですが、ムツソリーニ首相はそんな言葉には







振向きもせず仕事をどしどしと進めました。

先づ始めに、スバジオ山の頂上まで自動車の通れる道路を作りました。それが出てから、その義勇軍の人々は四米位の距離と間隔をおいて、一米四方位の廣さに大きなハンマーを持つて、岩をくだき始めたのです。そして、何日もかゝつて一米四方の廣さの岩を、小石位に小さく細かくくだいてしまひました。此のこなくにくだけた場所へ、よく日本でも見ます、岩の間に生えてゐるやうな強い草を植ゑて、それが小石の間に根をはり、何年か後に根の作用によつて土が出来るのを待つたのです。こうした場所がこの山全體に何百ヶ所と云ふほどあるの

ですから、大きな仕事だつたと思はれます。



ですから、大きな仕事だつたと思はれます。四、五年たつて大分土が出来てから、杉の苗を植えました。その仕事を始めてから十年程たつたさうですから、杉の苗を植ゑてからは四、五年たつてゐるでせう。私がおその山に上つて植林しましたところを見ますと、すく〜と二米ばかりに伸びた杉の若木が、ずつと山の頂上までつゝいてゐるのです。ムツソリーニ首相はその事業について、次のやうに云つておられるさうです。「たとへ五十年百年後にムツソリーニが死しファシスト黨が亡びても、このスバジオ山の杉林はいつまでも繁つてゐて、ファシスト黨の偉大な功績を永久に残すことであらう。」と……。

×

×



来るのを待つたのです。こうした場所がこの山全體に何百ヶ所と云ふほどあるの

## リットリオの開墾地

このスバジオ山の植林事業にも負けないすばらしい事業にリットリオの開墾事業があります。ローマからナポリと云ふ港へ行く汽車は、途中でリットリオと云ふ新しい町の驛に停車します。このリットリオと云ふ町は、ムッソリーニが首相になつてから出来上つた町で、古くからあつた町でもなく、また自然に人が集つて出来た町でもありません。全く人が必要なためにこしらへた町なのです。どうしてこの町が出来たのかと云ひますと、この附近からローマの近くまでの土地は一體に低く、水の流れがわるいために、一面に濕つた沼地が多く、そのため恐しいマラリヤ蚊がたくさん發生してマラリヤ病にかゝる人が毎年非常に多かつたのです。こうした衛生上によくない、この土地をもつとよい土地にしようと云つて、ところ／＼に溝を掘り、その溝をまた大きな川のやうな堀割へあつめて、その川の適當なところに大きなモーターをつけ、この水を反対側の一段高い堀割の川へ吸ひ上げて、海へ流すやうにしてしまひました。このモーターの小屋が至るところにあつて、始



開墾前のリットリオ地方の沼地

終一臺又は二臺のモーターが廻つて水を吸ひ上げ、高い方へ流してゐ



農場に出来たリットリオの町

反対側の一段高い堀割の川へ吸ひ上げて、海へ流すやうにしてしまひました。このモーターの小屋が至るところにあつて、始

終一臺又は二臺のモーターが廻つて水を吸ひ上げ、高い方へ流してゐました。雨が降つて水が多くなると二臺又は三臺のモーターが廻つて水をくみ上げるのださうです。この結果、濕つた沼地が乾いて、それ以來マラリヤ蚊が出なくなつたのです。ところがこの土地にムツソリ―ニ首相は、作物をつくることにしました。そのために人の住んでゐなかつたこの地方へ、人を集めなければならなかつたので、失業した人や土地の狭くなつた農家の人々を集めて、國內移民團をつくることにしました。そこでまづ第一番にその人々の住む家をつくらなければなりませんので、この地方のところに新しい町を建設しました。その一つがリットリオの町です。そこには農産物を集める市場、病院、學校等を建て、その人達の住宅を造りました。そうして集つた移民によつて、何も出来なかつたこの地方はどしどし開墾され、種々の作物が出来るやうになりました。私が見ましたマツカレーゼ地方の開墾地は麥畠と葡萄畠でした。自動車で二十分ばかり走りましたが、走つても一面の麥畠でところ／＼に大きな電動收穫機があり、それをかこんで十人位の人が盛んに麥のとり入れをしてゐました。又廣い葡萄



島の中央に大きな葡萄酒工場があつて、葡萄酒をたくさん作つてゐました。このやうな開墾地がローマからナポリに行く途中にたくさんあります。

スバジオ山の植林事業やリットリオの開墾事業を見學して、新しい國イタリアの眞の姿を見ることが出来ました。

## イタリアの少年

ムッソリーニがイタリア國の首相になつてから、まづ一番最初に、次のイタリアを養つて立つ青少年の教育に力を入れました。そして青少年の教育訓練のためバリツラ青少年團をつくり、イタリアの少國民を入團させて立派なイタリア國民になるやう鍛鍊することにしました。後にリットリオ青少年團にかはつてからも、八歳から十三歳までの少年團をやはりバリツラ團と呼んでゐます。ではなぜバリツラと名付けたかと云

ひますと、これにはイタリア少年の燃ゆるやうな愛國心の物語りがあつたのです。



ひますと、これにはイタリー少年の燃ゆるやうな愛國心の物語りがあつたのです。

イタリーの北部の都會ヂエノヴァのバンマトーネの廣場に、右手に小石をつかんで、今にも投げつけやうと振り上げ、敵をにらみつけた少年の銅像があります。この少年が\*



なかつたのです。ヂエノヴァの住

の弱い政府のやり方に憤慨して、時が來たらばオースタリーに反抗しやうと、ちつと待つてゐました。

一七四六年十二月五日のことでした。オースタリーの軍隊の一部が不法にもヂエノヴァ市の城外にすえつけてあつた大砲を引降ろし、フランスとの戦場に運ぼうとしました。そして牛六頭に引か

と呼んでゐます。ではなぜバリツラと名付けたかと云

\* バリツラと云ふ名前なのです。今から約三百年前、その當時の大國オースタリーのためにいろ／＼の無理なことを云はれても、時の政府はどうすることも出来ず、民は、そうした腰



せたこの大砲を、わづかの兵で守りながら市の中央にと差しかゝりました。その日は肌をさすやうな冷い風が、篠つく雨と共に荒れくるつて、なんとなく不氣味な何事か起りさうな日でした。牛六頭引きの大砲は、丁度バンマートネの廣場に來た時、左の車が泥の中にめり込んでしまつて、ピクとも動かなくなつてしまひました。指揮官は兵をはげまし牛の尻を鞭でたいてみましたが大砲は一寸も動かうとしません。街の人々はこの有様にあちこちから集つて、そのまわりを取圍んでしまひました。ぐづ／＼してゐるとどんなことになるかも知れないと思つた指揮官は、人々にむかつて「手傳つて呉れ」と頼みました。しかし、人々はたゞニヤ／＼と笑ふばかりでした。怒つた指揮官は鞭を振り上げて人々を追ひ拂ふとしました。その時です。ボロ／＼のシャツを着た素足の少年が小石をつかんで人々の前へ出ました。年は十一歳位、右手を横に、足を踏張つて「やつつけやうか、」と人々に向つて叫びました。「やつつけろ」の言葉が終るか終らないうちに指揮官は鞭を振り上げたまゝ、顔を眞赤に染めて大地に倒れてしまひました。

「バリツラ、萬歳」人々はワアツと歡聲をあげて、劔を抜いたオースタリー兵を取圍んで、石を投げ、なぐり、足蹴にして、大砲を取り返しました。デエノヴァ市民はこのことを聞いて今までちつと我慢をしてゐた恨みを一時に爆發させ、大群を組んで武器を手にして立ち上つたのです。そしてオースタリーの守備兵を各所で打ち破り、デエノヴァを市民の手に取戻し、ついにイタリー獨立戦争へと擴がつて行つたのです。デエノヴァの染物屋の小僧さんであつたバリツラ少年の勇敢な行動

が、この大事業をなし遂げた元を造つたことをイタリー國民は忘れることは出来ません。それが今

争へと擴がつて行つたのです。デエノヴァの染物屋の小僧さんであつたバリツラ少年の勇敢な行動

が、この大事業をなし遂げた元を造つたことをイタリア國民は忘れることは出来ません。それが今もなほ銅像となつて残つてゐるのです。

それから三百年、「ファシズムの少年團はバリツラ團と呼ぶべし」とムツソリーニ首相が決めたことによつて、バリツラ少年の勇敢な行動は永久にイタリア少年に傳つて、心の鑑みとなることである。後にリットリオ青少年團と改められても、特にバリツラ團の名を残してゐることも、ムツソリーニ首相はイタリア少年に大きな期待をかけてゐるのです。

リットリオ伊太利青少年團は、今から六年前に新らしく出来上つた團體ですが、それ以前のバリツラ青少年團は少年團、少女團、青年團、處女團の四つに分れてゐて、六歳から十八歳までの青少年が入團することになつてゐました。そして、主として體育、訓練に力を入れてゐたのです。

しかし、その後新らしく出来たリットリオ伊太利青少年團は、團員の年を十八歳から二十一歳までとして、この年齢の青少年男女を次の七つの團に分けて、一層訓練、鍛鍊に力をそぐことにしたのです。

狼の子團 (男女共六—八歳)

少年團 特にバリツラ團と云ふ (八—十三歳)

少女團 (八—十四歳)

青年團 (十三—十七歳)

處、女團 (十三—十七歲)

青年フアシスタ團 (十七—二十一歲)

處女フアシスタ團 (十七—二十一歲)

そして、團員は現在約七百萬人と云はれてゐます。團の標語は「信ぜよ、服従せよ、戦へ」と云つてゐます。信ぜよとは、祖國イタリーを信じることであり、服従せよとは、ムツソリーニ對して服従することであり、戦へとはフアシストイタリーを建設するために、あくまでも戦へと云ふことなのです。

リットリオ青少年團の主な仕事としては、精神を鍛へ、體育によつて體を鍛へ、軍事教育によつて第二のイタリー國民としての準備を完成することにあるのです。そのため小學校中學校と連絡して體育を盛んにし、キャンプ生活、保健のための轉地生活、海上及陸上の鍛鍊旅行等を盛んにして次のイタリーを脊負つて立つ青少年男女を、逞しく、そして強くすることに一生懸命になつてゐます。

イタリーの各都市には必ずリットリオ青少年團の支部の大きな建物があり、その中には各種の屋内體育設備が充分にあつて、元氣のよいイタリー青少年が盛んに運動に、體操に、水泳にと體を鍛鍊してゐました。そして、ムツソリーニ首相の望んでゐるやうな立派なイタリー國民になるべく、今、イタリー青少年は力強く立ち上つてゐます。



今、イタリア青少年は力強く立ち上つてゐます。

## 南イタリアにて

イタリアの旅行の中で、一番私の頭の中に残つてゐるのは南イタリアの旅であります。ローマから汽車で南に行くこと約六時間、そこはイタリア第一の港として、また遊覧地として有名なナポリの都會があります。

ナポリ灣に沿つた有名なサンタルチア大通りにあるホテルに泊つて、窓から夜のナポリ灣を見ましたとき、思はず「おゝすばらしい、」と叫んでしまひました。圓い形をした大きなナポリ灣、その灣をへだてゝ向ふにそびえるヴェスビオス火山、あのポンペイを一夜で埋めつくした時から二千年、今なほその時と同じ赤い火を大空に吹き上げてゐるヴェスビオス火山のその赤い火が、ナポリ灣の青い静かな小波に赤い模様をちりばめ、夏の白い月の影が小波をくだいてゐる様は、全く一幅の繪を見る様です。私は白い夏の月と、赤いヴェスビオス火山と、青い海とに美しく飾られたナポリ灣に沿つたサンタルチアの大通りを、日本でもよく歌はれる「サンタルチアの歌」を口ずさみながら歩いたことは旅行中の一番なつかしい思出でした。

このナポリ灣に沿つて、丁度ナポリの反対側にあるソルレントの町は、避暑地としてまた遊覧地として名高いところです。今は戦争のために訪れる人がなく、町はさびれてゐました。高い崖の上にあるこのソルレントの町、底の石まで勢へられる澄んだ海を眼下に、はるかに地中海の水平線を





ナポリの町

眺め、右にヴェスビオス火山、ナポリ灣等を遠くに見る景色は、繪であり、詩であります。ナポリの夜景とは反對に、このソルレントは晝の景色がすばらしいのです。一度こゝを訪れた人は、再びソルレントを訪れて見たくなると云ふので「歸れソルレント」の民謡が出来たのだと云はれてゐます。

しかし、かうした自然の美にめぐまれたナポリにも、自然の恐ろしさもあつたのです。ポンペイの町、それは西洋紀元前から榮えた立派な都會であつたのですが、紀元四〇年頃このポンペイの背後にあるヴェスビオス火山が大爆發して、一夜にして町全體が、灰のために埋つてしまつたのです。埋れてから約千八百年、近代になつてから掘り出して、そのまゝに保存してあります。石壁の立派な道路、二千年前とは思は

にあるこのソルレントの町、底の石まで數へられる澄んだ海を眼下に、はるかに地中海の水平線を見



れない建築には全く驚歎のほかはありません。屋根は殆んど壊れてゐて、柱と壁、だけの家が多いのですが、それでもこのボンベイの廢墟を一巡りしますと、その當時の人々の生活の様子がわかります。このなかで殆んど壊れずに、そのまゝ掘り出されたと云ふ、ベツチと云ふ人の住んで居た家に入つて見ましたが、家の建て方、室の様子等、今とあまり變つてゐませんでした。廣い中庭、それを取りまく廻り廊下など、なか／＼立派なものでした。また野外劇場、音樂堂など丁度今の競技場のスタンドのやうに出来てゐました。町のところ／＼に水道があるのも驚ろかされた一つです。日本の錢湯のやうな共同浴場が數ヶ所にあり、石で造ら

れた大きな浴槽や廣い休憩室までありまし  
た。

このポンペイの廢墟の入口に博物館があ  
つて、こゝから掘出されたいろ／＼のものが  
陳列されてありました。指環、首飾等の  
裝飾品から食事の道具、臺所道具等の日用  
品、其他の生活に必要な道具がたくさんあ  
りましたが、それを見て私は現代の道具と  
少しも變つてゐないのには驚ろきました。

天秤などのやうなものも全く同じ型です。  
その時代の文化の發達はすばらしいもの  
で、今はそれにたとへて蒸汽、電氣、ガス等が  
加はつたくらいです。それを除けば殆んど  
昔と變つてゐないのを知つて全く昔の文化  
に敬服してしまいました。この廢墟を見て  
人の世の移り變つて行く姿を、はつきりと

ポンペイの廢墟



うな共同浴場が數ヶ所にあり、石で造ら  
れた大きな浴槽や廣い休憩室までありまし  
た。

見せられたやうな感じがしました。

## ベルリン 出發

私の最初の豫定では、七月にシベリヤ鐵道を再び通つて歸ることにしてゐましたところ、前にもお話ししましたやうに、ドイツとロシアの戦争のため、シベリヤ鐵道へ行く道がふさがつて歸へることが出来なくなつてしまつたのです。ところがイタリアの旅を終つてベルリンに着いて見ますと北アメリカ、南アメリカを通つて歸へられる方が大分居りました。ベルリンに戦争が終るまでゐなければならぬかとも考へてゐました私も、歸へれるものならば、歸へるべく努力をして見ることにしようと思ひました。それでまづ最初に、大西洋を渡る船のことを日本郵船會社のベルリン出張所に行つて尋ねました。北アメリカのニューヨークに行く船は、ポルトガルのリスボンから出ます。南アメリカのブラジル、アルゼンチン行の船は、スペイン船がスペインの港から出ると云ふことでした。北アメリカを通つて歸へることは、外交官のほかはなかくむづかしいとのこと、私は止むなく南アメリカを通つて歸へるやうに決めました。そして、日本郵船の方にスペインを九月初めに出る船の室をとつて下さるやうに願ひしました。

スペインの船に乗るのには、どうしてもスイス、フランスを通過してスペインまで行かねばならず、また南アメリカに行きましてもブラジル、アルゼンチンを通つて、太平洋岸のチリから日本の

船に乗らなければならないので、その通過する國々のビザを取ることにしました。ビザと云ふ



ず、また南アメリカに行きましてもブラジル、アルゼンチンを通つて、太平洋岸のチリから日本の船に乗らなければならないので、その通過する國々のビザを取ることにしました。ビザと云ふのは、その國の政府が外國人に國內に入つてもよいと云ふことを證明したものなのです。そしてそれは大使館、公使館のほかにも領事館と云ふのがあつて、その領事さんがその證明をするのです。戦争前はその領事さんの考へ一つで、極めて簡単にビザを出したのですが、戦争になつてからは各國はスパイを警戒して一々その本國に問合せて、本國のお許しを得てから出すことにしてゐます。そのために私の通過するスイス、フランス、スペイン、アルゼンチン、チリーの七ヶ國のビザが全部揃ふまで一ヶ月以上かかりました。七月十九日にベルリンに歸つてから九月三日、ベルリンを出發するまで毎日催促や、手續きのために日を送つてしまつたのです。途中であまりに面倒なのでいつそのこと歸へるのをやめて、ベルリンに戦争が終るまで居ることにしやうかとも思つたくらいでした。

けれども、私と同じやうにスペインの船で、南アメリカを通つて歸る方が十七人程居りましたので、何とかしてその方々と一所に行けるやうにと努力した結果、やうやくその方々と一所に九月三日、ベルリンを出發することが出来ました。

一行十五人（あとの二人は飛行機でスペインに行つたのです）、と一所に九月三日午後九時、ベルリンのポツタマー驛を出發しました。なつかしい、そして楽しい思出の多かつたベルリンに最後のお別れをして――。汽車が驛を出ると皆云ひ合はしたやうに、ほつとしました。それは空襲の



あるベルリンを離れたと云ふので。

## ス イ ス に て

翌四日の午後二時、ドイツとスイスの國境であるバーゼルと云ふ町につきました。この町は國境にあつてスイスの領土ですが、この町の中にドイツの驛があつてそこだけがドイツ領なのです。私達一行はそこでドイツとスイスの役人や税關の方々の検査をうけて、いよくスイス國內に入りました。スイスバーゼル驛に行きました私達は、汽車が出るまでまだ時間がありましたので驛の食堂に行つて休みました。この十五人の方のお世話をいろいろとして下さる方が「皆さん何を飲みますか」と云はれたとき、全部の人が「ほんとのコーヒーを」と云つたので大笑ひしました。それはドイツでは代用品ばかり飲んでゐたものですから。食料切符を出さなくても自分の好きなものを自由にたべられるお菓子の山、そしてまた果物の山、そうしたものがお金を出せばいくらでも買へるのが不思議なくらいでした。

一時問ばかり休みました私達は、スイス、バーゼル驛發の汽車にのつて、この國の首府であるベルンに向ひました。スイス國は御承知のやうに世界に名高い景色のよい國です。國の四方が山でかこまれ、有名なアルプス山脈が南の方を走つて居り、このアルプス山脈の麓にあるたくさんの湖がスイス國內の至るところにあります。山、水、木、の美しい自然の景色にめぐまれたこのスイスは、

國內全部が自然の公園と云つてもよい程です。そのために戦争前は世界中の人がこの國に遊びに来

イス國內の至るところにあります。山、水、木々の美しい自然の景色にめぐまれたこのスイスは、

國內全部が自然の公園と云つてもよい程です。そのために戦争前は世界中の人がこの國に遊びに來たと云はれて居ります。その人達がこの國で使つたお金で、政府がいろいろの仕事をする事が出來たと云ふ程、たくさんの方が見物に來たのです。そのために國內のすべてのものが氣持よく出來上つて居ります。汽車は全部電氣機關車で、客車の二等車も日本の一等車のやうにゆつくりと樂に出來てゐて、今まで乗つた汽車のなかでこのスイスの汽車が一番乗り心地がよく愉快でした。窓から見る景色は全く美しく、空は明るく太陽の光もドイツよりは強く、ものが皆生き生きとしてゐるやうでした。空襲がない國へ來たと云ふ感じが、餘程この國の感じを明るくしてゐるのかも知れません。夕方この國の首府ベルンと云ふ都へ着きました。

公使館の方の御案内でホテルについた私達一行は、久しぶりに燈火管制のない街を歩かうと云つて、早速出かけました。灯が明るくついてゐる街、肉、野菜、果物などの食物の他、衣服、日用品等の品物が山のやうに陳列されてある街を歩いて、私は戦争をしてゐない國と、戦争をしてゐる國とが國境を隔てただけで、こうも違ふものかと思ひました。一まわり街を廻つた私達は十一時前にホテルに引あげました。この國はドイツ、イタリア、フランスに囲まれた小さい國ですから、こうした國々からいろいろのことを云はれるのださうです。特にイタリアの國からの注意によつて、午後十一時から燈火管制をするのです。戦争もしてゐないのにとお考へになるのでせうが、そこは大きな國に囲まれた小さい國の弱いところですよ。イギリスの飛行機がこの國の明るいを目あてにし

て北イタリア、南ドイツの方を空襲するのだと云ふことです。決して自分の國のために燈火管制をするのではなくて他の國のためにするのです。しかもそれをしなければ大きな國にどんな目にあふかわかりませんから――。

この國はどこへ行つても山と水ばかりで、農産物のほかは何も出ないのです。石炭、石油、鐵等の近代の文化になくてならない物は、一つも産出しません。そのためそうしたものを他の國（主にドイツださうです）から買はなければならぬのです。此事がこの國の人々を働らかなければならないやうにしました。その結果、他の國で一寸出来ないやうな立派なものが出来るやうになりました。スイスの時計、これなどは世界的に有名です。また、海を持たないこの國で船の心臓とも云はれる船舶用ディーゼル・エンジンなども立派なものが出来、世界中の船にたくさん使はれてゐます。私が南アメリカから乗つた大阪商船の船などもこのスイス製のディーゼル・エンジンが使つてありました。日本の船も大分このスイス製の機械を使つてゐるさうです。山の中で海の機械とは一寸考へられないやうですが、この國の人々は見事にそれをやり抜いたのです。何事でも、やれば出来ることはないと云ふことを實際に示して下さつたやうな氣がしました。その他、兵器なども優秀なものがたくさん出来ることでした。とにかく働いて、研究して、他の國よりもよい物を作り上げ、それを賣つて必要なものを買ふよりほかに仕方のなかつたこの國の事情が、こうした世界的な立派な機械を作り上げるやうになつたのださうです。

立派な機械を作り上げるやうになつたのださうです。

ベルン市で三日ばかり遊びました私は、一行と共にフランス國に入入口の都會ジュネーブに向ひました。電氣機關車の滑るやうなスピード、乗り心持のよい客車、快適な氣分に一行が皆口を揃へて、このまゝ日本に連れて行つて貰へばいくらお金を出して結構だと云つて笑ひ合ひました。途中有名なジュネーブ湖畔を通り、夕方名高いジュネーブ市に到着しました。ジュネーブ湖水の流れ出る河口にあるジュネーブ市は湖水と河をはさんだ、ほんとに繪のやうな都會です。町のどこからでも眺められる湖の中の大きな噴水が、中天高く水を噴き上げ、その湖水のほとりの街路にはくまなく電燈がともつてゐて、繪の中にあるやうな氣分がする美しい都會です。大きな立派な橋が二つあつて兩岸の町をつないでゐますが、その二つの橋の間は鴨や白鳥などの水鳥がゆう／＼と遊んでゐるのも、なごやかな氣分がしました。

面白いことは、この邊ではフランス語を話してゐることです。バーゼルやベルンではドイツ語で話してゐましたが、このジュネーブの附近はフランス語なのです。スイス國はもとオースタリー國の領土であつたのですが、その國の政治のやり方に反對したこの地方の人々が一所になつて、オースタリー國のもとをはなれて獨立したのでした。この時の話に、有名なウィリアム・テルの物語りがあるのはよく御存じのことです。そしてほんとに楽しい愉快な自由な國を造り上げたので、それをしたつて、周圍の地方の人々がだん／＼集つて、ついに今のスイス國が出来上つてしまつたのです。集つた地方にイタリーの一部分があり、またフランスの一部分があり、その地方の人々ま



でたくさんこの國民になつたのです。そのためにこの國內では北の方の大部分ではドイツ語、イタリアに近い地方ではイタリア語、フランスに近い地方ではフランス語を話してゐます。民族もドイツ人、イタリア人、フランス人のほかごく少いもう一つの民族があつてゐる國なのです。ですから、この國の役人や、外國人の世話をする旅行案内協會の人々は、ドイツ語、イタリア語、フランス語、英語の四つの言葉が話せないと勤められないと云ふことでした。このことは大變面倒なことのやうに思はれますが、この國の人民の大部分が三民族であつて、三つの國語を使つてゐることと、世界中の人々の觀光地となつてゐるために、英語も話すと云ふことは、この國民にとつては常り前のことなのです。ですからホテルなどに行きましても、四ツの國語のどれを使つても大體話が出来るのは私達旅行者にとつて大變便利なことでした。

私がスイス國にゐました間に一番不思議に感じましたことは、この國民が戦争が始まつたときにドイツ人、イタリア人とフランス人との間にいがみ合ひがあつたかどうかと云ふことでした。そこで私は日本公使館の人にそのことをお伺ひしました。ところがその方は、次のやうにお話して下さいました。「もと〱この國は同じ考へを持つた人々が集つて造り上げた國なのですから、たとへ人種がちがつてゐましても考へてゐることは皆同じなのです。ですから戦争になつた時も、ドイツ人とフランス人との間になんのこともなく、またイタリア人とフランス人の間にもいがみ合ふやうなことは絶對になかつたのです」と。

一晩こゝへ泊つた私達は、翌朝このジュネーブ市を見物しました。こゝには國際聯盟本部、國際



とは絶對になかつたのです」と。

一晩こゝへ泊つた私達は、翌朝このジュネーブ市を見物しました。こゝには國際聯盟本部、國際勞働事務局、萬國赤十字本部等の建物があるので有名です。戦争前には、こゝで世界中の人々が集つて、いろ／＼の相談をしたところでよく知られた都會です。私は、それ等の建物を見て最後に國際聯盟本部を見ました。昭和八年の春、滿洲事變のことが問題になつて、この本部で世界中の人々が集つて相談しました時、我が國から松岡洋右さんがはる／＼日本を代表して出席し、多くの人々の前で堂々と日本の正しいことをおつしやつたのですが、他の國の人々は日本の言ふことがわからず、遂に四十二對一（この一は日本ですが）で、日本の正しいことを否決してしまひました。その時松岡さんは大ぜいの人々の前で、日本の正しいことがわからなければ日本はこの國際聯盟のお仲間入りは出来ないから脱退します。と云つて、席を立つてさつさと歸つて來られたのです。その時から日本はすばらしい發展をとげたのですが、私はこの本部を見てつくづくとその當時のことを思ひ出したのでした。今はこの國際聯盟に入つてゐる國はほんの僅かばかりであるのを思ひ、この本部のすばらしい建物もなんにもならないのではないかと氣の毒に思ひました。

九月八日午後四時、私はこの世界中に知られてゐる美しい景色の國、そして平和な國スイスにお別れして、ジュネーブ發の汽車でフランスに向ひました。

## 敗れたフランス

三つの客車をつけた汽車は三十分ばかり走つて、フランス國內の國境の驛アネマスと云ふところへ着きました。驛の待合室に入りますと、正面の壁に今のフランス國の主席であるペタン元帥の像の下に「國家再建」(フランス國を再び建て直さう)と大きく書いたポスターが貼りつけてあるのが



ペタン元帥

目にうつりました。昭和十四年九月一日、ドイツとポーランドとの間に戦争が始まつた時、フランスはイギリスと一緒にドイツに宣戦をしたのでした。その結果翌昭和十五年春の戦にフランスはドイツ軍のためにさんぐに敗れて、ついに首府パリまで占領されてしまいました。敗れたフランスは國民に一番信頼されてゐる老將軍ペタン元帥を國家主席に立て、ドイツと仲直りをし、フランスをもとのやうに立派な國に建て直さうと努めました。そして國民にも一生懸命になるやうにと、こうしたポスターを貼つて宣傳してゐるのです。

夕方この國境の驛アネマスを立つて、いよいよフランスを横斷することになりました。今度の旅行ではドイツ、イタリアの他に是非フランスにも行つて見たいと思つたのですが、實際にはなかなか

かむづかしくて、たゞ通過するだけがやつとのことでした。

かむづかしくて、たゞ通過するだけがやつとのことでした。翌朝、眼をさまして見ますと、汽車は地中海に沿つた南フランスを走つてゐました。この地方は有名な葡萄酒の産地です。葡萄島が汽車の窓から見える限り一面にあります。惜しいことに、雑草が一ぱいにはびこつてゐるのです。そしてそこに働いてゐる人はと見れば、老人や女、子供だけで、ほそく草をとつてゐるのです。この有様を見たときに私は、ドイツでの捕虜の兵隊さんを思ひ出しました。今、ドイツに捕虜になつてゐるフランス兵の数は約百万人と聞いてゐましたが、ベルリンにゐました間に、その捕虜達が、鐵砲を肩にしたドイツ兵に見守られながら、道路工事や、建築場の土木工事に働かされてゐました。このことはベルリンばかりでなく、ドイツ國內を旅行しましたとき、あつちこつちで見ました。若い働き盛りのこれらの人々が、祖國フランス

のためではなく、ドイツ國のために働かされてゐる



行ではドイツ、イタリアの他に是非フランスにも行つて見たいと思つたのですが、實際にはなかなか



のです。そのために、この人々の國フランスは働き手を失つて、このやうな氣の毒なことになつてしまひました。このことを見ました私は、ポーランドのことと思ひ合せて、たとへどんな困難なことにぶつかつても、戦争には決して敗けてはならない。どうしても勝ち抜かなければならないと強く――感じました。

長い歴史をもつフランス、いろ／＼の輝かしい物語りのたくさんあるフランス、このフランスには名高い人々がたくさん居りました。歴史の上ではルイ王、ナポレオン皇帝等、美術（フランスの美術は世界でもつとも優れて居ます）ではミレー、ルツィー、ルノアール、セザンヌ等、音楽ではビゼー、グノー、ドビュッシー等（殊にビゼーはカルメンの作曲者で有名で

すが）こうしたすばらしい人々を生んだフランス、たとへドイツに敗れたとしても、世界文化の發



すが）こうしたすばらしい人々を生んだフランス、たとへドイツに敗れたとしても、世界文化の發達に大きな役割をしたフランスが、一日も早く建て直り、以前のやうな輝かしいフランス國となつて、世界の人々のために戦争で破壊された文化の再建のために、再び活躍して下さるやう祈りながら、名残り惜しいフランスの旅を終つたのでした。九月九日、午後一時、私達の乗つた汽車はフランスとスペインの境にあるフランス領のセレベスと云ふ驛に到着しました。

## スペインにて

高い山によつて境されたフランスとスペインは、二つの國をつないでゐる長いトンネルの兩側に國境の町があります。地中海の海を左手に眺めながら、わづかの車をつけた汽車はすぐにこの國境のトンネルに入りました。走ること數分、明るくなつたので外を見ますと、もうスペイン領です。汽車はスペインの國境の町ポルトポルに着きました。こゝでも私達は役人と税關の人の検査を受けて、今度はスペインの汽車に乗るために別のホームで暫らく休みました。

このスペインの驛にはフランコ將軍の肖像が貼られてありました。フランコ將軍、それはドイツのヒットラー總統、イタリーのムッソリーニ首相と同様に以前からスペイン國內にゐた共產主義の人々を一掃して、新らしいスペイン國を打ち建てた人です。見るからにおとなしうな溫い顔をしたフランコ將軍、しかし、そのなかに全スペインを介負つて、立派な國にせずにはおかないと云ふ



決意をあらはしてゐるその肖像を見た私は、こゝにも今までの古い考へを打ちやぶり、日・獨・伊と相携へて、新しい世界を築き上げやうと努力してゐる國のあるのを、たのしく思はずには居られませんでした。

このポルトガル驛を出發したのが午後二時四十分ですが、實際休んだ時間は二時間半でした。それはフランスとスペインでは一時間の時間の差があるからです。スペインの鐵道はロシアのと同じ五呎二吋の廣い幅の線路で、車は木造車でロシアの汽車と殆んど同じでした。汽車の窓から見る景色はなんとなく南の國と云つた感じがです。建物も白か赤でぬつてあり、木も熱帶のものが多く、線路の側に大きなサボテンがあるのも面白かつた一つでした。

やがて、私達の乗つた汽車はスペインの二番目の大きな都會バルセロナへ着きました。こゝは日本で云へば大阪と云つたところです。地中海にのぞんだ大きな都で、戦争前は各國の船が出入りして非常に榮えた所です。ホテルからの迎への大型バスに乗つてホテルに行きました。こゝは空襲がないので街の灯が明々としてゐるので、一行は大喜びでホテルに着きました。私達は連れ立つて、燈火管制のない街をゆつくり歩きました。こゝでも、戦争をしてゐない國ののんびりした姿を見ながら……。暑いスペインの面白い街上風景は、喫茶店などが椅子やテーブルを人の歩く舗道に並べ、そこで人々は涼みながらコーヒーやお菓子をたべてゐることです。

翌日の夕方、私達一行はこのバルセロナを出發して、スペインの首府マドリッドへと向ひました。

翌十日午前十一時頃、マドリッドに到着しました私達は、公使館の方のお出迎へで一旦ホテルに落付いて、日本公使館に参りました。私達一行のために須磨公使が、お晝を御馳走して下さいだったので

翌日の夕方、私達一行はこのバルセロナを出發して、スペインの首府マドリッドへと向ひました。

翌十日午前十一時頃、マドリッドに到着しました私達は、公使館の方のお出迎へで一旦ホテルに落付いて、日本公使館に参りました。私達一行のために須磨公使が、お晝を御馳走して下さつたのです。須磨公使やその他公使館の人達と一所に、日本でも滅多に頂けないやうなおいしい日本料理を御馳走になりました。私達が大變おいしいと云つたのに對して、公使は「これは私が日本から連れて來た料理人が作つたのですよ。そして、私の都合さへつけばこゝを通る日本人には御馳走するこゝにしてゐます。皆さんがうまいと云ひますよ。そのわけは無料たですからね」と。一行は大笑ひをしました。

その日私達はこのマドリッドに泊らずに、夜の汽車でカデイスと云ふ港へ向ふことになつてゐましたが、まだ大分時間がありましたので、そのうちの一人の方が「スペイン名物の闘牛を見物に行きませんか」と云ひましたので、一行はすぐに賛成して公使館の人の案内で闘牛場へと行きました。

## スペインの闘牛

スペインの闘牛と云へば世界的に有名です。スペインの人々は闘牛のある日は日本の相撲のやうに熱心になります。スペインでは闘牛のことを「トロ」と云つてゐます。有名な音楽「カルメン」もこのスペインの闘牛をあつかつたものです。闘牛をする人を闘牛士と云つて、上手な人は相撲の

横綱、大關のやうにスペイン中の人に知られてゐます。牛はこのために特別に飼はれてゐて、どの地方の牛が強いかと云ふこともよく知つてゐます。ですからその強い牛と有名な上手な闘牛士との闘ひになると、それは大變な騒ぎになるのださうです。

私の見物した闘牛場は、マドリッド市のはづれにある大きな立派なものでした。丁度野球場のやうに圓い建物で、まわりが皆スタンドになつてゐて、中央に土のまゝの廣い圓形の闘牛場があり、その闘牛場とスタンドの間に二米位の柵があつて、その内側は闘牛士のかくれ場所になつてゐます。著しい強い太陽がまだ照りつけてゐる午後五時に入場式が始まりました。闘牛は大抵夕方の五時頃から始まるのが普通ださうです。そして二時間位の間に六頭位の牛をたほすのださうです。高いスタンドには殆んど一ぱいの人がつめかけて、盛んにはやし立てゝゐました。やがて正面の貴賓席の反對側の方にゐましたラッパ隊が、昔風の長いラッパを高くあげて、場内に合圖のラッパを鳴らしました。すると正面の左側の方の出入口から昔のまゝの服を着た闘牛士が現はれて來ました。入場式が始まつたのです。最初に現はれたのが徒歩の人で、すぐ後に馬に乗つた人が二人つゞき、その後から二十人ばかり徒歩の人が出て來ました。この人達が闘牛士なのです。皆左の肩に赤い布をかけて、つばのない厚い帽子をかぶり、こまかい模様のついた短い上着と、びつたりしたづぼんをはいた昔風の服裝をしてゐました。その後には馬に乗つた闘牛士が四人程出て來ました。この人も同じやうな服裝ですが赤い布を持たず、そのかはりに長い槍を持つてゐて、帽子はつばの廣いの

をかぶつてゐるのが違つてゐまし

忠

をかぶつてゐるのが違つてゐました。そして、この馬が皆胴に厚い布でこしらへた鎧のやうなものをつけてゐました。一番最後に三頭の馬が後に太い木を横に、丁度物をひいて来るやうな形をしてゐるのをつけて出て來ました。この行列が場内の中央からスタンドの正面の方に向つて行進して、一段とつき出てゐるスタンドに居る人に向ひ帽子を取つて右足を後にひき、上體を前にかゝめる、昔の騎士の禮をしてそれから場内を一廻りして控への場所に行くのです。入場式が終ると野球場の土ならしと同じやうに場内の土をきれい整頓していよゝこれから闘牛が始まるのです。



も同じやうな服装ですが赤い布を持たず、そのかはりに長い槍を持つてゐて、帽子はつばの廣いの



暫くするとラッパ隊が一段高くラッパを吹奏すると、入場式の時に出来た出入口の隣の扉がさつと左右に開きました。とたんに一頭の黒い牛が場内目指して猛烈な勢ひで走り出しました。スタンドの見物人は一齊に拍手やら歓聲やらを送りました。牛は脊中の前の方に小さな赤い布をつけてゐます。これは脊を少しばかり傷つけたのださうです。牛はその傷のために一層猛り立つて場内をかけまわつてゐます。そのうちに二三人の闘牛士が柵のうちから現はれ、赤い布を兩手でひろげて牛を誘ひました。動物、殊に牛は赤い物を見ると餘計におこり出すのださうで、闘牛もそれをうまく利用してゐるのだとのことです。牛は角をつき出して、赤い布目掛けて突進んで來ました。私ははつとしました。その赤い布を持った人がまちがつて牛の角に突さゝれはしないかと。しかし、その人は赤い布の間近にまで牛が來た時にさつと體をかわしたため、牛は十歩程行過ぎてしまひました。するとその人が赤い布を左の方にひろげますと、それを見て牛はまた突進して來ましたが、やはり前と同様にきれいに牛をよけてしまひました。牛は頭と胴とが一所で、首がないためすぐに右なり左なりに體をかわすことが出來ないので。ですから突進して來た牛を近寄せ、右なり左なりに體をかわせば、牛は必ず行過ぎてしまふので、闘牛士達もそれをうまく利用してゐるのです。牛は目的を達することが出來ないので益々怒り、猛烈に突かけて來ますが、いつもきれいに體をかわされてしまひました。

そうしたことが一人で五六回、それを二三人の人が入れかわつてするので、牛はついには口を開けて大きく呼吸をするやうになつて來ました。この時またラッパがなりますと、その人達は引きさ

がつて、今度は手に二本の短の槍をもつた人を見せました。槍をもちつた人は兩手で槍を握り、

そうしたことが一人で五六回、それを二三人の人が入れかわつてするので、牛はついには口を開けて大きく呼吸をするやうになつて來ました。この時またラッパがなりますと、その人達は引きさがつて、今度は手に二本の短い槍をもつた人が現はれました。槍をもつた人は兩手でその槍を高くあげて牛をおびき寄せるのです。牛はそれを見て砂煙りを上げて、槍を持つた人を目掛けて走つて來ました。間近まで來たときにその人は體をひらりとかはすと同時に、その槍を牛の脊に刺しました。牛はそのためになほ怒つてあばれまわります。そのうちにラッパの合圖で、今度は前の出入口から馬に乗つて長い槍を手にした人が二人出て來て、柵の方に寄つて身構へました。その馬のまわりに二三人の赤い布をもつた人がついてゐて、それで牛をおびき寄せるのです。見ると馬は眼隠しがしてありました。これは牛を見て驚ろかないためだそうです。しかし、闘牛には鎧や目隠しをした馬でやるのと、なにもつけない馬に乗つて牛とたゝかふのと二つあるのですが、私は前の方だけしか見ることが出來なかつたのです。やがて牛はその馬を目掛けて突進して、胴を下から持上げるやうに烈しく押して來ました。その時馬に乗つた人は持つてゐる槍で牛をつきましたが、牛はなほひるまず向つたため、とうとう馬もろとも倒されてしまひました。それを見た赤い布を持つた人はすばやくその赤い布を牛に見せて馬から離してしまひました。馬に乗つた人が退場すると最後に闘牛士がたつた一人、赤い布と長い劔を持つて場内に現はれ、正面スタンドに向つて一禮をして中央に進み出て手負ひの牛を誘ひました。その人はかなり熟練してゐるらしく、あせらずゆつくりと牛を右左にかはしてゐました。牛のそばを殆んど離れず體をかはしてゐる様は實に美事でした。しば

らくそうしてゐるうちに赤い布をさつとかへして、裏の黄色の方を出し牛の前から横の方に廻りますと、今まで猛り立つてゐた牛は疲れたのでせう、おとなしくなつてじつと立つて、口で呼吸をしてゐるだけになつてしまひました。闘牛士はその時に場内の見物人の拍手に答へて禮をし、牛の前行き長い劔を持ちかへして牛をねらひました。牛はそれを見て向つて來ましたが、闘牛士は體をかはしながら牛の脊に劔をつきさしました。さすがの牛もその一突に參つてしまつて、地上にへた／＼と倒れてしまひました。場内はまた一しきり拍手の嵐がなりやみません。左側の出入口から三頭の馬が出て來て、その牛をくさりでつないで別の口から引きずつて行きました。その闘牛士は場内の拍手や歡呼に答へながらゆう／＼と退場しました。

この日は六頭の牛とたゝかつたのですが、その間に牛に倒されて氣絶した人が一人、馬が倒されたことが二回、始めて見た私は實に危険なことだと思ひました。聞けばこのために命を捨てる人も時々あるとのこと、餘程しつかりした人でないとなか／＼やれないのではないかと考へられます。そのためかスペインでは前に話しましたやうに、闘牛士は非常な人氣があるさうですが、私は實際にその人達のやつてゐることを見て、こうした危険をおかすのでは、もてはやされるのも當然なことを思ひました。

猛り立つた牛のそばを離れず巧みに體をかはしながら、上手に牛をあしらつてゐる技術だけは美事なものです、疲れた牛を突刺して倒すのはよい氣持はしませんでした。

## カヂス港とセビラ市

スペインの闘牛を見物した私達一行は、その晩午後十時四十分の汽車に乗つてマドリッドを出發し、いよゝ乗船地であるカヂスに向ひました。翌朝、私は汽車の窓から見る熱帶地を思はすやうな風景に、眼を見はりました。スペインへ入つたときの景色よりも、更に熱帶地に近いものを感じられました。人の高さほどあるサボテンが線路の兩側や、その他至るところにあつて、よく繁つてゐるのが眼につき、その上農家が白や赤で塗られてゐるのが、水氣のない乾いた白い土と一所に、強い太陽の光線に照りかへされて、眼をあいてゐられない程まぶしいのです。そうしたところにも農夫が脊の低い牛を相手に、ゆつくりと臼をたがやしてゐるのがなほ暑いものを感じさせられました。この様な平原を走ること半日程で、九月十二日の晝過ぎ私達はヨーロッパ最後の地、そして大西洋横斷の出發地であるカヂスに着きました。このカヂスは、地中海の咽喉と云はれるジブラルタルの北西にある大西洋岸の小さな港町なのです。大西洋に面した眺めのよいホテル・アトランチコに落付いた私達は、ベルリンを出發してからのあわただしかつた旅の疲れを、ゆつくり休ませることにしました。私達の乗るスペインの船「カボ・デ・オルノス號」は十九日にこの港に寄つて、二十日に出帆することになつたので、約一週間餘りこの町にゐることになりました。二三日してから一人が「セビラ市見物に行くことにしませう。」と云ひ出したところ、なにもなくて困つてゐる一





行は、早速賛成して十六日の早朝ホテルを立つてセビラ見物に出かけました。

### セビラ見物

朝五時すぎにとび起きて、朝食をすませるとすぐにホテルを出て、驛の近くのセビラ行のバスの出るところに行きました。大型バスで座席は全部きまつて居り、三十人位乗れる悠々とした乗り心持のよい車でした。午前六時三十分カデスを出發したバスは快よいスピードでセビラを指して走り出しました。途中、かなり大きな町で十五分間位一度休んだだけで、あとは殆んど走り續けて九時三十分にはセビラに着きました。丁度三時間餘り乗り通したわけです。早速ホテルに行つて一休みしてから、街を歩いて見ましたが、外國の街はどこへ行つても

殆んど變つてゐません。たゞその國々の特徴を現はしてゐる位です。このセビラは、實に明るい感

て見ましたが、外國の街はどこへ行つても

殆んど變つてゐません。たゞその國々の特徴を現はしてゐる位です。このセビラは、實に明るい感じのする街で、建物も殆んど赤や白のやうなはつきりした色で塗られ、どことなくけば／＼しい感じでした。晝過ぎに私達は四臺の馬車に乗つて市内見物に出かけました。

セビラ市、と云へばいろ／＼と思ひ出すことがあります。まづ第一に、音樂では有名な「カルメン」この物語りもこのセビラですし、またその次に知られてゐる歌劇「セビラの理髮師」もこの街の物語りです。その他、歴史上有名なのはイサベラ女王の住んでゐた宮殿がありますし、またコロブスのお墓もあるのです。とにかくセビラはスペインでは古い都で、いろ／＼の物語りや、歴史上の數多い話がたくさんにある都會です。ですから、スペインの人々は「セビラを見ずしてスペインを語るなかれ」と云つてゐます。丁度日本で「日光を見ずして結構を語るなかれ」と云ふのと同じやうに……。

四臺の馬車に乗つた私達は、セビラ市の一番大きなそして古い教會に行きました。大きな堂内の中にまた小さな教會が建つてゐるのですから、どれほど大きな建物であるかおわかりでせう。その教會の中にコロブスのお墓がありました。大きな石造の臺の上に、四人の人にかつがれた石の棺の中に入つてゐるのだと案内人は説明しました。大西洋を始めて渡つて西印度諸島や、アメリカ大陸を發見した偉大な人をスペインの人が尊敬してゐるやうに見えました。次に、セビラの宮殿を見物しました。これはその昔有名なスペインの女王、イサベラが住んでゐたところです。中庭がいく



つもあつて、渡り廊下によつて建物と建物をつないでゐる様は、實に美事でした。内部の構造など

つもあつて、渡り廊下によつて建物と建物をつないでゐる様は、實に美事でした。内部の構造など昔とは思へない立派なもので、床、壁、天井など、モザイクのやうなもので貼られてあり、スペインらしいこつた建てかたでした。女王の居たと云ふ部屋、その他たくさんの部屋を見てゐるうちにふと私は昔のその當時の有様を思ひ浮かべました。スペインだけではなく、全ヨーロッパにひびいたイサベラ女王が、美々しく飾つた服を着て、多くのお附きの人をしたがへてこの居間の正面に座し、その前でコロンブスが自分の考へてゐることを堂々と説明してゐるのを、一々うなづいて聞いてゐて、それに對して充分の援助を約束したすばらしい状況を……。このことが原因となつてやがてスペイン人が世界中の海を乗り廻はし、大スペイン王國を築き上げたのですが、今はそのうちの南米諸國は獨立してしまひ、フィリッピンはアメリカにとられ、そして今日の軍政下に置かれ、残された領土と云へばわづかにアフリカに少しばかりがあるだけの小さな國になつてしまつたのですが、こうした建物を見て私は往時の強大な國、世界中を乗り廻した偉大なスペイン人の姿を思ひ出すのでした。こゝを見て次にセビラの公園に行きました。熱帯地方の樹木がたくさんあるので珍らしいこの公園の入口のそばにある廣大な建物を指して、案内人は次のやうに話して呉れました。「こゝは煙草工場で、あの「カルメン」が働いてゐたと云はれてゐるところです。そしてその隣りにあるのが「カルメン」の物語りの中に出て来るドンホセの居たと云ふ兵營です。」と。こゝにも古い都セビラの一つの物語りがあるのです。古い物には大抵いろ／＼の話がありますが、このセ



ビラは昔の大スペイン王國時代からの都なので、このやうな種々の物語りがたくさんにあるのも面白いことでした。

セビラの人々はこのやうな古い物語、そして昔からの大建築があることを誇りに思つてゐると云はれてゐます。丁度日本で云へば、京都と云つたところでせう。

數々の面白い物語りにつゝまれたセビラ。そして昔を思ひ起させるたくさんさんの建築物のあるセビラ。私達はこのセビラに名残り惜しい思ひを残して、まだ陽の高い午後七時、同じバスに乗つてカデスのホテルに引揚げました。

## スペインとフランコ將軍

バルセロナ、マドリッド、セビラと見物した私は、その昔、まだ當時發達しなかつた小さな船で世界中を乗り廻し、アフリカ、南アメリカ、東洋などにたくさんさんの領土を持ち、大イスパニヤ王國を築き上げたスペイン人の遺跡をたどつて、うたゝ今昔の感にうたれるのをどうすることも出来ませんでした。生か、死かの勝負で、生命をかけて猛り狂ふ野生の牛に向つて行く闘牛士の血を、スペイン人全部が持つてゐるはずで。それですから設備のない小さな船に乗つて、世界の海を渡るだけの勇士はたくさんあつたのです。世界に海國スペインの名をうたはれた大王國の現在、その昔を偲ぶにはあまりに氣の毒な程なのです。三年間の革命のために約百萬人のスペイン人が倒れ、その

ために街頭には家のない子供がたくさんゐて、まだ内亂の後仕末が出来上つてゐないやうに見える



フランコ 將軍

ために街頭には家のない子供がたくさんゐて、まだ内亂の後仕末が出来上つてゐないやうに見えるのです。しかし、共產主義の政府に對して、決然として立ち上つた英雄フランコ將軍は、幾多の困難をのりこえて遂にこの政府を倒し、ドイツ、イタリーと手を取りあつて、以前のやうな大スペイン國を打建てるべく懸命の努力をしてゐます。ナチス黨、ファッシスト黨と同じやうにこのスペイン

にもフランコ將軍を黨首とするファランヘ黨があつて、この黨が新しいスペイン國を建て直すために活動をしてゐます。先づ第一にすべきことは前にお話ししたやうに、親のない氣の毒な子供達の救済事業でした。街のところどころにあるその事業本部に、これらの子供達を集めて、食事をさせてゐるのを見ました。このやうな仕事にはファランヘ黨の婦人部の方が盛んに活動してゐると云はれてゐます。其他、國の中のいろいろの制度や施設を改めることはたくさんあります。ファランヘ黨は、フランコ將軍の命のまゝに活動して改めなければならないことをどしどし改め、どんな困難なことにぶつかつても始めの考へをまげないで、必ずもとのやうな大スペイン國を

築き上げるまで懸命の努力を續けることとせう。フランコ將軍はドイツ、イタリーに随分お世話になつたので、今もその御恩を感じて、今度のドイツとロシアの戦争にはドイツのためにたくさん義勇軍を送つてゐることとす。そしてこのドイツ、イタリーと仲のよい日本にも非常に好意を持つてゐます。

このやうにして、新しい近代國家を作り上げやうとしてゐるスペイン、それを指導してゐるフランコ將軍、そして、この國民が世界の海を乗り廻した往時の氣力を持つて、一致協力して突進んだならば、必ず近いうちにすばらしい國家として生れ變ることとせう。そして、日本、ドイツ、イタリーと共に手を携へて、世界新秩序建設のために協力し、樞軸陣のために萬丈の氣をはいて下さることを願ひ益々フランコ將軍の御健闘を祈るのでした。

### スペイン船カボ・デ・オルノス號

九月十九日、それはヨーロッパを去る日でした。いろ／＼の面倒な手續きも無事にすみ、夕方にはいよいよ船の入港を待つばかりになりました。私はホテルの前庭の椅子に腰かけて船の來る大西洋の方を眺めて居ました。同じ船に乗るらしい人々も三々五々連れ立つて海の方を眺めては船の見えるのを待つてゐるやうでした。七時頃小さいボツツとしたものが水平線のところに現はれると皆立ち上つて望遠鏡を出して見始めました。その黒い點がだん／＼大きくなつて、遂に間違ひなく私

達の乗るべきカボ・デ・オルノス號とはつきりわかつた時、一行はほつとしました。とにかくこの

達の乗るべきカボ・デ・オルノス號とはつきりわかつた時、一行はほつとしました。とにかくこの船に乗れば一步日本に近づくことが出来るし、また戦亂のヨーロッパから立ちのくことが出来ると云ふ氣持ちが、さうしたものを感ぜたのでせう。しかし南アメリカに到着してから、果して日本の船があるかどうか分からないのですが、この船に乗つて南アメリカに渡るより他に道がなかつたのです。

夜十時私達一行十七名はカボ・デ・オルノス號の船中の人となりました。一夜、港に碇泊したこの船は翌二十日の午前六時に汽笛を高らかに鳴らして、カチス港を出帆しました。私は甲板に立つて、去り行くスペイン否ヨーロッパに最後のさよならをしました。いそ／＼の楽しいことや困つたことなどの思出多いヨーロッパ、そしてまた、も一度訪れることがあるかどうか分からないヨーロッパを見えなくなるまで何時までも眺めてゐました。さようならヨーロッパ、なつかしいヨーロッパ、さようなら……。

## 大 西 洋 横 斷

朝食をすませて甲板に出て見ますと、船の前後左右には何も見えず、たゞ一面の紺碧の海ばかりです。私は今世界三大海洋の一つ大西洋の洋上に居るのです。船は北緯三十六度西經八度のあたりを西南に向つて速力十八ノット位で走つてゐます。このカボ・デ・オルノス號は二萬二千噸もある



大きな船で、乗客は約八百人、船員は二百人、合せて約千數十人の人を乗せてゐました。この乗客のうち約半分はユダヤ人で、ヨーロッパを逃げ出して南アメリカ諸國へ行く人、そのあとの半分の大部分はスペインからブラジル、アルゼンチンに移住するスペイン人です。今は戦争中のため交戦國の船は、敵國の軍艦の攻撃を受ける危険があるので、航海を中止してゐます。スペイン國のやうな中立國の船だけしか動いてゐません。ですから、旅行者はその少しの船に乗るために大變な苦勞をするのです。私もこの船に乗るために、七月の終りに船賃を拂つて船室をとつたやうなわけでした。

大西洋を航海するのについてたゞ一つの危険は、交戦國の軍艦、潜水艦に停船を命ぜられることがあるかも知れないと云ふことです。ですから、船は中立國だと云ふことをはつきりするために船の横にスペインの國旗を大きく書き、また艦尾にスペインの國旗をいつも立て、すぐそれとわかるやうにしてありました。夜は燈火をあか〜とつけ、また船の横のスペイン國旗を書いてあるところにもあかりをつけて走つてゐました。

日本人は十七名でしたので、非常に心強い旅を續けることが出来ました。船中の生活はほんとうに至れり盡せりです。食事は朝は七時から九時迄、お書が一時、夜が七時の他、朝十時にスープを飲ませますし、午後四時には菓子とお茶を出すのです。其他喫茶店が別にあつて好みのものを飲むことが出来ます。また音楽室があり、午後二時と五時に樂士達がいろ〜の音楽をやつて樂しませて呉



とが出来ず、また音楽室があり、午後二時と五時に樂士達がいろ／＼の音楽をやつて樂しませて呉

れます。夜は一日おきに音楽と映畫がありました。後部甲板には小さなプールがあつて毎日海水を入れかへて遊べるやうにしてありました。このやうにいろ／＼な設備のある船の旅も、なかば過ぎる頃にはそろ／＼あきて來るのです。毎日同じことばかり繰返へしてゐるからでせう。こうした退屈な船旅のなかで、私達をなぐさめてくれるものは魚の群です。なかでも飛魚の大群が船の音におどろいて、一齊に飛び立つて、はるか彼方の波の中に消えて行くさまは、丁度銀扇をひろげて波の上にまきちらしたやうで、實に壯觀でした。そのほか、海豚や鰻の群に出會つたこともたび／＼でした。紺碧の海中を體をくねらせて泳いでゐるさまは美事です。しかしこうした静かな海も時には嵐のために、猛り狂ふこともあります。出帆してから三日目、大西洋の真中で最初の嵐に遇ひました。大きな波が船首にぶつかつて、その波が前甲板を洗ふ様は實に壯觀で、おだやかな海がどうしてこんなに暴れるのかと不思議に思はれる程です。船は前後左右にゆれて、そのために速力はぐつと落ち、いつもの半分も走れない状態です。

嵐に一度だけ遇つたカボ・デ・オルノス號は、九月二十九日午後四時西印度諸島のうちのイギリス領トリニダッド島へ到着しました。

## 英領トリニダッド島

戦争になつてから大西洋を横斷する船は、イギリス國の了解を得るやうになりました。現在は大

西洋だけは、まだイギリス帝國の勢力が強く、そのために中立國の船はイギリス帝國に届け出てか

つ、航海をする上云ふことです。イギリス國はその船を一應英國領と呼んで、そこで英國役人が船

西洋だけは、まだイギリス帝國の勢力が強く、そのために中立國の船はイギリス帝國に届け出てから、航海すると云ふことです。イギリス國はその船を一應英國領に呼んで、そこで英國役人が船の中を検査するのです。乗客のうちに怪しい者がゐるかどうか、積荷の中に相手國に持つて行く物があるかどうかを――。

私達の乗つたスペイン船カボ・デ・オルノス號もその検査を受けるために、このトリニダット島に寄つたわけです。若し寄らないで直接目的地へ向へば、英國の軍艦にどんな目に遇ふかわかりませんから。戦時なればこそと思ふと同時に、戦争中の一つの姿を見ることが出来ることを面白く思ひました。船がこの島に到着しますとすぐに二三隻のランチがまわりに來て、島を遠く見るところに碇泊させました。そして船内に英國の役人や軍人が乗り込んで來て警戒を始めました。私の持つてゐるものは別に大したものもなく、その上日本政府から頂いた旅券（外國旅行をするものは必ずその國の政府から出た手帳のやうな旅券「パスポート」を持つてゐなければならぬのです。それにはその國の政府の證明やら旅行先や目的などが書いてあります。）は普通の旅券で、お役人の旅券ではないのですから、怪しまれる何もないので、さう心配をしませんでした。その日は、おそくなつたらしく、別に何もなかつたのですが、翌日になると大ぜいの英官憲が來て、乗客の荷物の検査を始めました。私もカバン等を開けて待つてゐますと、やがてイギリスの役人が室に入つて來て一通り調べましたが、何もなかつたのですぐに室を出て行きました。私は甲板に出て、検査の様子を



見てゐましたが、そのうちに船客のうちの二三人が役人と一所にランチで連れて行かれました。私とはどんな人が連れて行かれたのだらうと思つて尋ねて見ますと、それは南アメリカのコロンビア國に行くイタリアの領事さんと、アルゼンチン國に行くルーマニアの外交官と、その他ドイツ側のスバイの疑ひをかけられた人々でした。氣の毒なことにはルーマニア國の外交官は、奥さんと子供だけ船に残されてしまつて、御主人だけ連れて行かれましたが、出帆前に無事に船へ戻つて來られたのは何よりでした。とにかく、ヨーロッパの樞軸國の人々は嚴重な検査をうけたのですが、私達一行のなかにもドイツ製の剃刀カミヤリを六十個もとられた方や、ドイツの軍歌のレコードをとられた方もありました。日本語で書いたものは全部持つて行きましたが、それは後で皆返して來ました。また現像をしないフィルムを持つてゐた人は皆とり上げられてしまひましたが、後になつてイギリスの役人が全部現像して、アルゼンチンの大使館に送ることにすると云ふことで話しがつきました。

イギリス人と云へば、世界でも紳士だと云はれる位禮儀が正しいので知られてゐます。検査に當つた役人もさうでした。取調べるために室に入つて來ますとまづ始めに「ごめんください」と挨拶をします。そして、私に向つて「暑いですから上衣をとらせて頂きたいですが」と許しを願ふのです。私が「どうぞ」と云ふのを待つて、始めて上衣をとるのです。そして検査の仕方も實に丁寧で決してゐるやうなことはありませんでした。検査が終ると「大へん御迷惑をかけてすみませんでした。これも役目上やむを得ませんので、どうぞ悪しからず。有りがたうございました。」と、丁寧に

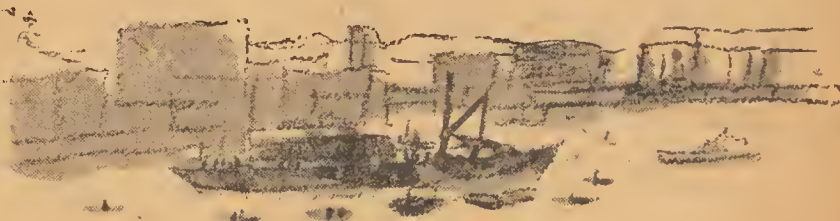
挨拶をして出て行きました。私は、さすが紳士國と云はれてゐるだけあつてなか／＼立派な態度だと思つて感心しました。これがイギリス人のやり方です。こうして皆こゝろを感しを

挨拶をして出て行きました。私は、さすが紳士國と云はれてゐるだけあつてなか／＼立派な態度だと思つて感心しましたのですが、これがずるいイギリス人のやり方です。こうして皆によい感じを與へてゐましたので、私はこれならば大したことはないと思つてゐたのですが、船がトリニダット島を出帆してから、ふと氣が付いて船の倉庫に行つてドイツ、イタリーから頂いたたくさんのパン、フレットや、寫眞帖等を入れておいたトランクを出して開けて見ましたところ、中は空になつて、僅かに少しばかりの道具が入つてゐるばかり、パンフレットや寫眞帖はなにもありませんでした。皆イギリスの役人が敵國（つまりドイツ、イタリーのことです）の宣傳になる材料を持つて行くことは出来ないと思つて、とり上げてしまつたとのことでした。私は検査のときの態度で人々の心をやはらげておいて皆を安心させ、そのかはりこのやうなことは手きびしくやる、これがほんとうにずるい、老獪なやり方と云ふのだらうと思ひました。

トリニダット島で停船すること四・五晩、樞軸國人四名が下船の上、イギリスの役人に連れて行かれたほか、別に大したこともなく、十月三日午後四時に次の寄港地であるヴェネヅエラ國のラグアイラ港を指して出帆しました。

## ラ グ ア イ ラ 港

十月三日午前、トリニダットを出帆しましたカボ・デ・オルノス號は、更に西にパナマ運河の方



へ進みました。乗客は皆ほつとした様子でした。それはもうこれでうるさい取調べもすんだことだと思つたからでした。翌四日早朝、船は南アメリカ大陸の獨立國ベネズエラのラグアイラ港へ着きました。船は一日碇泊してゐました。數十人の人々がこの港で降りました。私達は上陸して散歩をしやうと思つて係の人に頼んで見ましたがだめでした。この港には暫らく前まで日本の船が來てゐたさうですが、今はこの方面には日本の船は來てゐないのとてでした。ベネズエラ國は南アメリカ洲の十ヶ國の獨立國のうちの一つで、面積は日本の五割方大きいさうですが、鐵道は一本しかないとのことでした。しかし、石油の產出は世界で四番目ださうで、港には石油輸送船がたくさんゐました。赤道近いこの港は強い太陽に照らされて、建物や山などがなんとなく赤く見え、見たゞけでも暑苦しいやうな感じがしました。石油でもつてゐるこのベネズエラ國も他の產物はあまり目立つたものはないさうです。

船はブラジル國のリオデジャネイロに着くまで、十數日の間、千人餘りの人がたべる食料をこの港で積み込むのに終日かゝつてゐました。肉、魚、野菜、果物を積んだ小さな船がたくさんオルノス號の周圍にあつまつて來て、それを起重機で船の中に入れるのを、私達はじめ上陸出来ない船客達が甲板

から見つめてゐました。午後八時、船はこのラグアイラ港を出帆して、なほ西に向つて走り出ししました。オランダ領キユラソー島へ向つて……。

から見つめてゐました。午後八時、船はこのラグアイラ港を出帆して、なほ西に向つて走り出しました。オランダ領キュラソー島へ向つて……。

## キュラソー島

カボ・デ・オルノス號がキュラソー島に到着したのは翌五日早朝でした。朝起きて船の窓から海を見たとき近くに大きな島が見えてゐました。船から見えるこの島の海岸に船の着くやうな場所がないのでどこに着けるのだらうかと不思議に思つてゐますと、やがて船はその島に向つて眞直ぐに進みました。私は船の前の方に立つて見てゐますと、島の中に丁度川のやうな入江があつて、そこへ船は進んでゐるのです。入江の兩岸をつないでゐる橋が左右に開いて、二萬二千噸の大きなカボ・デ・オルノス號は、このキュラソー島の中に入つて行きました。暫らく進むと、かなり廣い丁度湖水のやうなところへ出ました。見渡すとその湖のやうな入江のまわりの岸に石油タンクがたくさん立ちならんでゐます。一方の岸には石油を精製するための工場が立ちならんで煙をはいてゐますし、精製する時に出るガスを燃やしてゐるのでせう眞赤な火が盛んに燃え續けてゐます、「石油の島キュラソー」とは聞いてゐましたが、こんなに盛んなものだとは思ひませんでした。オランダ領であるこのキュラソー島は、ベネヅエラ等が出る原油を油輸送船でこの島に運び、こゝで精製したガソリンを各國に賣つてゐるのです。オランダ領ではありませんが、それは名ばかりで、オランダ本





國はドイツ軍のために占領され、その政府は  
 ウイルヘルミナ女皇と共にイギリス國に逃げ  
 てしまつたため、この島も實際はイギリスの  
 勢力がかなり入つてゐます。

見渡す限りの石油タンクが行列してゐるこ  
 の湖のやうな入江の一隅の岸に横付けになつ  
 たオルノス號は、こゝで重油と水を充分に積  
 み込むのです。船の内外はオランダ兵が警備  
 してゐますし、それにまぢつて眞黒な黒人兵  
 士が歩いてゐるのも變つた風景でした。一日  
 停つてゐるだけだと思つてゐたのに、二日目  
 になつても船は出帆する様子が見えません。  
 どうしたのかと思つてゐますと、二日目の午  
 後になつて船内は急に騒がしくなりました。  
 それはトリニダット島から英國の役人が飛行  
 機でこの島に来て、船客のうちの獨伊に關係

ある人々を降しに來たからでした。十數人の人々、その中には婦人もまぢつてゐましたが、それら

ある人々を降しに來たからでした。十數人の人々、その中には婦人もまぢつてゐましたが、それらの人々の荷物も船の倉庫から運ばれ自動車で連れ去られてしまひました。その中には私の顔なぢみの人もゐましたので、それから後時々あゝあの人はどうなつてゐるだらうかと思はずには居られませんでした。それが仲よしのドイツ、イタリアに關係のある人々ですから尙更のことです。幸ひ日本人一行は何事もなくすんだのはほんとうに嬉しかつたことでした。トリニダット島とキュラソー島で英國の役人に連れ去られた樞軸國の人々は合計二十人でした。

十月八日午前三時、珍らしい石油の島とともに、いやな思ひ出のキュラソー島を出帆して、いよ／＼ブラジル國のリオ・デ・ジャネイロ港へと向ひました。このキュラソー島からパナマ運河まで二日間、運河をこえれば太平洋だのにと、日本人一行はみな言ひ合つて残念がつてゐましたが、船はパナマ運河を後にして、また大西洋へと進んで行くのでした。ベルリンを立つてから三十五日になります、まだ日本までは五分の一しか來てゐません。

## 再び大西洋を南下して

船は西印度諸島と南アメリカ大陸の間を東に向つて大西洋へ出るのです。この邊はまだ英國の勢力のうちなので、何時またどんなことになるかも知れないと云ふ氣持がしてゐるので、船内もひっそりしてゐましたが、それでも毎日きまつたやうに音樂會、映畫會がありました。しかしそれらも

スペインを出てから引き續いてあるので、船客も殆んどあきてしまつたやうでした。幸ひ無事に英國の勢力範圍を通過して、南アメリカの東端を右廻りした船が一路南に向つて進むころから船内はだん／＼にぎやかになつて來ました。それは近く赤道を通過するので、その時のお祭りの準備が始まつたためです。

赤道祭と云ふのは、船が赤道を通過する時船内で催すお祭りを云ふのです。それは毎日同じやうなことばかり繰り返へしてゐる船内の退屈をまぎらはすばかりでなく、赤道を通過したことをお祝ひするのです。赤道祭のやり方はその國々や船會社によつても異なるやうですが、大體海の神様が大きな鍵を船長に渡して、船長はそれで赤道のテープを切り開き海神から赤道通過の許可證を貰らふのださうですが、これらの役につく人は船員か船客の中からえらばれて假裝してやるのです。オルノス號は今その準備で船客達は大騒ぎです。

十月十三日朝、オルノス號は赤道を通過して船は南半球に入りました。赤道附近は有名な貿易風帯にあるので、船内は割合にしのぎよかつたのはなによりでした。この日から三日間赤道祭で大へんな騒ぎでした。第一日の午後船客の中からえらばれた海神の一行が、船客に赤道通過證を與へる祭が始まりました。海神の夫婦が五六人の従者を連れて樂隊を先頭に船内を一廻りし、やがてプールの上の席にどづかと腰をおろして通過許可證を渡すことを船客一同につげました。一番始めに呼び出されたのはスイスの若い婦人でした。海神の前に行つてひざまづいて頭をさげると海神は一枚

の許可證をとりあげて、その婦人に通過の許可を與へました。

と出されたのはスイスの若い婦人でした。海神の前に行つてひざまづいて頭をさげると海神は一枚

の許可證をとりあげて、その婦人に通過の許可を與へました。

すると従者は持つてゐたバケツから、ウドン粉や、石鹼水や卵などを海神に渡しました。海神はそれらを受け取つて、まづウドン粉をその婦人の頭からかけ、次に卵を頭に落しました。

卵は割れて、黄味が頭から脊中の方へ流れて行く

その上へ、今度は石鹼水をかけ、最後にその婦人をプールの中にもうり込んでしまひました。見物の船客達

は腹をかゝへて笑ひましたが、その婦人はこうしたことを覺悟してゐたのでせう、海水

着を着てゐてプールに落されても

平氣で泳いで

上つて來まし

た。見物人は

やんやと、大

喝采でした。

引き續いて二





十人ばかりの人が呼び出されて同じやうな目に合ひましたが、中にはなか／＼出てこないで従者が引き出しに行く人もあり、普通の服装をしてゐてそのまゝプールに落された人などで夕方まで大へんなにぎやかさでした。終りにとう／＼海神夫婦までプールの中に落された上、あがらうとするところを水中から足を引つぱられるやらで、全く目茶苦茶な騒ぎが續きました。

第二日は午後には子供達の假裝行列がありました。親達からいろ／＼と考案の服を着せられた子供達が、船客の中からえらばれた審査員の前に出て来るのですが、泣くやらおこるやらで大へんな騒ぎ、全部紙で作つた着物ですが昔の女王様、インデアン、トルコの王様、さては曲馬團のピエロまで出て来て見物人は大喝采、終つて子供達は玩具の御褒美をもらつて大喜びでした。第三日は午後船中運動會がありましたが、日本人も二人ばかり出て一等をとりましたのは愉快でした。夜は大人の假裝行列があつてこれが一番にぎやかでした。船客達はいつものは十時頃になるとどこも静かになるのに、今日ばかりは十二時頃まで騒ぎまわつてゐました。この三日間のお祭りで、トリニダットやキュラソーでうけたいやな思ひをすつかり吹き飛ばしてしまつたやうでした。

船は尙も南へと進んで、リオデジャネイロに向つてゐます。こうした三日間にわたるお祭りも無事にすむと、あと三日ばかりでブラジル國のリオデジャネイロに着くので、ブラジルに上陸する人はぼつ／＼降りる支度を始めました。ところがリオデジャネイロの日本の大使館から、日本人は全部リオデジャネイロで下船して、そこで日本の船に乗るやうにとの電報が着きました。私とあと

二人の人はブラジル國に上陸する許可をもつてゐなかつたために、すぐに大使館へその手続きをす

二人の人はブラジル國に上陸する許可をもつてゐなかつたために、すぐに大使館へその手續きをするやうにお願いする電報を打つておきました。若しだめならば止むなくアルゼンチンのヴエノスアイレスに行くつもりにしてゐましたところ、間もなく假上陸の許可が降りたから下船しろとの電報が來ましたので、一行十七人と一所に行動することが出来るのを喜んでゐました。さうしてゐるうちに船は私達の降りるリオデジャネイロに十月十九日の午前二時到着しました。

### リオ・デ・ジャネイロ

十月十八日の晝すぎになつて、私達の乗つたカボ・デ・オルノス號はその日の夜おそくブラジル國の首府、リオ・デ・ジャネイロ港に入港することがはつきりしました。夕食をすませてから私は、友達と一所に甲板に出て見ましたが、まだ陸地らしいものが見えませんでした。どうせ今夜着いても明朝にならなければ上陸することは出来ないのだからと思つて、一たん部屋へかへつて休むことにしました。ところが十時すぎになつて友人が私の部屋に来て「甲板に出て見なさい。リオに着いたから」と誘ひに見えましたので、連れ立つて上甲板に出ました。船は港外に近づいてゐます。夜空は一面に晴れて南半球の星が空一ぱいに輝いてゐます。はるか空に菱形の風のやうな形をした南十字星が南國を守るかのやうに輝いてゐます。リオの街は山と海に囲まれた自然の美しい港だと聞いてゐましたが、夜であるためにその美しさはわかりませんでした。しかし、夜の港の景も實にすば



リオ・デ・ジャネイロの港

らしいものです。四十湊の沖の方から見ると云ふ二千三百尺のコルコバード山の頂上に立つ高さ三百尺のキリスト聖心の像が電飾によつて夜空にくつきり浮び上つてゐるさまはリオ・デ・ジャネイロの名物の一つです。それに續く一連の山々の中腹から海岸にかけての家々の灯、コバカバナの海岸通りに行儀よく間をおいて立ちならんだ街路燈は、船の上から見ると丁度眞珠の頸飾り（コバカバナ）のやうです。大きな鯨が海上ににゆつと體を半分現はしたやうな珍しい形のバン・デア・アスツカールの岩山の側を船はゆつくりと進み、やがて岸壁に横付けになりました。時に十九日午前三時、私は明日の上陸のために少しでも休まうと部屋に戻りました。

朝、始めて見るリオ・デ・ジャネイロの風光、空も海も一様に明るい藍色につまれ、陸地に深

く入り込んだ港灣は、自然の防波堤をなし、灣内にある數々の奇岩、それを取圍む緑の山々、その

空も海も一様に明るい藍色につつまれ、陸地に深

く入り込んだ港湾は、自然の防波堤をなし、灣内にある數々の奇岩、それを取囲む緑の山々、その中腹から海岸にかけての市街の近代的な建物、灣内とは思はれない程きれいな藍色の海、白い岩山バン・デ・アスツカル、コルコバート山頂の丁度雲上から降り立たれたかのやうに兩手を擴げて街を見下してゐられるキリストの像、世界三大美港（イタリーのナポリ、オーストラリアのシドニー、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ）の一つと云はれるのもなるほどと思はれました。水が深く幾萬噸の大きな船も樂に入港出来る、このリオ・デ・ジャネイロは「一月の河」と云ふ意味なのです。それは西暦一五〇二年一月にポルトガルの航海業者コエリオと云ふ人に依つて發見されたのです。コエリオはこのを發見したとき、深く陸に喰ひ込んでゐる港湾を河（リオ）と見誤つて一月（ジャネイロ）に見つけたので、それを記念するために名付けたのださうです。

朝食がすみました頃大使館その他の方々が、一行を迎へにお出でになりました。上陸許可を得て居られる日本人の方は皆下船して、日本の船を待つことになりましたが、私とあと二人の方は大使館の御努力にも拘はらず、ブラジル國の外務省と内務省の行違ひから、とう／＼上陸することが出来ませんでした。やむなく一行とお別れてアルゼンチン國のブエノスアイレスに向ふことにしました。しかし船が港を出帆するまでには、まだ時間が大分ありましたので水上警察の方にお願ひして、街を散歩することになりました。

スペインのカデイス港を出帆してから丁度一ヶ月目で、大地を踏むことの出来た私は思ひきり足



をのばして歩きました。リオ・デ・ジャネイロ市の一番繁華な街アベニード・リオ・ブランコ、熱帯樹が美しく繁茂した数々の廣場と、堂々とした椰子樹の並木とが此の都の特徴であります。主な道路にはモザイクの鋪装がしてあつたのも珍らしく、街の様子も歐米式で、數十階の堂々とした建物もたくさんあ

り、立派な高級車や、きれいなタクシーが無數に走つてゐました。

反對側に渡るのには、十字路の信號によらなければ時間

間がかかるほど自動車がいつばいで、全くヨーロッパやアメリカの文明都市と少しも變りませんでした。小高い丘の下の特ネルの道路を抜けると、そこは眞珠の頸飾りと云はれるコバ・カパナの海岸です。海岸の砂濱に沿つて敷料に渡る立派なドライブ道路が坦々として續き、その道路をへだ

て、高い立派な建物が立ちならんでゐるさまは一寸變つた海岸風景でした。

十月と云へば、北半球の日本では秋の眞盛りであるのに、こゝリオ・デ・ジャネイロは氣候から



て、高い立派な建物が立ちならんでゐるさまは一寸變つた海岸風景でした。

十月と云へば、北半球の日本では秋の眞盛りであるのに、こゝリオ・デ・ヂャネイロは氣候から云ふと丁度春ですが、赤道近いために夏の暑さでした。丁度日本と反對な氣候にある南米に在留する日本人は、夏の暑い時に新年を迎へるので、汗をふき「新年お目出度う」と挨拶するのは面白いことであらう。街には白人、黒人、半黒人、インディアン等色々な人種が歩いて居ます。他の南米諸國は全部スペイン系の人種ですが、このブラジルだけはポルトガル人です。このポルトガル人に混つて他の人種が同じやうに生活してゐるのですが、面白いことには時々白人の夫婦が黒ん坊の子供を連れて歩いてゐるのを見かけることでした。三百年前からこの地へポルトガル人が移住して、黒人と一所になつたため、隔世遺傳といふので白人同志の間に黒人が生れることがよくあるとのことでした。

街を一通り御案内して下さつた朝日新聞社の特派員、荒垣さんは「これから私の家へ行つておそばを御馳走してあげませう」と云はれました。こんなところへ來て日本のおそばをたべられるとは思ひませんでした。よく考へて見ますと、このブラジルには日本人が二十三萬人もゐて、その人達が自分達の手で何でもこしらへてゐるのださうで、日本の食物は殆んど無いものはないと云つてもよいことでした。荒垣さんの家で久しぶりに、おそば、味噌汁、お豆腐等でさつぱりしたお茶漬を御馳走になつて日本にかへつたやうな思ひをしました。

十九日午後八時、上陸出来なかつた私始め二人は、再びカボデオルノス號の船中の人となつて、リオ・デ・ジャネイロを出帆しました。

## サ　　ン　　ト　　ス

翌二十日午前八時、同じブラジル國の港サントスに入港しました。サントス港の碇泊は十二時間位だつたので見物のため上陸することになりました。大阪商船會社の出張員の方の御案内で市街を見物しました。こゝはリオ・デ・ジャネイロにくらべると、丁度田舎の街と云つたやうな感じですが、しかし、この港は汽車で約二時間餘りの奥地にある都會、サンパウロ市の出入口のやうな場所になつてゐるため大西洋航路の船は必ず寄るのださうです。そしてサンパウロ州の産物特に綿とコーヒーの積出港として有名です。市街は大きな建物はなく、街幅もせまく、至るところに熱帶性の樹木が繁茂してゐました。海岸の砂濱は非常に硬く、波打際を自動車でドライブしたことは面白い思出でした。郊外をドライブしたときに道路の兩側は一面のバナナ畠で、おいしさうなバナナが一ぱいぶら下つてゐました。取らうと思へば、いくらでもとれさうなので「盗まれないでせうか？」と尋ねて見ますと「この土地はバナナが出来過ぎて、皆たべ飽きてゐるのです。ですから土地の人は泣く子をおどかすのにバナナを食はせるぞ、と云ふくらいです。バナナを食はせると云はれるとなべ飽きてゐる子供はだまつて泣きやみません。盗むものですか」とのお答へでした。

サントスより七百米の高所にあるサンパウロ市は熱帯地方ではありませんが、高さの関係で涼しく大へん住みよいところだそうです。土曜から日曜にかけてサンパウロ市の人々は、このサントスに遊びに来るのださうです。そのためにサントスの街としては、立派なホテルが二つほどあるのも遊覧地としてでせうと思はれます。

その日の午後八時、船はサントスを出帆更に南下、アルビンチンに向つて最終の航海についたの





です。この航海の途中はからずもヴェノスアイレスから東京日々新聞の特派員鈴木さんから電報が来て、ブラジルで上陸出来なかつた私達に、ヴェノスアイレスで日本の船に乗るやう準備せよと云つて來ました。私達はリオ・デ・ジャネイロで乗り換へるはずの日本船が、まだ碇泊してゐるのを知つてほつとしました。そして早速乗船手配を頼むやう返電しておきました。

オルノス號は、十月二十三日午後一時南アメリカの三大河の一つラ・プラタ河の河口にあるウルグアイ國の首府モンテビデオ港に入港しました。このモンテビデオ港は昭和十五年秋、ドイツの軍艦グラーフ・シュペー號がその沖合で優勢な英國の軍艦と戦ひ、遂にこの港に一旦入港、數日後この港外で悲壯な自爆をどけたので知られてゐるところです。私達は甲板に出て街の様子を眺めてゐると波止場にたつた一人の日本人が手をあげて呼びかけてゐるのを見ました。このやうな異國の空の下、しかも外國人ばかりの中に、同胞の姿を発見したときの嬉しさ、なつかしさはなんとも云へないものです。その人は、大阪商船のモンテビデオ出張員でヴェノスアイレスとの連絡打合せのため、わざわざ船までお出て下さつたのです。日本船の出帆が一日延期され、そのためゆつくりと乗り換へることが出来ると聞いてほつとしました。私達の最初の計畫ではヴェノスアイレスで船を降り、南アメリカを横斷、アンデス山脈を越え、チリー國に出て太平洋岸の港バルパライソから、日本の船に乗ることにしてゐましたが、聞くところによるともう太平洋岸からの日本の船はないとのこと、ヴェノスでその船に乗らなければ或ひは島流しになるかもしれないと云はれ、實にあぶないことをして來たものとひやりとしました。

この街は小高い丘の上につくられた近代都市です。リオ・デ・ジャネイロのやうな美しさはあり

ことをして来たものとひやりとしました。

この街は小高い丘の上につくられた近代都市です。リオ・デ・ジャネイロのやうな美しさはありませんが、全くのヨーロッパ式の都會でした。この國はブラジルとアルゼンチンと云ふ二つの大國の間に挟まれた小さな國なのです。産物は殆んどなく牧畜で立つてゐる國ださうで、いろ／＼の物資は歐米から輸入してゐることでした。大國に挟まれた小さな國、私はヨーロッパのスイス國を思ひ出して同情するのです。

夕方、最後の寄港地であるモン・テ・ビデオを出帆したオルノス號は終點のヴェノスアイレスに向ひました。ここからはラプラタ河を溯つて進むのです。船中でモン・テ・ビデオ港から乗り込んだアルゼンチンの役人の検査を受けて下船準備をして床に入りました。

## ヴェノスアイレス

十月二十四日午前八時、ヴェノス・アイレス着、天候は幸ひにも上天氣でありました。朝早く甲板に出て見ますと、船はまだラプラタ河を溯つてゐます。ラ・プラタ（銀と云ふ意味）の名は大へんに美しいですが實際は濁つた泥水です。ヴェノスアイレスと云ふのは「良き空」と云ふ意味ですが、水がきたないため、良い空の感じがあまりしませんでした。ヴェノス・アイレスの市街はもう見えてゐますが船はゆつくりと進んでゐます。それはラプラタ河が奥地から流して来た泥で川底が

低く、大きな船の出入には川の中央を掘つて運河を作り、そこを注意して通らなければならないからです。その運河の兩側にとろろパイがあつて、夜間は燈火がつかますので船はそれを目當にゆつくりと進むのです。

岸壁に着くと間もなく、大阪商船のヴェノスアイレス出張員の見えになつて、日本船に乗船手続きをするからそれがすみ次第また迎へに参りますから、それまでこの船でお待ち下さい、と云つて出て行かれました。晝過ぎ大阪商船の方が迎へに來られたので、手荷物をもつて思ひ出の多かつたカボ・デ・オルノス號から降り、自動車で日本船の碇泊してゐる岸壁に行きました。

おい、見えた、日本の船が、日章旗が、船尾に翻へる日本の旗、舷側にかゝれた日の丸のしるし、異國の港で、平時ならいざ知らず、世界動亂の眞只中に、萬里の波頭を乗り越えて、よくもこゝまで航海して來たものだ、と思ふ感謝の氣持と同時に、これに乗ればもう懐かしい祖國日本へ歸へることが出来るものと思ふ嬉しさで、目頭が熱くなるのをどうすることも出来ませんでした。日本船上に身をおくことが出来て初めて、人並の人間に立ち還れたと云ふ氣持ちでした。日本の船に乗りさへすれば祖國に歸つたと同じであらうと、前から考へてゐましたが、全くその通りで、もう心身ともに自由でした。乗りうつた當初、日本語でいろ／＼の用が足りるのが、むしろ不思議に思つた位でした。日本人の船員、日本文字の注意書等、何から何まで日本式であるのがほんとうに嬉しくて／＼たまりませんでした。

間もなく東京日々新聞の鈴木さん、讀賣新聞の古田さんが見えられたので、御二人の御案内でヴェノス・アイレスの市街を見物することにしました。

間もなく東京日々新聞の鈴木さん、讀賣新聞の古田さんが見えられたので、御二人の御案内でヴェノス・アイレスの市街を見物することにしました。

ヴェノス・アイレス市、こゝは南アメリカのバリーとも云はれるすばらしい都です。近代的な堂堂たるビルディングが立並び、道路は立派な鋪装で、掃除が行き届いてゐるため光つてゐました。

リオ・デ・ジャネイロよりもつと南に下つてゐるので、丁度春の氣候で樹木は新緑で美しく、明るい美しい都です。リオ・デ・ジャネイロは自然の美の都ですが、このヴェノス・アイレスは人工の美の都と云はれてゐます。ある街路などは建物の高さが一定してゐるため、その一隅に立つて見通すと、建物の境目がわからない程、整然としてゐます。南半球の國際都市と稱してゐるだけあつて、街路の名前の中に東京通、大阪通、神戸通等あり、また日本公園の名前の遊園地もありましたのは嬉しかつた一つです。このアルゼンチンは前の世界大戰の時、戦争終了まで中立を守つただけあつて、現在でも南アメリカ隨一の強大國を誇つてゐます。この都の特徴はいろ／＼の文化、衛生等の設備が行届いてゐるため、恐ろしい傳染病が絶対に發生しないことださうです。この一つだけでもヴェノス・アイレス市民は鼻高々で居ると云ふことでした。この市内を一廻りして驚いたことは、又自動車の多いことです。自家用自動車も多いのですが、すばらしい高級タクシー（メーター制）が街路に氾濫してゐます。狭い道路は自動車で行くより、歩いた方が早い位、數が多くてなかなか走れないのです。交通機關は全部で五つ、このタクシーの外に市内電車、地下鐵道、乗合自動



車、圓太郎バスがあります。圓太郎バスはアルゼンチンの日本人がさう云つてゐます。大きさは日本のバスより小型で、一定の路線があつて走つてゐますが、便利なことに乗るときは決つた停留場があります、降りるときには合圖をすれば自分の降りたい場所です。地下鐵道は市の中央から郊外まで四通八達して、どこまでも均一料金です。入口のところは十字の柵があつて、その真中に十錢入れると、四分の一廻轉して一人づゝホームの中に入れるやうになつてゐます。電車は實にきれいで、防音裝置がよく出来てゐるため、やかましい音が殆んどありません。僅かにバンタグラフと架線、及び鐵路のする音が少しばかりするだけです。この設計は廣く外國にまで懸賞募集したさうですが、その一等當選になつた人がアメリカにゐた日本人ださうで、そのためにわざ／＼アルゼンチンまで来て、この工事の監督にあたつたと云ふ話を聞いて、日本のために萬丈の氣をはいて下さつたその人に敬意を表すると共に、日本人の誇りを高く持つことを喜びました。

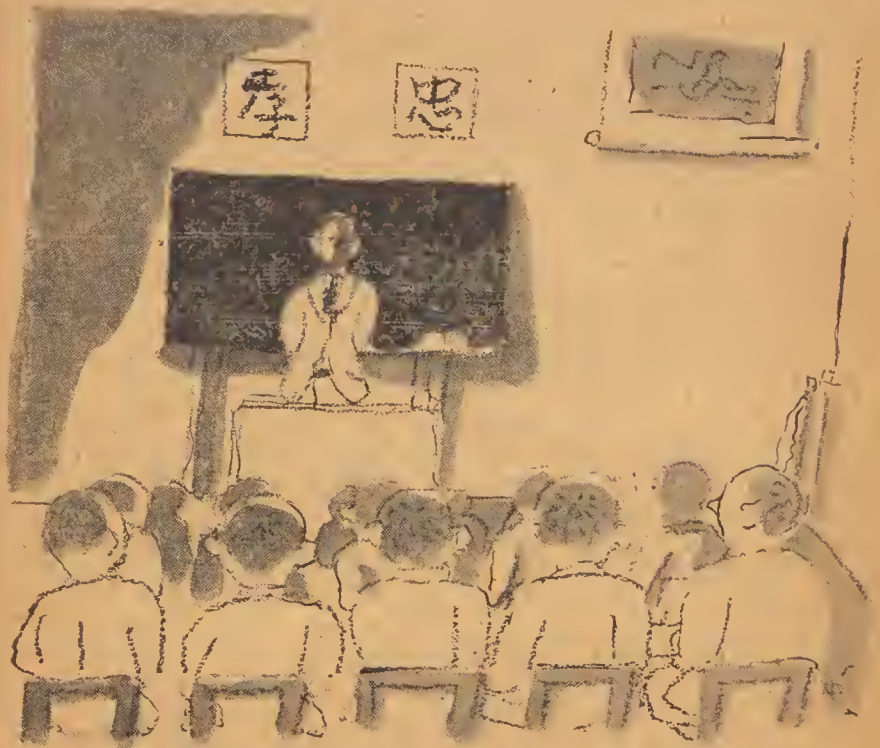
またこの市民のもう一つの誇りは、目下建設中の市の中央を貫ぬく大道路であります。この道路の幅は百五十米と云ふから一寸世界にも珍らしいものでせう。反對側の家が小さく見えたのは驚きました。一部出来上つたこの道路の地下は五千臺の自動車が入るすばらしい車庫があり、一朝有事の際には市民のための防空壕ともなるやうに作られてあるさうです。こうした施設を誇るアルゼンチンにも困つたことがあるのです。それは瓦斯、電氣、電話、水道、交通機關等市民のその日を

の日に缺くことの出来ないものの資金は、殆んどイギリスから出てゐると云ふことです。また大道路の建設費も大部分アメリカから出てゐるのです。アメリカは先づ、南米諸國に道路建設費を貸し

の日に、缺くことの出来ないものの資金は、殆んどイギリスから出てゐると云ふことです。また大道路の建設費も大部分アメリカから出てゐるのです。アメリカは先づ、南米諸國に道路建設費を貸して、道路が出来上つた時自動車賣り、次にガソリンを賣り込んだと云ふことです。この國の資源は未だ何かあるか解らないさうですが、それを開發することはアメリカが喜ばないのです。若し、いろ／＼の産物が出て、この國が一人立ちが出来るやうになつたならば、今よりもつと強くなつて、アメリカの云ふことを聞かなくなるからでせう。ですから、工業はあまり發達してゐません。農業主として牧畜で立つてゐるのです。牧畜は廣い自然のまゝの牧場で放し飼ひにしてゐます。牧場には小屋などはなく、雨が降れば牛や馬は大きな樹の影に避けてゐます。一ヶ所の草を食べ終ると、つぎ／＼に自然の草を追つて行きます。一廻りして來た時分には又前のところの草が生えてゐるのです。牧場主は、時々歸つて來た牛や馬の中から充分に生長したものを賣るだけの仕事しかないさうです。如何に廣いかが解るでせう。桐があつても、時には隣りの牧場の牛などが迷ひ込むことがありますし、また歸つて來た時に子牛や子馬を連れてゐることもあると云ふことです。自然のまゝの放牧ですから體も丈夫ですし、そのためかこの牛肉は世界一おいしいのです。

一廻りしながら、こうした面白い話を聞いて、夕方古田さんの家へ參り、そこで世界一の牛肉を御馳走になりながらアルゼンチンの事情をなほお伺ひしました。

アルゼンチンは面積二百七十九萬七千百餘軒で、日本の約四倍餘りの廣さを有しながら、人口は僅



か一千三百萬人で、もつともつと人を入れてあらゆる事業を起せば立派な國になることは確實だと云ふことです。スペイン系の人種ですが、あまり他國人をさらふことはなく日本人が歩いてゐても、この時世でもなにもないとのこと、そればかりでなく、この都ではドイツの新聞がドイツ語で發行されてゐるのは他の國では一寸見られないことだと話されました。

夕食後、私は日本人會本部へ参りました。アルゼンチンには日本人が六千人餘りゐて、いろいろな事業をして活躍して居られるさうです。この本部の二階は日本人小

學校で、子供達が毎日勉強に来てゐます。部屋は狭いですが、机、腰掛等充分揃つてゐて、その上掛圖や地圖や本など何から何まで、日本の小學校を見るやうな感じでした。日本とは丁度正反對の

學校で、子供達が毎日勉強に來てゐます。部屋は狭いですが、机、腰掛等充分揃つてゐて、その上掛圖や地圖や本など何から何まで、日本の小學校を見るやうな感じでした。日本とは丁度正反對のしかも南半球の異國の空の下で、日本のことを勉強してゐる子供さん達のいぢらしい姿を思ひ、幸多かれと祈らずにはゐられませんでした。このアルゼンチンでは日本語の新聞が二、三出てゐるものもしく思ひました。

この本部で、私は思ひがけなく昔の學校友達に會ふことが出來ました。あまりの奇遇に驚き、明日出帆のため、一所にゆつくり話し合ふことが出來ないのを残念に思ひながらも、他の人々と別れて二人だけになつて夜の街を見物しました。時計は十二時近かつたので、あまり遅くなつてはと思ひ、友人にそのことを話しましたところ、こゝでは十二時はまだほんの宵の口だとのこと、映畫館が終るのは夜中の十二時半、喫茶店の閉店が午前二時、ビヤホールの閉店が午前四時ですから夜のヴェノスはこれからですよと聞かされてびつくりしました。ついでに市民の日常生活を聞いて見ますと、朝食が八時から九時、晝が一時から二時、それから四時頃までゆつくり休んで、また仕事にかゝり、六時頃お茶の時間で、夕食は大體夜の九時頃、それから街に出て、寝るのが午前一時から二時頃だとのこと。ところ變れば品變る、と云ふことですが、どうもこうした生活は、私達日本人にはあまり感心出來ないと思ひます。友人の話によれば、この市民は花を大變に喜ぶさうですが、この草花は殆んど日本人の獨占事業で、毎年新しい品種を出すので市民に大變喜ばれてゐる



さうです。カーネーション、シクラメンその他の草花が店頭にきれいに飾られてあるのを指して、「これは殆んど日本人の農園で作られたものですよ、外國人にはこうした丹念な努力が出来ないので、日本人に獨占されてしまつたのです」と話された時、こゝにも日本人の特徴を見出して、とても嬉しく思ひました。

祖國を遠く離れた幾千里の異境の空を眺めつゝ、逞ましい努力を續ける我が同胞の姿を目のあたりに見て、私は嬉しく思ふと同時に感謝の念で一ぱいでした。そしてその方々の御健康と御幸福をお祈りしながら船に歸へりました。

## 再びブラジルへ

十月二十五日午後三時、私達の乗つた日本の船は、ヴェノス・アイレスを出帆してリオ・デ・ジャネイロに向ひました。私始め二人とこゝから乗船した二人の日本人を乗せて……、たつた一晝夜の滞在でしたがいろいろの思出多いヴェノス・アイレスから、日本人會の方々、鈴木さん、古田さんその他大勢の方の見送りを受けてこの港を去りました。私達は日本の船が今後しばらくは訪れないと思はれるため、當分滞在しなければならない在留同胞の幸福を祈り、また岸壁の同胞は私達の無事を祈つて、お互ひに萬歳を叫び、手を振り、ハンカチを振つて感激のお別れをしたのでした。

濁つたラプタ河を下り、船首を北に向けて一路リオに向ひました。そこで、先にリオ・デ・ジ

ヤネイロで下船して、この船を待つて居られる多くの方々を乗せるために……。

十月二十九日午後二時、リオ・デ・ジャネイロ着。私は思ひがけなく、再びブラジルの土地を踏

ヤネイロで下船して、この船を待つて居られる多くの方々を乗せるために……。

十月二十九日午後二時、リオ・デ・ジャネイロ着。私は思ひがけなく、再びブラジルの土地を踏むことが出来たのでした。こゝでの碇泊は三日間と云ふことでしたので、大阪商船の方にお願ひして、サンパウロ市を訪問するため、上陸の許可と飛行機の切符を買つて頂きました。ブラジルには日本人が二十三萬も居り、その殆んどがサンパウロ州に集つてゐるので、一度行つて見たいと思つてゐたのでした。リオ・デ・ジャネイロ市とサンパウロ市は、丁度東京と大阪の距離があるので、汽車ではとても行けないので、往復とも飛行機を利用しました。南米の鐵道はまだあまり發達してゐませんので、飛行機が非常に發達してゐて、この兩市の間を一日に四回も往復してゐるのです。

### サンパウロ市

三十日午後三時、街の中央、灣内に突出た飛行場を飛び立つて、眼下に自然の美しい市街を見てぐんぐん上昇、大西洋のちりめん模様の海上を走る船を玩具のやうに見るうち、飛行機は高度を増して、ついに二千米の高さに達しました。眼下に見える一面の原始林、大昔からまだ一度も斧を入れた事のない廣大な樹海の上を飛ぶこと一時間四十分で、赤土の廣い飛行場に着陸しました。海拔七百米のこのサンパウロは、リオ・デ・ジャネイロにくらべるとずっと涼しく、大へん住みよいところのやうです。出迎へて下さつた中に私の友人、上野さんがゐて久しぶりの對面に喜び合ひました。夕食は日本人街の「青柳」と云ふ料理屋に呼ばれました。日本文字の看板をかかげた店が、軒

並に立ち並んでゐる日本人街の中程にある家でした。外部の洋風な建物に似ず、中は全部日本作り、畳、障子、唐紙、床の間、縁側等全くの日本の座敷で、庭も日本風、その一隅にお稲荷さんまでまつてありました。やがて出された料理は純粹の日本料理、それを運ぶ女中さんも日本人、味噌、醤油は勿論、ぬか漬のお新香まで出て来るのです。歓迎のために女中さんが和服を着て三味線を弾き、日本の地方民謡を歌つて下さつた時には私の頭は錯覺をおこし、日本にゐる様な

氣がしてならなかつたのでした。それもそのはずです。このサンパウロ市を中心としてこの州全體に約十九萬の我々同胞が生活してゐますので、日本人の手ですべての日本式の食料を作つてゐるからです。

そしてこの街の日本人街にはたくさんの方の日本人の商店があつて、そこに行けばなんでも日本語で用事がたせるのです。

翌早朝、私は大阪商船の方にお願ひして、在留邦人の農民の生活の様子を見るために、自動車走らせて市の郊外



に行きました。ブラジルを訪問した時、このことだけは是非共見たいと思つてゐましたので……。

車は間もなく郊外に出て田舎道を進みました。ところ／＼に人の手にかゝつた畑や、また農家らし

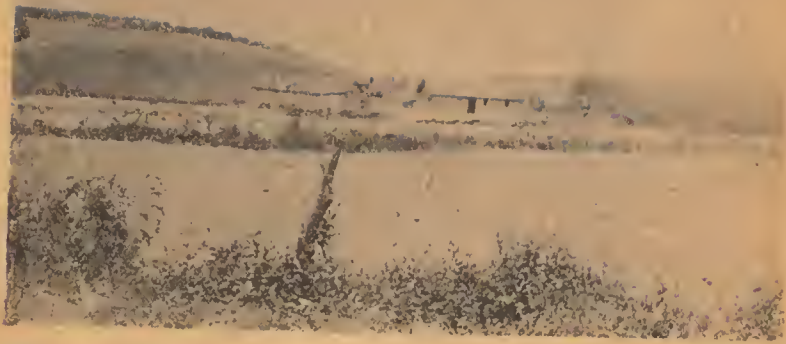
に行きました。ブラジルを訪問した時、このことだけは是非共見たいと思つてゐましたので……。車は間もなく郊外に出で田舎道を進みました。ところ／＼に人の手にかゝつた畑や、また農家らしいさ／＼やかな建物も見えましたが、大部分は草ぼう／＼の荒地でした。まだ未開發の土地が多いのです。一時間ばかり走つた頃、畑らしい土地に、若い婦人が三歳位の子供を連れて鋤を動かし、その近くに一人の男が立つてゐるのを見かけました。どうも日本人らしいので、車を降りて聲をかけるとやはりさうでした。煉瓦を積み重ねた廣い家の中は殆んど土間で、テーブルも椅子も手作りのものらしく、荒壁でしきつた隣室には手作りのベットがありました。

しかし、テーブルのある部屋の壁に 兩陛下の御寫眞と、この方の御兩親の御寫眞とがかざられそのわきに支那事變獻金に對する我が大藏大臣の感謝狀が額になつてかゝつてあるのを見て、私はふと目頭の熱くなるのをおぼへました。

畑には馬鈴薯が立派に出来てゐますし、鶏、豚、馬等がゐて、かなりの土地を耕やしてゐるやうでした。私は前に聞いてゐた「奥地にゐるお百姓さんが一日の仕事で疲れはて、薄暗い寢室のベツトにいきなり身を横へると、それより先にそこに來て、と／＼を卷いてゐた毒蛇に食ひつかれて死んだことがあります。」と云ふ話を思ひ出して、都會に近く、そして隣り近所のあるこの附近では毒蛇はゐないでせうが、この方の努力でもつと住みよい家にするやう祈るのです。もう一軒お尋ねしましたがやはり同じやうな生活をしてゐました。勿論、大きな農場を經營し「ブラジル人を



ブラジル在留邦人の農家



大ぜい使つてコーヒー、棉、その他の農産物を大々的に作つてゐる日本人もたくさんあるのですが、残念なことに時間がなくて、その農場をお尋ねすることが出来ませんでした。飛行場に向ふ自動車のなかで「家は粗末でも畑がきちんと綺麗に作られてあるのを見たとき、それは日本人の農家だと思つて間違ひはありません」と聞かされて、大へん嬉しく思ひました。

午前十一時、サンパウロ飛行場發の旅客機に駆け込むやうにして乗り、あわただしいサンパウロ訪問を終へて、リオ・デ・ジャネイロに向ひました。

## ブラジルの事情

ブラジル國は日本の面積の約二十二倍で、人口は二十億を收容することが出来るさうですが、現在は四千萬人ださうです。主としてポルトガル人によつてつくられた國なので、その人々がこの國の中心をなしてゐます。面積が廣い上に未開

發の土地が多いので、政府は世界各國の移民を國內に入れて、この廣い土地の開発をはかつたのです。現在各國の移民のうちイタリー人が約百萬人、ドイツ人が七十萬人、日本人が二十三萬人ゐる

發の土地が多いので、政府は世界各國の移民を國內に入れて、この廣い土地の開發をはかつたのです。現在各國の移民のうちイタリヤ人が約百萬人、ドイツ人が七十萬人、日本人が二十三萬人ゐるさうです。廣大なこの國の鐵道は主要幹線がたつた一本なのを見ても、未開發の土地がどれだけあるかおわかりでせう。國內を十一の州に分け、各州毎でその州を治め、それをブラジル政府が統率してゐるのです。そのうちの一州であるサンパウロ州が國內でもつとも發達してゐて、ブラジル國の豫算の六割をこの州が出してゐるのです。そしてブラジル國民の食糧の大部分がこの州で產出されます。ブラジル在住の日本人二十三萬のうち、十九萬人がこの州で働いてゐます。そしてそれ等の人々はサンパウロ市の附近では主として野菜、奥地では棉、コーヒー等を作つてゐます。

日本人が入り始めてから、農作物がよく出來るやうになつて來たさうで、同胞がこうした方面にも優れた才能をもつてゐる證據です。グルガス大統領や農林大臣（この方はもとサンパウロ州の長官でありました）等は、日本人の功績を充分認めてゐるさうです。サンパウロ市の野菜市場の馬鈴薯の値段は日本人の手によつて、その日／＼の相場が定まるとのこと、また奥地のコーヒー園は、邦人經營のものは他の所のものと違つて、コーヒー樹が伸々と高くなり葉が繁茂して一目でそれと解るとのこと、逞ましい邦人の努力に感謝せずには居られません。サンパウロ州だけでも日本人の學校が四百五十、邦字新聞が五種あつたのですが、この九月に全部廢止されてしまひました。その理由は、グルガス大統領がブラジル國精神を打ち立てやうと努力してゐるとき、國內に於て幼少年



に他國の言葉

を教へたり、

他國の精神を

打ち込むやう

な印刷物を發

行したりする

ことは、ブラジル

國のためによく

いと云ふことで、

これは日本人に對して

ばかりではなく、イタ

リー、ドイツその他の各國の

移民に對しても同じやうに取

りあつかはれたのです。五人

以上の子供を集めて何か教へても、

それを學校と見なされ罰せられるの

ださうです。

こうしたことはなにかから來てゐるのでせう。日本人の功績を充分知つてゐる大統領が、日本人に

對しても、このやうな處置を取らなければならなくなつたことは、その背後にアメリカの力がぐん

ださうです。

こうしたことはなにかから來てゐるのでせう。日本人の功績を充分知つてゐる大統領が、日本人に對しても、このやうな處置を取らなければならなくなつたことは、その背後にアメリカの力がぐんと、のしかゝつてゐるからです。獨立國とは云つても資源は未開發、現代の生活になくしてはならない鐵、石炭、石油等殆んどアメリカから入つてゐるのです。またアメリカから今までに一億七千萬弗のお金を借りて、いろ／＼の仕事をしなければならぬ事情にあるこの國は、アメリカの言ふことを聞かなければどうすることも出来ないのです。一例をあげれば道路を造らせ、自動車を賣り、ガソリンを賣つてゐるため、言ふことを聞かなければ、ガソリンが入つて來ない。さうすれば交通機關は停つてしまふことになるからです。アメリカの言ふことを聞いて、コーヒーを賣り、石油・石炭を買ふより方法がないのです。私達はたゞブラジルを惡く思ふばかりでなく、アメリカのやり方を憎み、この國に同情すべきだとも考へられます。

ブラジルと云へば、すぐにコーヒーと棉を思ひ浮かべます。なんと云つてもブラジルコーヒーは世界的に有名です。コーヒーの樹は高さは色々あつて、高いのになると人の丈よりはるかに超へるものもあります。枝は細く真直で、葉と共に桑の木のやうな感じがします。木の壽命は三十五年から四十五年が普通ださうです。地面に小さいたての穴を掘り、その中に種子を投げ込んでおくと間もなく芽が出て、それから四年たつて實を結び始め、六年目からコーヒーを取ることが出来るやうに



なりません。このコーヒー樹を仕立てるための労働者を、やとい入れる約束をコロノと云ひますが日本人の移住者で、裸一貫でブラジルに渡り、成功して農場を經營するやうになつた人の大部分は、このコロノ労働者から叩き上げたのださうです。コーヒーの實をとるのには一定の時期があつて、早くても遅くてもいけないのです。一枝にみつしりについてゐる多くの實を見ると、緑色の未熟なもの、紅色の半熟なもの、暗紅色の成熟なもの、また黒くなつたものがありますが、その中で暗紅色のものが一番よく、これを撰り分けて摘みとつたのが、最もよい品質のコーヒーになるのです。しかし、労働力の不足してゐるブラジルでは、そうしたことをやつてゐたのでは間に合はないので、一枝についてゐる實をわけずに全部しごいて取るのだと云ふことです。現在ではコーヒーの輸出があまりなく、そのため政府では生産を制限したり、國家で買ひ上げて海へ捨てたり、石炭がはりに燃やしたりしてゐると云ふことでした。しかし、現在はコーヒーの利用について盛んに研究してゐるさうです。そして、コーヒーから机や椅子が出來ると云ふことを聞きました。ブラジル人がコーヒーを飲むのは、日本人がお茶を飲むのと同じで、その方法は小さなコーヒー茶碗に砂糖をその半分程入れ、どろどろに濃いコーヒーをついで、かきまわさずにそのまま飲むのです。後に砂糖が三分の一程残つても、かきまわすとコーヒーの本當の香りがなくなつてしまふと云つてゐます。

コーヒーについて重要な産物は棉ですが、この國の棉は世界で第二の品質をもつてゐます。棉の

良否を決めるのは、棉を指先でしごいて、筆の穂先のやうにした纖維の長さを計るのださうです。南米ペルー産のものが最もよく三四から三六ミリ、ブラジルが二八ミリ、米國が二七ミリ、印度

良否を決めるのは、棉を指先でしごいて、筆の穂先のやうにした  
繊維の長さを計るのださうです。南米ペルー産のものが最もよく  
三四から三六ミリ、ブラジルが二八ミリ、米國が二七ミリ、印度  
が二四ミリ、支那は一六ミリださうで、ペルー棉が最  
上で、支那棉が最悪であります。これ等には日光、雨  
量等のいろいろのことが影響することは  
勿論です。南半球のこの國では、棉花の  
取れる時期は四月から六月、北半球北米  
支那、印度、等は十一月頃なので、北半  
球で棉が取れない時期に南米では取り入  
れて輸出することが出来るのです。

## 南アメ

リカと云  
へば、ま  
だ日本人  
の間には



アスファルトのやうな色の黒人が大地の上で裸で寝そべつてゐる。そして黒人達は熱帯産の果實を食べては寝てばかりゐる等と云つてゐる人もありますが、認識不足も甚だしいと思ひます。勿論リオ・デ・ジャネイロには黒人が多いことは確かであります。しかし裸の黒人は一度も見ませんでしたし、また裸ではいられないのです。暑いブラジルでさへ、盛夏の候でもこの國の人はお行儀がよいのです。サンパウロの奥地の田舎列車の一等車の中で、或る日本人がアメリカ式に上衣を脱いでゐたところ、車掌さんに注意されたと云ふ話を聞きました。まして首府であるリオ・デ・ジャネイロで、街路で上衣を脱いでゐる人に一人も會はなかつたのは當然なことです。

南の國は暑いところと一般に考へてゐます。暑いところと云ふことは、原始の生活とか、文化が低いと云ふことのやうに考へますが、大きな間違ひです。私の訪れたリオ・デ・ジャネイロは相當に暑いですが、サンパウロやヴェノスアイレス等は實に住みよいところです。日本のやうに春夏秋冬がありますが、暑いと云つても内地のやうな蒸し暑さとは違つて、氣候爽快であり暑氣を感じない程でした。サンパウロへ参りますとき注意されて、メリヤスのシャツを持つて参りましたが、それを着て丁度よかつた位です。

南アメリカ大陸の地勢はアマゾン、オリノコ、ラ・プラタの三大河の流域にあつて、大體山地または高原地方と云つてよいでせう。けれども、南米即ちアマゾン河、そしてそこには熱帯樹の原始林、珍らしい果實、毒蛇や人を食ふ鰐魚、マラリヤ熱そして土人と云ふ見方を、全然かへなければ

ならないと思ひます。勿論、まだ未開發の奥地はさうした状態ですが、世界的の文化都市、傳染病のない都ヴェノス・アイレスや世界三大美港の一つ、自然の公園とも云ふべきリオ・デ・ジャネイ

ならないと思ひます。勿論、まだ未開發の奥地はさうした状態ですが、世界的の文化都市、傳染病のない都ヴェノス・アイレスや世界三大美港の一つ、自然の公園とも云ふべきリオ・デ・ジャネイロ等の立派な都があること、また前大戰であくまでも中立を守り續けたアルゼンチンのやうな立派な國家があることを、はつきりと知ることが大切なことです。そして丁度日本と反對の位置にあるこの南アメリカに萬里の波頭を乗り越へて、はる／＼と渡航し、南十字星の下で日本のため活躍をして居られる幾十萬の同胞のあることを片時も忘れてはならないと思ひます。

## なつかしの祖國へ

十一月一日午後二時、三十人の船客を乗せた日本の船は、一路祖國日本を指してリオ・デ・ジャネイロを出帆しました。日本までどこにも寄港しないで……。こゝでも當分滞在しなければならぬ在留同胞の盛大な見送りを受け、船上と岸壁とで力の限り萬歳を叫びながら、感激のお別れをしました。船は一路南へ南へと進んで行きます。今度は全部が日本人なので、船中も誠にのんびりとした航海が續きました。

十一月三日、大西洋上で全員が集つて遙か東方を拜し、嚴肅な明治節遙拜式を致しました。船は南十字星を船首に仰いで更に南に向ひ、十一月八日南アメリカの最南端、そしてまた地球上、陸地の最南端である、ケープホーンを通過して太平洋に出ました。この附近は南氷洋から押し寄せる寒流



と、南アメリカの太平洋岸を下る暖流とのぶつかるところで、常に暴風と巨浪があるので、船乗りの一番難かしい場所とされてゐます。私達の通過したときも海面は巨大な三角波が荒れ狂ひ、空は雪が降り出したと思ふと間もなく陽が輝き、と思つてゐる間に雹が甲板をたゞきつける、と云ふ状態で、船は前後左右にゆれて、まるでまかれてゐるやうでした。横の傾斜が三十度、甲板を歩くのにも、つかまつて歩かなければ轉ろがされてしまひます。大きな波が船側にぶつかり、時には甲板を洗ひ去つて、その壯觀は實にすばらしいものです。リオ・デ・ジャネイロを出帆してから日本につくまで、陸地を見たのはこゝ一個所だけ、あとは明けても暮れても空と海ばかり。夜になると皆で南十字星を眺めたり、南半球の星が次第に海上から姿を消し、それに變つて北半球の見なれた星が次第に現はれてくるのを楽しみ合ふのでした。さうした變化のない航海中、時々私達の目をなくさめてくれたものは、ケープホーン附近の鯨の群、太平洋上の飛魚、いるかの大群と夜光蟲などでした。――

十二月八日朝、ウエーキ島のはるか南の洋上を通過、日本の勢力内に近づきつゝあるのを喜び合つてゐました、その日の午後、日米英會戰のニュースが入りました。我が海軍はハワイ、マニラ、シンガポール、ウエーキ島等を爆撃、大成功を収めたとの報道、ウエーキ島の附近を通過したばかりの私達一行は、よくやつて下さつたと思ふ一方、一つの不安が起りました。米英の飛行機、軍艦、或ひは潜水艦等に發見され、ばもう最後ですから。舷側の日の丸のマークも黒に塗りつぶされ、救

命ボートはいつでも降ろされるやうに用意し、夜、甲板で煙草をのむことも禁ぜられる完全な燈火管制下に、たゞ神助を祈つて太平洋を突破しました。十四日伊豆七島を通過したとき、わが海軍の

命ボートはいつでも降ろされるやうに用意し、夜、甲板で煙草をのむことも禁ぜられる完全な燈火管制下に、たゞ神助を祈つて太平洋を突破しました。十四日伊豆七島を通過したとき、わが海軍の哨戒機が、わざ／＼私達の船のまわりを低空飛行して下さつた時の感激は、今思ひ出しても何にも例へやうもない程でした。

祖國日本に無事歸着、港の沖合で碇泊したその晩、甲板からはるか京濱地方を見た時、完全な燈火管制下にあるものと思つた私は、ポーツと明るく港の燈まではつきりと眼にうつた喜びは例へようありませんでした。上陸して見た祖國日本の變らない姿、敵をも怖れぬ悠々たる姿を見て、神國日本のありがたさをしみ／＼と感ずるのでした。

## 戦ふ獨伊の少年終

## あ　と　が　き

本書出版については昨年四月頃ワット社の西村氏から交渉を受け戦争下の特にドイツとイタリーの少年少女の鍊成振りについて詳しく書くやうにとの話でしたが、私としては獨伊のみでなく經由した各國の事情、ことに大東亞戦争になつてからの世界情勢の變化から、出来れば南米の事情まで書いて少國民のために、幾分でも貢獻出来ればと思ひ、西村氏の了解のもとに足跡を印した各國の事情まで書いたため、ドイツ、イタリーについて深く書くことが出来なかつたのを遺憾に思つてゐます。起稿してから種々の事情で遅れ／＼になり遂に昭和十七年も終る頃やつと書き終る始末、筆無精の私にはとにかく大きな仕事でした。そのため西村氏には少なからず御迷惑をおかけしましたことをこゝで深くお詫び申し上げますと同時に、その間少しも怒らず私の我儘をいつも受入れて下さつたことを厚く感謝致します。拙ない私の著書が戦時下の我國の少國民に幾分でも裨益するところがあれば、望外の喜びとするところです。この出版についてもつとも残念なことは、トランク一杯につめた獨伊の貴重な資料・寫眞及パンフレット類を、英領トリニダット島で英官憲が敵國の宣傳材料を持ち歸へることは許されないとの理由で全部押収されてしまつたことでした。そのため記憶によつてまとめたこと故、不備の點が多々あることを御詫び致します。

終りに臨み、ドイツ大使館のベルゲル女史及び森氏、伊太利研究の大家下位春吉氏、東京工業大學教授の防空建築研究の泰斗、田邊平學氏の各位が貴重な寫眞及び資料を御提供下さつたことを深く感謝致します。尙挿畫及び裝幀について衛藤忠臣氏が少ない資料から苦心してまともな上げて下さつたことを御報告と同時に厚く御禮申し上げます。

山　田　民　郎

盟邦めぐり  
少年の伊獨ふ戦

出文協承認あ120105號

印 檢 者 著



昭和十八年三月十日印刷  
昭和十八年三月十五日發行

(三、五〇〇部)

⑬ 定價壹圓六拾錢

著 者

山田 民郎  
やま たみ らう

發 行 者

西 村 愛  
さい むら あい  
東京市麴町區飯田町一丁目十六番地

印 刷 者  
(東京)

寺井 藤左工門  
てら い とうざ ぐもん  
大日本印刷株式會社  
東京市牛込區榎町七番地

發 行 所

ワット 社出版部  
わっと しゃ さんぱんぶ  
東京市麴町區飯田町一丁目十六番地

會員番號一四四〇〇二番  
振替東京一八二二九番

配 給 元

日本出版配給株式會社  
東京市神田區淡路町二丁目九番地

(大日本印刷株式會社榎町工場印刷)



海軍造船大佐

牛尾平之助著

# 軍艦讀本

定價 六判 一九〇頁  
送料 拾貳錢

文部省推薦圖書

青芝港二著

# 子供の電氣

定價 五判 一六四頁  
送料 拾貳錢

武田雪夫著

# 大陸の姿

少年少女旅だより

華北の卷  
華中の卷

定價 五判 一二四頁  
送料 拾貳錢  
定價 五判 一六頁  
送料 拾貳錢

近刊 宮本晃男著

# 飛行機が出来るまで

定價 五判 二〇〇頁  
送料 拾貳錢

電氣獎勵館々長

小川榮次郎著

# 炊事と火

定價 六判 二二二頁  
送料 拾貳錢

三菱經濟研究所

北久一著

# 電氣料金の基礎理論

定價 六判 一九六頁  
送料 拾貳錢

刊 部 版 出 社 ト ツ ワ